

第476図 第2912号土坑・出土遺物実測図

第2914号土坑 (第477図)

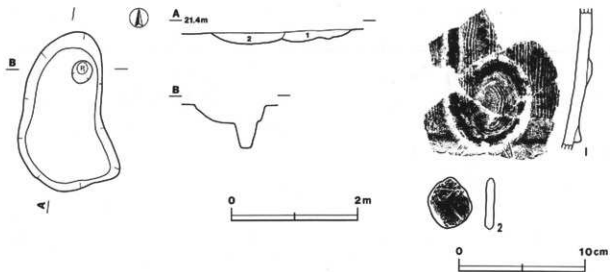
位置 調査区の東部, C14e4区。

規模と平面形 長径2.54m, 短径1.25mの不定形で, 深さは28cmである。

長径方向 N-8°-E

壁 緩やかに立ち上がる。

底 皿状である。



第477図 第2914号土坑・出土遺物実測図

ピット 1か所。P₁は北側に位置し、径35cmの円形で、深さは40cmである。

覆土 2層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片34点、土器片円盤1点が出土している。第477図2の土器片円盤は覆土から出土している。1は深鉢の胴部片で、隆帯により蕨手状文を施し、条線文が充填されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第2914号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第477図2	土器片円盤	4.1	3.5	0.7	(13.0)	95	無文。	DP36 覆土

第2918号土坑 (第478図)

位置 調査区の東部、C14c9区。

規模と平面形 径1.90mの円形で、深さは54cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 5層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

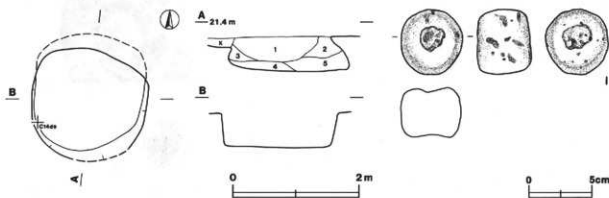
- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 5 褐色 ローム大ブロック微量

遺物 縄文土器片14点、磨石1点が出土している。第478図1の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、土坑の形態と出土遺物から縄文時代と考えられる。

第2918号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第478図1	磨石	5.2	4.9	4.3	(128.0)	安山岩	Q32 覆土 凹石専用



第478図 第2918号土坑・出土遺物実測図

第2920号土坑 (第479図)

位置 調査区の東部, C1411区。

重複関係 第2919号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.22m, 短径 [1.03] mの楕円形と推定され, 深さは46cmである。

長径方向 N-15°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

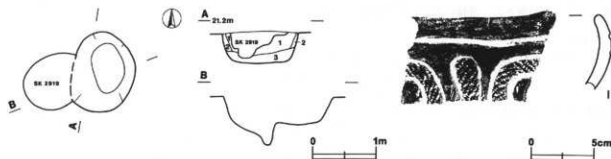
覆土 3層に分層され, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | 炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 縄文土器片17点が出土している。第479図1は深鉢の口縁部片である。口縁部に沈線が施され, 沈線による区画文を施し, RLの単節縄文を充填している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第479図 第2920号土坑・出土遺物実測図

第2927号土坑 (第480図)

位置 調査区の東部, C1310区。

規模と平面形 長径1.47m, 短径1.21mの楕円形で, 深さは25cmである。

長径方向 N-86°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

ピット 2か所。P₁は南東壁際に位置し, 径55cmの円形で, 深さは106cmである。P₂は西側に位置し, 径38cmの円形で, 深さは63cmである。

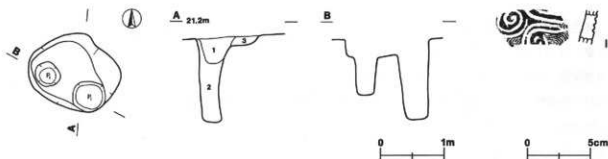
覆土 3層に分層され, 堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|----|---------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 縄文土器片147点が出土している。第480図1は深鉢の胴部片で, 蕨手状の沈線及び半截竹管による刺突文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期と考えられる。



第480図 第2927号土坑・出土遺物実測図

第2931号土坑（第481図）

位置 調査区の北東部，B15f4区。

規模と平面形 径2.10mの円形で，深さは42cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

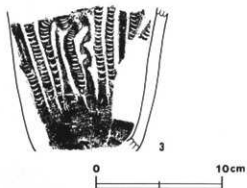
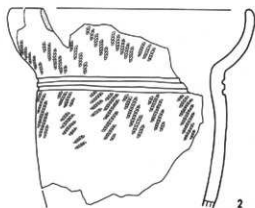
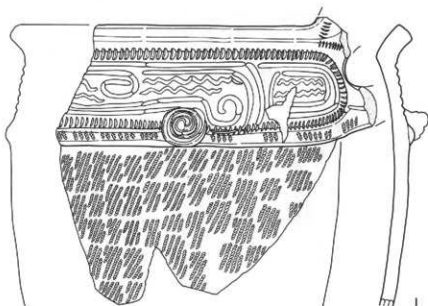
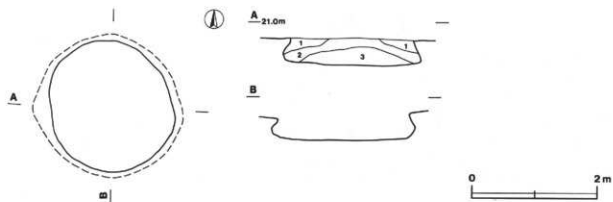
- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 縄文土器片43点が出土している。第481図1・2の深鉢の胴部から口縁部の破片及び3の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中鉢式期）と考えられる。

第2931号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第481図 1	深鉢 縄文土器	A (26.0)	胴部から口縁部の破片。胴部上位でわずかに内彎する。口縁部と胴部は、突起をもつ把手からつながる隆帯で区画されている。隆帯に沿って乱形文を施し、山形沈線文及び沈線による渦巻文が施されている。胴部にはR Lの草部縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P152 20% P L63 覆土 中鉢式
		B (22.9)			
2	深鉢 縄文土器	A (19.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。R Lの草部縄文が施され、胴部に2本の沈線を巡らしている。	砂粒・長石 に灰い赤褐色 普通	P153 10% P L63 覆土 中鉢式
		B (15.6)			
3	深鉢 縄文土器	B (11.4)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には壺垂文、蛇行沈線文及びギザミをもつ隆帯が施されている。	砂粒 明赤褐色 普通	P154 10% P L63 覆土 中鉢式



第481図 第2931号土坑・出土遺物実測図

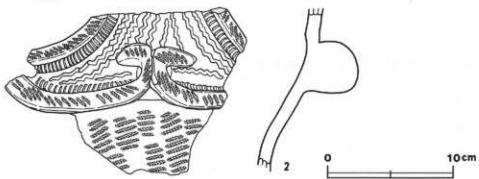
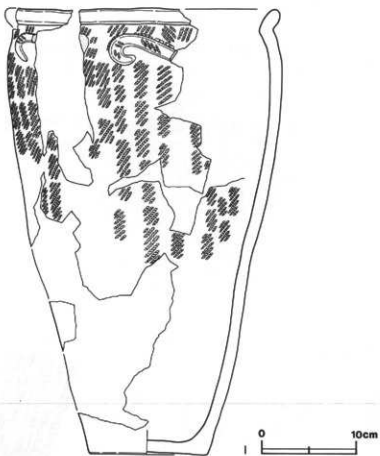
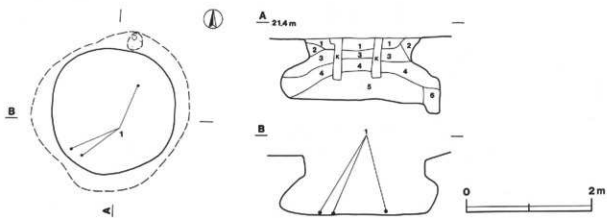
第2932号土坑 (第482図)

位置 調査区の北東部, B15 a s 区。

規模と平面形 径2.02mの円形で, 深さは93cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。



第482图 第2932号土坑·出土遗物实测图

覆土 5層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小アロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量、第5層より粘性がない

遺物 縄文土器片112点が出土している。第482図1の深鉢は底面から出土している。2の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中幹式期）と考えられる。

第2932号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 ビ 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第482図 1	深 鉢 縄文土器	A 28.9 B 48.6	円筒形。地文はR Lの単節縄文で、口縁部に同じ縄文の施された隆帯が横S字状に貼り付けられ、隆帯に沿って結節状縄文が施されている。	砂粒に ぶい褐色 普通	P156 50% PL63 底面 中幹式併行
2	深 鉢 縄文土器	B (13.3)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。波状口縁を呈し、下方に突出する隆帯で口縁部と胴部を区画している。隆帯に沿って爪形文が施され、区画内には山形沈堀文が施されている。地文はR Lの単節縄文である。	砂粒・長石・石英・ 雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P157 5% PL63 覆土 阿玉台Ⅱ式

第2934号土坑（第483図）

位置 調査区の北東部、B15 a2 区。

重複関係 第2933号土坑を掘り込んでいる。北西部で第2954号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

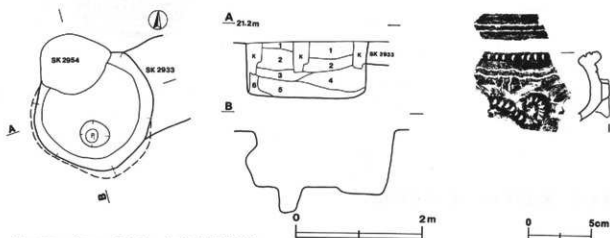
規模と平面形 径1.55mの円形で、深さは86cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P1は南側に位置し、長径46cm、短径39cmの楕円形で、深さは43cmである。

覆土 6層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。



第483図 第2934号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中・大ブロック微量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム小・中・大ブロック少量 |
| 6 褐色 | ローム小・中ブロック少量 |

遺物 縄文土器片60点が出土している。第483図1は深鉢の口縁部片で、キザミをもつ隆帯が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中幹式期）と考えられる。

第2937号土坑（第484図）

位置 調査区の北部，B13j0区。

規模と平面形 長径1.37m，短径1.22mの楕円形で，深さは98cmである。

長径方向 N-7°-E

壁 袋状である。

底 平坦である。

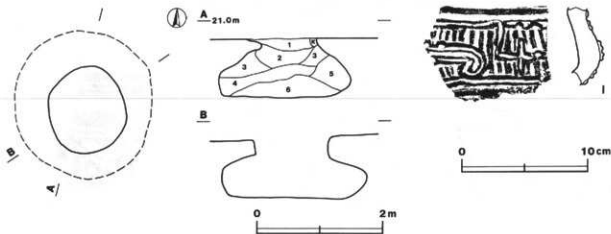
覆土 6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量、炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 縄文土器片62点が出土している。第484図1は深鉢の口縁部片で，沈線をもつ隆帯により蕨手文，クランク文が施され，地文として縦位の沈線が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



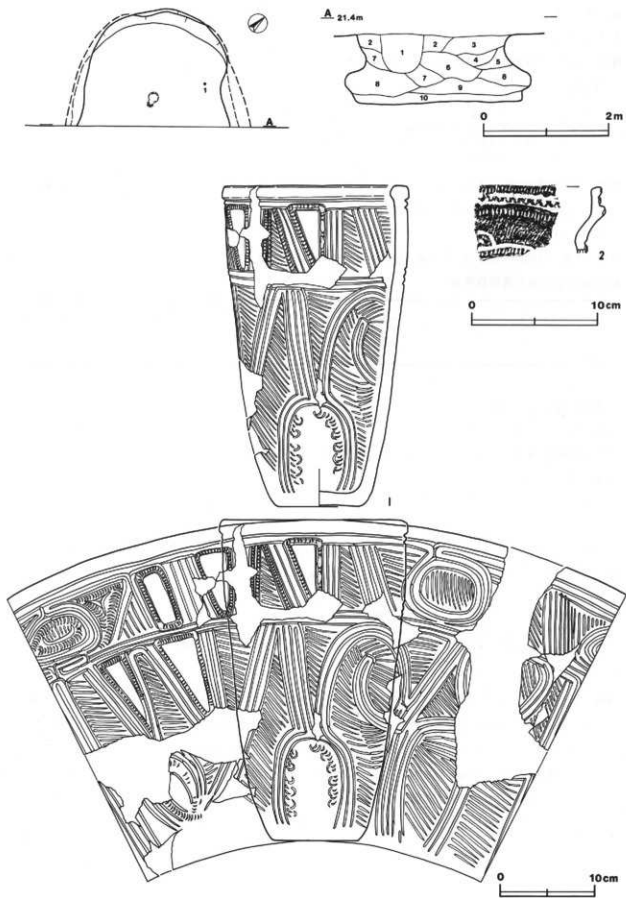
第484図 第2937号土坑・出土遺物実測図

第2939号土坑（第485図）

位置 調査区の北東部，B15c2区。

規模と平面形 長径(2.80)m，短径(2.40)mの楕円形と推定され，深さは108cmである。

長径方向 N-73°-W



第485图 第2939号土坑·出土遗物实测图

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 10層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、第1層は発見の可能性がある	6 黒褐色	ローム粒子・炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒少量	8 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土ブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子中量	10 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片97点、人骨が出土している。第485図1の深鉢は底面から出土している。2は深鉢の口縁部片で2本の沈線間に交互刺突文が施され、キザミをもつ隆帯が貼り付けられている。人骨は頭蓋骨で、覆土下層(第10層)から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉(勝坂Ⅱ式期)と考えられる。

第2939号土坑出土遺物観察表

図表番号	形 状	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・産地	備 考
第485図 1	深 鉢 縄文土器	A 19.4	円錐形である。2段の文様帯を構成する。文様はキザミをもつ隆帯及び沈線によりモチーフを描いている。	砂粒・長石・当麻に多い褐色 黄褐色	P128 70% P163 近所 勝坂Ⅱ式
		B 33.7			
		C 9.4			

第2945号土坑(第486・487図)

位置 調査区の南東部、C14f5区。

規模と平面形 長径2.43m、短径1.84mの楕円形で、深さは102cmである。

長径方向 N-69°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P1は北西側に位置し、長径42cm、短径34cmの不整楕円形で、深さは12cmである。

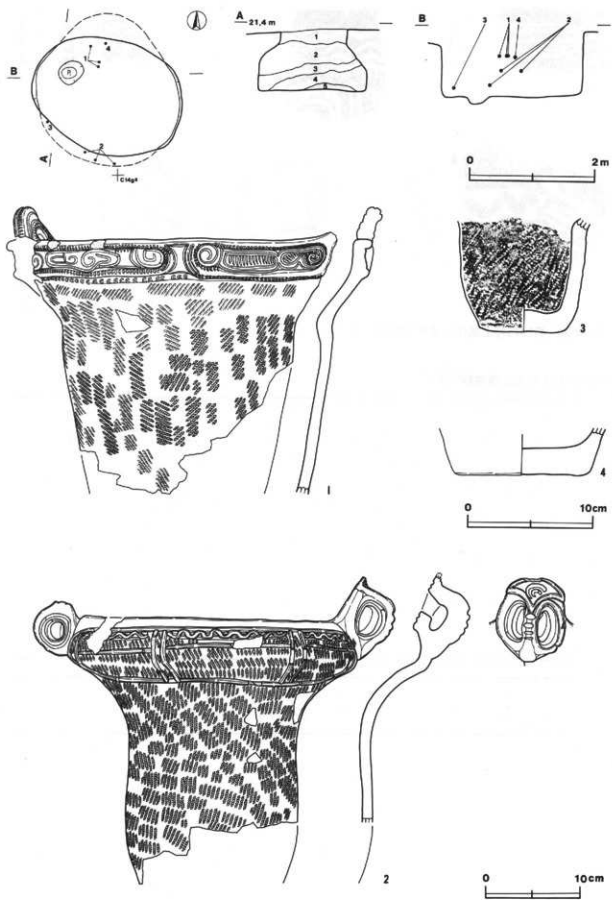
覆土 5層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

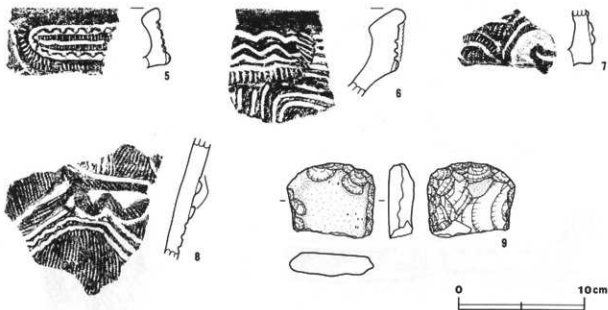
1 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
2 黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量・焼土粒子・炭化物少量
3 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
5 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量

遺物 縄文土器片337点、打製石斧1点が出土している。第486・487図1・2の深鉢、3の深鉢の底部から胴部の破片、4の深鉢の底部片及び9の打製石斧は覆土中層から下層にかけて出土している。5～7は深鉢の口縁部片である。5はキザミをもつ隆帯による楕円区画内に、交互刺突文が施されている。6はキザミをもつ隆帯による区画内に、波状沈線が施されている。7はキザミをもつ隆帯が施されている。8は深鉢の胴部片である。8はR.Lの単節縄文を地文に隆帯及び沈線が施され、隆帯には同じ縄文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉(中野式期)と考えられる。



第486图 第2945号土坑·出土遗物实测图(1)



第487図 第2945号土坑出土土遺物実測図(2)

第2945号土坑出土土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第486図 1	深鉢 縄文土器	A 32.5 B (30.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は外増し、口縁部は外反する。口縁部に把手を有する。口縁部にはキザミを有する隆帯で区画され、区画内に沈帯による渦巻文が施されている。胴部にはLの無節縄文とR Lの単節縄文とL Rの単節縄文が施されている。	砂粒・長石 におい褐色 普通	P159 80% P L64 覆土 中幹式
2	深鉢 縄文土器	A 26.0 B (32.6)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で、口縁部に2単位の縦線状把手を有する。口縁部はR Lの単節縄文を地文に、粗く貼り付けられた隆帯で区画され、区画内には交互斜交文が施されている。地文はR Lの単節縄文である。	砂粒・長石・ スコリア におい褐色 普通	P160 80% P L64 覆土 中幹式併行
3	深鉢 縄文土器	B (9.2) C 6.6	底部から胴部の破片。胴部は、ほぼ垂直に立ち上がる。地文はR Lの単節縄文である。	砂粒・石英・雷母・ スコリア におい赤褐色 普通	P161 30% P L65 覆土
4	深鉢 縄文土器	B (3.8) C 10.6	底部片。厚みのある底部である。	砂粒・長石・ スコリア 灰褐色 普通	P176 5% 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第487図 9	打製石斧	(7.0)	5.9	2.1	(122.0)	安山岩	Q33 覆土

第2946号土坑（第488図）

位置 調査区の東部，C14e4区。

規模と平面形 長径1.76m，短径1.19mの楕円形で，深さは46cmである。

長径方向 N-68°-E

壁 緩やかに立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 2層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

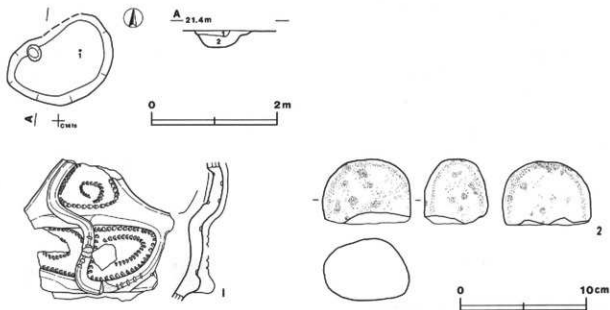
- | | |
|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム大ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 縄文土器片35点，磨石1点が出土している。第488図1の深鉢の口縁部片及び2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第2946号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考		
第488図 1	深鉢 縄文土器	B (11.3)	口縁部片。山形状の把手を有し，把手に渦巻状の結節沈線文及び隆帯が施され，底状に口縁部につながる。把手裏側には結節沈線文が円形に施されている。口縁部には隆帯に沿って結節沈線文が楕円形状に施されている。	砂粒・長石・雲母にふい赤褐色 普通	P182 5% P L65 覆土 阿玉台Ⅱ式		
図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第488図 2	磨石	(7.0)	5.0	5.1	(235.0)	安山岩	Q34 覆土



第488図 第2946号土坑・出土遺物実測図

第2952号土坑（第489図）

位置 調査区の東部，C14c3区。

重複関係 第500号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.18m，短径1.04mの楕円形で，深さは84cmである。

長径方向 N-67°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 段状である。

覆土 2層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

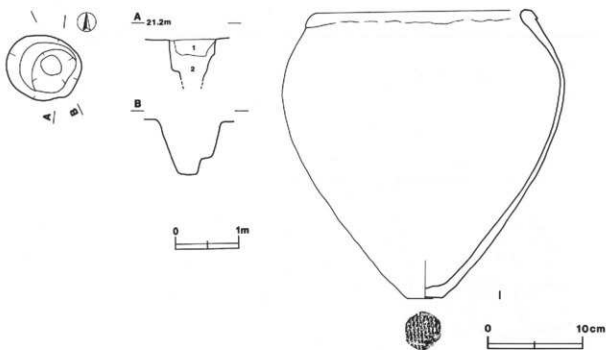
- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
 2 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 縄文土器1点が出土している。第489図1の深鉢は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行1・2式期）と考えられる。

第2952号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第489図 1	深鉢 縄文土器	A 23.1 B 30.4 C 3.8	底部は小さく，口縁部は内傾する。口唇部は肥厚している。無文である。	砂粒・パミス・スクリアに多い褐色普通	P163 50% P L65 覆土 安行1・2式



第489図 第2952号土坑・出土遺物実測図

第2954号土坑 (第490図)

位置 調査区の南東部, B15 a2区。

重複関係 南側部分で第2934号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.05mの円形で, 深さは104cmである。

壁 はほぼ垂直に立ち上がる。

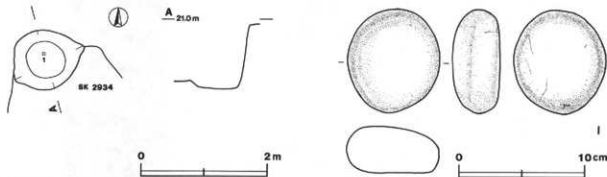
底 平坦である。

遺物 磨石1点が出土している。第490図1の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代と考えられる。

第2954号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第490図1	磨石	8.3	7.4	3.8	(336.0)	花崗岩	Q35 覆土



第490図 第2954号土坑・出土遺物実測図

第2960号土坑 (第491図)

位置 調査区の北東部, B15 a3区。

規模と平面形 長径1.83m, 短径(1.11)mの楕円形と推定され, 深さは72cmである。

長径方向 N-5°-E

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 7層に分類され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 焼土中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

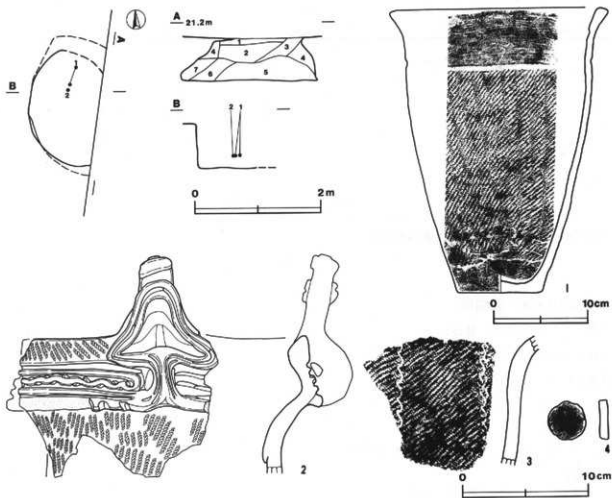
遺物 縄文土器片89点, 土器片円盤1点が出土している。第491図1の深鉢, 2の深鉢の口縁部片は覆土下層から出土している。3は深鉢の胴部片で, R Lの単節縄文が施されている。4は土器片円盤である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。

第2960号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第491図	深鉢 縄文土器	A 23.5 B 30.0 C 9.0	口縁部は外反する。口縁部と胴部は沈線で区画され、口縁部は無文等としている。胴部にはR Lの単節縄文が施されている。	砂粒 にふい赤褐色 普通	P164 90% P L65 覆土下層 中幹式
2	深鉢 縄文土器	A {22.2} B {17.7}	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に蛇身着匠の把手をもつ地文はR Lの単節縄文である。把手から続く彎帯が、口縁部下で口縁部と胴部を区画する。隆帯上に棒状工具による押圧がみられる。口縁部は沈線により長楕円形状に区画され、区画内に交互刺突文が施されている。	砂粒・灰石・雲母 赤褐色 普通	P165 5% P L65 覆土 中幹式

図版番号	器種	計測値			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)				
第491図4	土器片円盤	3.1	3.0	0.7	(8.6)	95	無文。	DP37 覆土



第491図 第2960号土坑・出土遺物実測図

第2966号土坑（第492図）

位置 調査区の中央部，C13b0区。

規模と平面形 径1.00mの円形で，深さは35cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

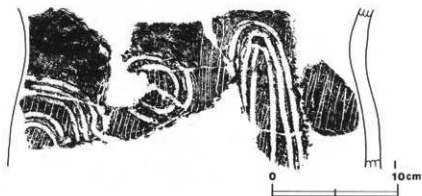
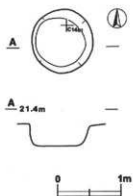
底 平坦である。

遺物 縄文土器片12点が出土している。第492図1の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第2966号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第492図 1	深鉢 縄文土器	B (12.7)	胴部片。わずかに括れる。条線文を地文に，浅い沈線により渦巻文あるいは長楕円形状の曲線的文様が描かれている。	砂粒・長石・雲母 石英・スコリア にぶい褐色 普通	PL66 10% PL65 覆土 加曾利EⅢ式



第492図 第2966号土坑・出土遺物実測図

表10 前田村遺跡H区縄文時代土坑一覽表

土坑番号	位置	方位方向 (長短方向)	平面形	規模		壁	造	土	出土遺物	時期	備考 (前後関係)	
				長×短(m)	深(m)							
2553	D1416	N-16°-W	長方形	0.74×1.15	17	盛鉢	平掘	—	漆鉢			
2554	D1418	—	円形	1.04×1.00	18	盛鉢	掘込	—	自然漆鉢			
2555	D1416	—	円形	0.55×0.50	74	垂土	掘込	—	自然漆鉢			
2556	D1417	N-26°-W	楕円形	0.77×0.64	30	盛鉢	掘込	—	自然漆鉢			
2557	D1417	—	円形	1.00	21	外掘	平掘	3	自然漆鉢・磨石		加曽利E1式期	
2558	D1416	N-43°-W	楕円形	0.45×0.72	39	盛鉢	掘込	—	自然漆鉢			
2559	D1416	N-26°-W	楕円形	0.86×0.66	60	垂土	掘込	—	自然漆鉢			
2560	D1418	N-25°-W	楕円形	1.15×1.01	180	垂土	平掘	—	自然漆鉢			
2561	D1418	—	円形	0.70	17	盛鉢	掘込	—	自然漆鉢		堀之内1式期	
2562	D1416	N-17°-E	不定形	1.30×0.90	36	盛鉢	平掘	—	自然漆鉢			
2563	D1469	N-28°-N	不定形	1.25×1.20	118	垂土	平掘	—	自然漆鉢			
2564	E1468	—	円形	2.40	304	垂土	平掘	—	人為漆鉢・磨石		堀之内1式期 SI422・SK2376より新	
2565	D1469	—	円形	1.40	124	外掘	平掘	—	自然漆鉢		安行3式期 SI422より新	
2566	D1466	N-66°-E	不定形	2.83×1.99	67	盛鉢	平掘	1	自然漆鉢		中野式期	
2567	D1417	—	円形	0.90×0.94	36	外掘	掘込	1	自然漆鉢			
2568	E1566	—	円形	0.98×0.96	10	盛鉢	掘込	—	自然漆鉢			
2569	D1419	—	円形	1.25×1.30	30	垂土	平掘	—	自然漆鉢			
2570	D143	N-0°	楕円形	2.05×1.88	48	外掘	平掘	1	自然漆鉢		加曽利E2式期 SI421より新 SK2377と重複	
2571	D143	N-35°-E	不定形	1.53×1.23	30	外掘	平掘	2	自然漆鉢			
2572	D1416	N-2°-E	楕円形	1.56×1.37	40	掘込	平掘	—	自然漆鉢		加曽利E2式期 SK2373と重複	
2573	D1416	N-72°-E	楕円形	0.91×0.65	36	盛鉢	平掘	—	自然漆鉢			
2574	E1561	N-46°-W	楕円形	1.40×0.98	22	外掘	平掘	1	自然漆鉢・磨石		安行3式期	
2575	D1469	—	円形	0.98	110	盛鉢	掘込	—	人為漆鉢		中野式期 SK2401より新 SK216と重複	
2576	D1419	N-90°-E	楕円形	1.58×1.36	74	掘込	平掘	3	—	漆鉢	加曽利E2式期 SI422より新 SK2364と重複	
2577	D1512	—	円形	1.89	127	外掘	平掘	—	人為漆鉢・土器片片断		安行2式期	
2578	D1362	N-26°-W	楕円形	1.69×1.23	31	外掘	掘込	—	人為漆鉢		加曽利E2式期 SI423より新 SK2409・2407と重複	
2579	E1561	N-56°-W	不定形	5.70×2.90	90	盛鉢	平掘	7	自然漆鉢			
2580	E1561	N-43°-W	楕円形	0.70×0.50	40	外掘	平掘	—	—	漆鉢	加曽利E1式期 SK2375と重複	
2581	E1562	N-34°-E	長方形	1.38×0.96	37	外掘	平掘	2	自然漆鉢			
2582	E1562	—	円形	1.37×1.49	75	盛鉢	掘込	—	自然漆鉢			
2583	E1562	N-50°-E	不定形	1.45×1.45	61	盛鉢	掘込	—	自然漆鉢・磨石		後期 SK2381より新 SK2386と重複	
2585	E1561	N-34°-E	楕円形	1.06×0.85	—	—	—	—	自然漆鉢			
2586	E1362	N-86°-E	長方形	5.35×1.07	74	盛鉢	掘込	—	自然漆鉢			
2587	D1362	N-63°-E	楕円形	2.51×1.83	40	盛鉢	掘込	3	自然漆鉢			
2588	D1511	—	円形	35	2.46	48	盛鉢	平掘	3	人為漆鉢・鉢		加曽利E1式期 中野
2589	D1511	—	円形	2.46	104	外掘	平掘	—	人為漆鉢・磨石			
2590	D1511	N-0°	楕円形	2.70×2.27	76	盛鉢	平掘	5	自然漆鉢・磨石・土器片断		加曽利E2式期 SK2391・2392・2437・2472と重複	
2591	D1512	N-26°-E	不定形	1.50×1.23	—	—	—	1	自然漆鉢			
2592	D1512	N-5°-E	楕円形	2.45×2.95	45	外掘	平掘	2	自然漆鉢・磨石		後期・晩期 SK2391より新SK2391・2452と重複	
2593	D1510	N-26°-E	不定形	1.57×1.51	120	盛鉢	掘込	2	自然漆鉢			
2594	D1466	—	円形	1.45	119	盛鉢	平掘	—	人為漆鉢・磨石・蓋		加曽利E1式期 SI424より新	
2595	D1416	N-27°-E	楕円形	0.81×0.71	35	外掘	掘込	—	自然漆鉢			
2596	D1468	N-41°-W	不定形	5.05×2.62	61	垂土	掘込	4	人為漆鉢		加曽利E2式期 SK2397と重複	
2597	D1468	—	円形	1.04	75	外掘	掘込	—	人為漆鉢・不明土製品		加曽利E2式期 SK2396・2404と重複	
2598	D1418	N-55°-W	楕円形	1.33×1.05	92	垂土	平掘	1	自然漆鉢			
2599	D1469	—	円形	1.96	14	盛鉢	平掘	5	人為漆鉢		加曽利E1式期 SK2101・2420・2421と重複	
2600	D1419	N-24°-E	楕円形	0.77×0.51	30	垂土	平掘	—	自然漆鉢			
2601	D1468	N-87°-W	楕円形	2.48×2.00	126	垂土	平掘	—	自然漆鉢・土器片断		堀之内1式期 SK2373と重複	
2602	D1466	—	円形	1.35×1.15	139	垂土	平掘	—	自然漆鉢			
2603	D1466	—	円形	0.99×0.98	103	垂土	掘込	1	人為漆鉢			

上坑 番号	位置 (方位)	方位 (方位)	平面形	縦		幅	底	L/F	覆土	出土遺物	考 期	備 考 (備 註 等)
				長	短							
2404	D146	N-8°-E	長方形	2.02×1.38	91	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2405	D131	N-61°-W	楕円形	2.02×1.58	54	外傾	平垣	2	自然	深鉢		
2406	D1410	N-43°-W	長方形	1.42×1.08	131	外傾	段状	1	自然	深鉢		
2407	E1362	N-77°-W	楕円形	2.67×1.25	56	傾斜	平垣	2	自然	深鉢		
2408	D1458	N-47°-E	楕円形	1.33×1.13	85	外傾	平垣	1	自然	深鉢	堀之内I式期	SK2453と重複
2409	E1522	—	円形	1.12×1.07	37	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2410	D1410	N-23°-E	長方形	2.45×1.84	27	傾斜	平垣	1	自然	深鉢		
2411	D1383	—	円形	1.30×1.26	32	傾斜	平垣	1	自然	深鉢		
2415	D146	—	円形	1.69	30	外傾	平垣	1	—	深鉢・石皿	加賀科E1式期	SK2429より新 SK2435, 2483より古
2416	D148	N-78°-W	不定形	1.04×0.56	—	傾斜	平垣	1	自然	深鉢		
2417	D146	N-70°-E	不定形	2.43×1.49	84	外傾	段状	3	自然	深鉢		
2418	D148	N-70°-W	不整形円形	1.50×1.28	98	垂直	平垣	1	人為	深鉢	加賀科E1式期	SK2417と重複
2419	D148	N-67°-E	楕円形	1.29×0.84	85	垂直	段状	1	自然	深鉢		
2420	D146	—	円形	1.15	44	外傾	段状	1	自然	深鉢		
2421	D146	N-22°-W	楕円形	1.08×0.77	76	垂直	平垣	1	自然	深鉢		
2422	D1512	N-58°-E	不定形	2.09×1.24	43	外傾	段状	1	自然	深鉢		
2423	D1512	N-84°-W	不整形円形	2.87×1.65	63	傾斜	平垣	1	自然	深鉢		
2425	D1512	N-40°-W	楕円形	2.12×1.41	41	傾斜	段状	1	自然	深鉢		
2426	D1512	N-45°-E	楕円形	1.87×1.38	74	垂直	平垣	1	自然	深鉢		
2427	D146	—	円形	0.76	28	外傾	平垣	1	自然	深鉢	加賀科E1式期	SK2470と重複
2428	D149	N-15°-W	円形	1.84×1.83	75	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2429	D152	N-48°-W	楕円形	0.96×0.85	96	垂直	平垣	1	人為	深鉢・土器片	加賀科E1式期	SK2506より新 SK2477と重複
2430	D149	N-36°-W	楕円形	0.88×0.54	52	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2431	D1410	N-18°-W	楕円形	0.88×0.70	70	垂直	凹凸	2	自然	深鉢		
2432	D149	N-29°-W	不定形	1.86×0.86	106	段状	平垣	1	人為	深鉢	加賀科E1式期	SK1422より新
2433	D152	N-69°-W	楕円形	0.95×(0.77)	54	傾斜	平垣	1	自然	深鉢	中峠式期	SK2444と重複
2434	D146	N-90°-E	楕円形	1.91×0.11	44	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2435	D146	—	楕円形	2.97×1.72	69	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2436	D149	N-25°-E	楕円形	2.20×1.69	55	垂直	凹凸	2	自然	深鉢		
2437	D1511	N-6°-W	楕円形	0.74×0.43	—	—	—	—	自然	深鉢		
2438	D1511	N-44°-E	楕円形	0.52×0.33	54	垂直	凹凸	1	自然	深鉢		
2439	D1511	—	円形	2.37×2.20	51	外傾	平垣	3	自然	深鉢		
2440	D1311	N-4°-E	不整形円形	1.98×1.65	39	外傾	平垣	5	自然	深鉢		
2441	D152	N-49°-E	楕円形	1.29×1.12	93	外傾	段状	1	自然	深鉢		
2443	D1362	N-30°-W	正方形	1.60×1.49	62	垂直	段状	2	自然	深鉢		
2444	D152	—	円形	(2.30)	30	外傾	平垣	1	人為	深鉢	安行2式期	SK2445より古 SK2443, 2447と重複
2445	D152	N-90°-W	不定形	1.95×0.91	120	垂直	段状	1	人為	深鉢・土器片・土器・磁石	後期	SK2444より新
2446	D146	—	円形	2.06	105	垂直	平垣	2	人為	深鉢・磁石	堀之内I式期	SK1434より新 SK2503と重複
2447	D152	N-31°-W	楕円形	2.47×2.23	73	垂直	平垣	1	自然	深鉢		
2448	D1362	—	円形	1.78×1.70	74	垂直	平垣	1	自然	深鉢		
2449	D152	N-55°-E	楕円形	0.73×0.56	83	垂直	段状	3	自然	深鉢		
2450	D152	—	円形	1.97×1.87	27	—	—	4	自然	深鉢		
2451	D146	—	円形	1.88	63	外傾	段状	1	人為	深鉢	堀之内I式期	SK2520より新
2452	D1511	N-37°-E	不整形円形	1.35×0.56	57	—	—	—	自然	深鉢		
2453	D149	N-41°-E	不整形円形	2.97×1.96	60	傾斜	段状	3	自然	深鉢		
2454	D146	N-18°-E	不整形円形	1.47×1.09	27	—	—	3	自然	深鉢		
2455	D149	N-90°-E	不整形円形	1.11×0.85	19	傾斜	平垣	3	自然	深鉢		
2456	D149	N-0°-E	楕円形	1.80×(1.70)	62	段状	平垣	1	—	深鉢・石皿・不明磁器	堀之内I式期	SK2457と重複
2457	D149	N-67°-W	不整形円形	1.96×1.85	63	垂直	段状	2	自然	深鉢		
2458	D149	N-71°-W	不定形	0.99×0.67	36	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2459	D149	N-8°-E	楕円形	1.25×1.08	101	垂直	平垣	1	自然	深鉢・土器片・磁石		
2460	D152	N-39°-E	不整形円形	3.33×2.08	115	傾斜	段状	7	自然	深鉢		

土坑 番号	位置	方位方向 (長短方向)	平面形	規模		壁	底	勾	理上	出土遺物	時期	備 考 (蓋 埋 関 係)
				長(m)	幅(m)							
2461	D150i	—	円形	1.83	40	垂直	平垣	1	自然	深鉢	加曾利E1式期	SK2462より新 SK2494, 2428と重複
2462	D150i	N-27°W	楕円形	1.92×1.34	86	袋状	平垣	1	人為	深鉢	加曾利E1式期	SK2461より新
2463	D146i	N-58°W	長楕円形	1.66×0.52	41	垂直	平垣	—	人為	深鉢・人骨	加曾利E1式期以降	土坑影 SK2415・SK2435より新
2464	D136i	N-39°W	楕円形	2.68×2.13	21	緩斜	平垣	—	自然	深鉢		
2465	D150i	N-4°W	楕円形	1.95×1.18	65	緩斜	平垣	—	人為	深鉢	加曾利E1式期	SK2464より新
2466	D150i	—	楕円形	0.77×0.67	76	垂直	平垣	—	自然	深鉢		
2467	D150i	—	円形	0.77×0.70	64	緩斜	段状	—	自然	深鉢		
2468	D146i	N-0°	不整形円形	2.33×1.90	74	垂直	平垣	1	自然	深鉢	加曾利E1式期	SK2499より古 SK2470と重複
2469	D146i	N-4°E	不定形	2.43×0.93	45	外傾	平垣	2	自然	深鉢		
2470	D146i	—	円形	1.84	46	外傾	平垣	3	自然	深鉢		
2471	D150i	—	不整形円形	1.44	62	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2472	D150i	N-15°W	楕円形	1.51×1.35	50	袋状	平垣	1	人為	深鉢	中時式期	
2473	D150i	N-51°W	楕円形	2.40×1.57	10	外傾	平垣	2	自然	深鉢		
2474	D150i	N-0°	楕円形	1.32×1.20	84	垂直	平垣	1	自然	深鉢	加曾利E1式期	SK432より新
2475	D146i	—	円形	1.37	30	袋状	平垣	—	自然	深鉢・土器片陶器	中時式期	SK436より新 SK2522と重複
2476	D146i	N-48°W	不整形円形	1.82×0.74	45	外傾	平垣	2	自然	深鉢		
2477	D150i	N-55°W	不整形円形	1.51×0.96	—	—	—	—	自然	深鉢		
2478	D150i	N-27°E	楕円形	0.54×0.40	60	垂直	平垣	—	自然	深鉢		
2479	D136i	N-65°E	楕円形	0.73×0.56	122	袋状	平垣	—	自然	深鉢		
2480	D136i	—	不整形円形	1.84×1.82	27	袋状	平垣	—	自然	深鉢		
2481	D150i	N-55°W	楕円形	1.52×0.81	31	外傾	段状	—	自然	深鉢		
2482	D149i	N-12°W	楕円形	1.82×1.57	66	外傾	平垣	—	自然	深鉢		
2483	D167i	N-36°W	楕円形	1.71×1.39	55	—	平垣	1	自然	深鉢		
2484	D150i	N-28°W	楕円形	1.17×0.78	80	垂直	平垣	—	自然	深鉢		
2485	D157i	N-26°W	円形	0.71	90	垂直	平垣	—	自然	深鉢		
2486	D150i	N-31°E	楕円形	1.11×0.90	40	垂直	段状	1	自然	深鉢	阿玉台目式期	
2487	D150i	—	円形	0.73×0.70	107	—	段状	—	自然	深鉢		
2488	D146i	—	円形	0.79	—	—	—	—	自然	深鉢		
2489	D146i	N-30°W	楕円形	0.76×0.64	—	—	—	—	自然	深鉢		
2492	D150i	N-38°W	楕円形	2.90×2.30	33	外傾	平垣	2	自然	深鉢・耳飾り・磨石	後期	SK2462, 2512と重複
2493	D150i	N-20°W	楕円形	2.33×2.03	54	外傾	平垣	1	人為	深鉢・磨石	加曾利E1式期	SK439より古
2494	D150i	N-57°E	楕円形	1.14×0.89	40	垂直	平垣	1	自然	深鉢		
2495	E156c	N-35°W	楕円形	1.62×0.64	69	垂直	平垣	—	人為	深鉢	加曾利E1式期	
2496	D150i	N-35°W	楕円形	1.58×0.95	38	外傾	—	1	自然	深鉢		
2497	E166b	N-14°W	楕円形	1.91×1.62	91	垂直	平垣	—	自然	深鉢	堀之内I1式期	SK2502と重複
2498	D150i	N-34°W	不定形	1.71×0.97	77	外傾	平垣	—	人為	深鉢・耳飾り	後期～晩期	
2499	D146i	N-30°W	楕円形	1.92×1.53	81	袋状	平垣	—	—	深鉢・土器片鉢	中時式期	SK436より新
2500	D150i	N-35°W	楕円形	1.76×1.45	41	外傾	平垣	4	自然	深鉢		
2501	D136i	N-36°W	楕円形	0.78×0.56	43	垂直	平垣	—	自然	深鉢		
2502	D150i	N-47°W	不整形円形	1.86×1.44	63	外傾	平垣	—	人為	深鉢	堀之内I1式期	SK2512と重複
2503	D146i	N-50°W	楕円形	1.43×1.02	24	垂直	平垣	1	自然	深鉢		
2504	D150i	N-33°W	不整形円形	1.70×1.09	33	緩斜	平垣	—	自然	深鉢		
2505	D150i	N-12°W	楕円形	0.82×0.51	30	外傾	平垣	—	自然	深鉢		
2506	D136c	—	円形	1.66×1.55	91	外傾	平垣	—	自然	深鉢		
2507	D150i	—	円形	2.09×2.00	80	垂直	平垣	—	人為	深鉢	加曾利E1式期	SK2508より新 SK2514より古
2508	D146i	N-84°W	楕円形	1.83×1.06	120	袋状	平垣	1	自然	深鉢		
2509	D136i	N-33°E	楕円形	2.22×0.98	47	緩斜	平垣	3	自然	深鉢		
2510	D146i	—	楕円形	0.43×0.37	18	外傾	段状	—	—	深鉢・白付鉢	安行I1式期	SK431より新
2511	D150i	N-38°E	楕円形	0.89×0.76	14	緩斜	平垣	—	自然	深鉢		
2512	D150i	—	円形	1.73×1.72	95	袋状	平垣	—	人為	深鉢・浅鉢	中時式期	SK2502, 2492と重複
2513	D146i	N-38°W	不定形	1.25×0.80	150	袋状	平垣	—	自然	深鉢		
2514	D146i	—	円形	1.23×0.18	102	外傾	段状	—	人為	深鉢	後期	SK2507と重複

土坑 番号	位置	方位方向 (只載方向)	平面形	規 模		壁	底	口	覆土	出土遺物	時 期	備 考 (重視関係)
				長	幅							
2515	D140	N-12°E	不整形	(0.30)	46	外傾	凹凸	—	人為	深鉢	中期	
2516	D140	N-8°E	不 定 形	1.72×0.82	38	傾斜	凹凸	—	—	深鉢	加曾利E式期	
2517	D140	N-05°E	不整形円形	1.59×1.32	—	—	—	—	—	深鉢		
2518	D140	N-23°W	楕円形	1.36×0.86	—	—	—	—	—	深鉢		
2520	D140	N-5°E	楕円形	2.37×2.05	66	垂直	平垣	1	自然	深鉢		
2521	D140	N-52°E	楕円形	1.93×1.20	54	垂直	平垣	—	人為	深鉢	加曾利E式期	SI431より古 SI432より新
2522	D140	N-32°E	楕円形	2.98×1.49	35	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2523	D150	N-35°W	楕円形	1.01×0.57	100	袋状	平垣	—	—	深鉢		
2524	D109	—	円形	2.22×2.19	63	袋状	平垣	2	自然	深鉢・銅片	中群式期	SI431より古
2540	D140	N-50°W	楕円形	0.78×0.60	77	袋状	平垣	—	—	深鉢		
2541	D147	N-71°E	楕円形	1.58×1.46	12	垂直	平垣	1	自然	深鉢・磨製石斧	加曾利E1式期	SK2645より古 SK2638と重複
2567	D140	N-42°E	楕円形	0.72×0.50	45	—	—	—	人為	土塊	安行I式期	SI429より新 SK2428と重複
2568	D140	N-22°E	楕円形	0.66×0.53	56	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2602	E150	—	円形	1.24×1.16	32	傾斜	—	—	—	深鉢		
2614	D100	N-9°E	楕円形	0.43×0.15	77	外傾	深鉢	—	—	深鉢		
2615	D140	—	不 整 形	0.82	26	外傾	深鉢	—	—	深鉢		
2760	D141	N-85°W	楕円形	3.15×2.57	77	外傾	平垣	2	自然	深鉢		
2762	D140	N-53°W	楕円形	2.01×1.75	32	傾斜	平垣	1	自然	深鉢		
2763	D143	—	円形	1.37×1.27	21	傾斜	圓状	—	人為	深鉢・銅片		
2764	D140	N-64°W	楕円形	2.37×1.82	55	垂直	平垣	—	—	深鉢・土器片・土器片	加曾利E式期	SK2810と重複
2765	D145	N-45°E	楕円形	1.88×1.43	51	袋状	平垣	1	自然	深鉢		
2767	D140	N-40°E	楕円形	1.86×1.21	27	傾斜	平垣	—	—	深鉢		
2768	D140	N-44°E	楕円形	1.58×1.39	51	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2769	D140	—	円形	1.20×1.19	44	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2770	D140	—	円形	1.31×1.28	47	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2771	D143	N-3°E	楕円形	2.28×1.43	33	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2772	D144	—	円形	1.15×1.13	76	垂直	圓状	—	—	深鉢・土器片	中期	
2773	D146	—	円形	2.53×2.48	76	袋状	平垣	2	人為	深鉢・不明土製品	加曾利E1式期	
2775	D140	N-52°W	楕円形	1.64×1.17	36	外傾	圓状	—	—	深鉢		堀之内I式期
2778	D144	N-46°E	楕円形	1.79×1.60	17	傾斜	平垣	—	—	深鉢		
2779	D140	N-12°E	不整形円形	1.88×1.00	15	傾斜	平垣	1	自然	深鉢		
2780	D140	N-54°E	楕円形	1.15×0.88	26	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2781	D140	N-12°E	楕円形	1.04×0.83	22	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2783	D143	N-20°W	楕円形	1.81×1.39	15	傾斜	平垣	—	—	深鉢		
2790	D140	—	円形	1.88×1.80	75	外傾	平垣	1	自然	深鉢		
2791	D145	—	円形	2.16×2.00	50	外傾	平垣	2	自然	深鉢		
2792	D141	N-11°W	楕円形	1.73×0.70	34	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2795	D140	—	円形	1.32×1.31	67	袋状	平垣	—	—	深鉢		
2796	D145	—	円形	1.27×1.21	41	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2797	D140	N-75°W	楕円形	1.32×1.17	30	傾斜	平垣	1	自然	深鉢		
2798	D145	N-33°E	楕円形	1.98×1.57	48	垂直	平垣	2	自然	深鉢		
2799	D140	N-73°W	円形	1.30	30	外傾	平垣	—	不明	深鉢	阿玉台IV式期	
2800	D146	N-11°E	楕円形	1.87×1.20	38	袋状	平垣	1	自然	深鉢		
2801	D147	—	円形	1.62×1.54	58	袋状	平垣	1	自然	深鉢		
2802	D145	N-51°W	楕円形	0.78×0.67	57	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2803	D139	N-75°W	楕円形	1.91×1.11	29	傾斜	平垣	3	自然	深鉢		
2804	D147	N-57°W	楕円形	1.07×0.94	43	袋状	平垣	—	—	深鉢		
2805	D147	—	円形	1.37×1.32	57	外傾	平垣	2	自然	深鉢		
2806	D147	N-15°W	楕円形	1.94×0.94	46	外傾	平垣	—	—	深鉢		
2807	D146	—	円形	1.03×0.98	56	袋状	平垣	—	人為	深鉢・打製石斧	阿玉台IV式期	SK2808より古
2808	D140	N-21°E	楕円形	0.58×0.46	38	外傾	圓状	—	—	深鉢		SK207より新
2809	D142	N-78°E	楕円形	1.44×1.26	61	外傾	平垣	—	—	深鉢		

上段番号	位置	方位方向 (真方位角)	平面形	断		壁	底	ヒツ	覆土	出土遺物	時期	備考 (重要度)
				長さ×幅(m)	高さ(m)							
2810	D1416	N-25°-E	楕円形	1.22×0.80	11	縦割	平垣	1	自然	漆鉢		SK2764と重複
2811	D147	N-62°-W	楕円形	1.19×0.90	22	縦割	皿状	—	不明	漆鉢・土器片円盤・磨石	後期	
2812	D1467	—	不整形	1.68×1.07	45	外堀	平垣	2	自然	漆鉢		
2821	D144	—	円形	0.67×0.65	22	縦割	平垣	—	自然	漆鉢		
2823	D1465	N-35°-W	長方形	0.37×0.45	47	垂直	平垣	—	自然	漆鉢		
2824	D1467	N-31°-E	楕円形	1.13×1.00	31	外堀	平垣	—	自然	漆鉢		
2826	D146	—	円形	(1.88)	63	袋状	平垣	—	人為	漆鉢	阿上台石式期	SK2827より新
2827	D144	—	円形	0.75	69	袋状	平垣	—	自然	漆鉢		SK2826より古
2828	C143	—	円形	1.30×1.19	79	垂直	平垣	—	自然	漆鉢		
2829	D1300	—	円形	0.94×0.92	62	袋状	平垣	—	自然	漆鉢		
2831	C144	—	円形	2.02×1.56	142	垂直	皿状	1	自然	漆鉢		
2832	D1467	N-20°-E	長方形	0.90×0.49	—	—	—	—	自然	漆鉢		
2834	D1349	N-14°-E	楕円形	0.77×0.64	33	縦割	皿状	—	自然	漆鉢		
2835	D1349	N-25°-E	楕円形	0.96×0.71	30	縦割	皿状	—	自然	漆鉢		
2836	D1349	N-30°-E	不整形円形	1.04×0.91	33	外堀	平垣	—	自然	漆鉢		
2837	D1467	N-35°-W	楕円形	1.94×1.72	7	縦割	平垣	—	自然	漆鉢		
2838	D1467	N-15°-W	不整形円形	2.66×1.71	41	袋状	平垣	—	自然	漆鉢		SK2838, 2839と重複
2839	D1468	N-8°-E	楕円形	3.00×2.35	62	縦割	平垣	2	—	漆鉢・土器片円盤・磨石	中期	SK2838, 2863と重複
2840	C1465	—	円形	1.36×1.29	112	外堀	漆鉢	—	人為	漆鉢・鉢	加曾利Ⅱ式期	
2841	C1417	N-65°-W	楕円形	2.13×1.50	56	袋状	平垣	1	人為	漆鉢	中終末期	
2842	C1465	N-54°-W	楕円形	2.33×1.68	39	縦割	皿状	—	自然	漆鉢		
2843	C1465	N-40°-E	楕円形	2.04×1.63	90	袋状	平垣	1	自然	漆鉢		
2844	C1416	N-17°-E	楕円形	2.58×2.22	90	袋状	平垣	—	自然	漆鉢・浅鉢・土器片円盤	中終末期	
2845	C143	N-22°-E	不整形円形	0.65×0.54	49	外堀	皿状	—	自然	漆鉢		
2846	C143	N-43°-E	不整形円形	1.36×0.54	—	—	—	—	自然	漆鉢		
2848	C1465	N-44°-W	楕円形	1.97×1.38	71	外堀	平垣	2	人為	漆鉢・竹瓶	中期	SK2849より新
2849	C1466	N-50°-W	楕円形	1.63×0.99	33	垂直	平垣	—	自然	漆鉢		SK2846より古
2850	D1466	N-25°-E	不整形円形	1.70×1.50	33	外堀	皿状	—	自然	漆鉢		
2851	D1465	N-8°-W	楕円形	2.49×1.63	41	垂直	平垣	—	自然	漆鉢		
2852	D1446	N-38°-E	不整形円形	1.18×1.13	73	垂直	皿状	—	自然	漆鉢		
2853	C1467	N-77°-E	楕円形	3.27×2.66	120	袋状	平垣	—	人為	漆鉢・土器片鉢	中終末期	
2854	C1449	N-39°-W	不定形	2.00×1.94	41	垂直	平垣	—	人為	漆鉢・鉢	中終末期	SK2855より古 SK2856と重複
2855	C1438	—	円形	0.60×0.55	120	外堀	皿状	—	自然	漆鉢		SK2854より新
2856	C1418	N-28°-W	楕円形	2.31×1.63	100	袋状	平垣	2	人為	漆鉢・土器片円盤	中期	SK2859より古 SK2854と重複
2857	D1467	N-12°-W	不整形円形	2.09×1.29	79	袋状	平垣	—	自然	漆鉢		
2858	D1465	N-45°-W	楕円形	2.36×1.30	75	垂直	平垣	—	不明	漆鉢・土器片円盤	加曾利Ⅰ式期	SK2870より古
2859	C1467	N-84°-E	楕円形	2.63×2.15	116	袋状	平垣	1	人為	漆鉢	中終末期	SK2860と重複
2860	C1467	N-11°-W	楕円形	0.99×0.87	114	袋状	平垣	—	自然	漆鉢		SK2859と重複
2861	C1411	—	円形	2.40×2.23	132	袋状	平垣	1	自然	漆鉢		
2862	D146	—	円形	2.34×2.16	49	外堀	皿状	—	人為	漆鉢・銅片	阿上台石式期	SK2765と重複
2863	D1468	N-5°-E	楕円形	1.63×1.48	30	縦割	平垣	—	自然	漆鉢		SK2836, 2839と重複
2867	D1467	—	円形	1.64×1.53	85	袋状	平垣	—	人為	漆鉢・鉢	阿上台石式期	
2868	D1467	N-40°-W	楕円形	1.38×1.14	30	外堀	平垣	—	自然	漆鉢		
2869	C1418	—	円形	0.80×0.74	—	—	—	—	自然	漆鉢		
2870	D1315	—	不定形	2.03×1.90	92	袋状	皿状	1	人為	漆鉢	阿上台石式期	SK2868より新
2871	C1413	—	円形	1.51×1.50	61	袋状	平垣	—	人為	漆鉢	中終末期	
2872	D1467	N-31°-W	楕円形	2.13×1.98	56	外堀	平垣	1	自然	漆鉢		
2873	C1411	N-73°-E	楕円形	3.40×2.38	103	袋状	平垣	3	自然	漆鉢		
2874	D1468	N-4°-E	楕円形	2.94×2.08	54	垂直	平垣	3	自然	漆鉢		
2875	C1413	—	円形	1.44×1.40	80	袋状	平垣	—	—	—		SK2871
2876	C1416	—	円形	1.75×1.69	31	縦割	皿状	—	自然	漆鉢		
2877	C1244	N-20°-W	楕円形	1.45×1.36	90	外堀	平垣	—	自然	漆鉢		

上段番号	位置	方位(表層方向)	平面形	規 模		壁	流 (c/s)	覆土	出土遺物	時 期	備 考 (備 註 欄 係)
				長さ×幅(m)	高さ(m)						
2878	C12a	—	円形	1.30×1.37	30	外積	皿状	—	自然	深鉢	
2880	C12b	N-45°E	楕円形	3.20×2.77	36	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2884	B13a	—	円形	1.61×1.61	82	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2885	B13b	N-32°E	楕円形	1.34×1.21	54	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2891	C12c	N-43°W	楕円形	1.25×1.10	27	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2894	C10b	—	円形	1.20×1.15	46	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2895	C10a	—	円形	1.48×1.39	57	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2896	C10a	N-37°W	楕円形	2.31×1.96	48	外積	平皿	3	自然	深鉢	
2897	C14a	—	円形	2.51×2.48	65	嵌状	平皿	2	自然	深鉢	
2898	C14a	—	円形	1.14×1.14	41	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2899	C14b	—	円形	1.53	43	垂直	皿状	—	自然	深鉢	阿上台目式期
2900	B14a	—	円形	1.53×1.47	45	垂直	平皿	—	自然	深鉢	加賀朝臣式期
2901	C14b	—	不定形	0.81×0.63	19	垂直	平皿	1	自然	深鉢	
2902	C14a	N-9°E	楕円形	1.02×0.91	20	縁状	皿状	—	自然	深鉢	
2903	C14a	N-49°W	楕円形	0.66×0.51	204	嵌状	平皿	—	自然	深鉢	
2905	C16a	N-46°E	楕円形	2.04×1.84	34	外積	皿状	—	人為	深鉢	阿上台目式期
2906	C16a	—	円形	0.91×0.85	92	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2907	C14a	—	円形	0.78×0.77	32	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2908	C16a	—	円形	0.39×0.37	38	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2909	C16a	N-76°W	不定形	2.70×0.99	35	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2910	C16a	N-4°E	不定形	0.86×0.47	98	垂直	平皿	—	人為	深鉢	安行1・2式期
2911	C14a	—	楕円形	0.97×0.82	35	垂直	平皿	3	自然	深鉢	
2912	C18a	N-39°W	楕円形	1.36×1.15	41	垂直	平皿	—	自然	深鉢・鉢	加賀朝臣I式期
2913	C19c	—	円形	1.28×1.17	65	垂直	平皿	1	自然	深鉢	SK2916と重複
2914	C14a	N 8°E	不定形	2.54×1.23	28	縁状	皿状	1	人為	深鉢・土器片付盤	中期
2915	C14a	—	円形	0.92×0.56	118	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2916	C16a	N-5°W	楕円形	0.65×0.51	142	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2917	C18a	N-20°E	不定形	0.70×0.37	86	垂直	鉢状	—	自然	深鉢	
2918	C16a	—	円形	1.90	54	嵌状	平皿	—	人為	深鉢・磨石	
2919	C11a	N-72°E	楕円形	1.00×0.85	76	縁状	凹凸	—	自然	深鉢	
2920	C11a	N-13°W	楕円形	1.22×1.02	46	外積	皿状	—	自然	深鉢	加賀朝臣I式期
2921	C13a	N-17°W	楕円形	1.64×1.29	47	外積	皿状	—	自然	深鉢	
2922	C14a	N-57°W	楕円形	2.12×1.40	95	嵌状	平皿	2	自然	深鉢	
2923	C13a	N-60°E	楕円形	0.72×0.45	53	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2924	C13a	N-12°E	楕円形	0.60×0.45	42	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2925	C13a	N-73°W	楕円形	1.57×1.13	50	縁状	平皿	1	自然	深鉢	
2926	C13a	N-36°W	楕円形	1.09×0.98	48	縁状	平皿	—	自然	深鉢	
2927	C13a	N-86°W	楕円形	1.47×1.21	25	垂直	平皿	2	自然	深鉢	中期
2928	C13a	N-71°W	楕円形	2.35×1.14	112	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2931	B13a	—	円形	2.10	42	嵌状	平皿	—	人為	深鉢	中時式期
2932	B15a	—	円形	2.02	93	嵌状	平皿	—	自然	深鉢	中時式期
2933	B15a	N-10°W	不定形	1.43×1.06	36	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2934	B15a	—	不定形	1.55	86	嵌状	平皿	1	人為	深鉢	中時式期
2935	A15j	N-31°E	楕円形	1.34×1.33	64	縁状	平皿	—	自然	深鉢	SK2933より新, SK2954と重複
2936	B15j	N-48°E	楕円形	1.30×1.06	135	縁状	平皿	—	自然	深鉢	
2937	B13a	N-7°E	楕円形	1.22×1.22	90	嵌状	平皿	—	人為	深鉢	中時式期
2938	B13a	—	円形	1.64×1.73	63	垂直	平皿	—	自然	深鉢	
2939	B15a	N-73°W	[楕円形]	[2.80]×[2.40]	108	嵌状	平皿	—	人為	深鉢・人骨	静取目式期
2941	B15a	N-11°E	楕円形	2.00×1.67	28	縁状	皿状	1	自然	深鉢	
2943	C14a	N-57°W	楕円形	2.00×1.64	43	外積	平皿	—	自然	深鉢	
2945	C14a	N-69°W	楕円形	2.43×1.64	102	嵌状	平皿	1	人為	深鉢・打製石斧	中時式期
2946	C14a	N-88°E	楕円形	1.76×1.19	46	縁状	皿状	1	自然	深鉢・砥石	阿上台目式期

土坑 番号	位 置	長径方向 (長轴方向)	平面形	規 模		壁	底	シフト	埋土	出土遺物	時 期	備 考 (蓋 検 陶 係)
				長径×短径(m)	深さ(m)							
2949	C146b	N-8°-E	楕円形	0.45×0.55	80	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2950	C146c	—	円形	0.43×0.41	53	垂直	凹状	—	自然	深鉢		
2951	C146d	N-51°-W	不定形	3.42×2.48	45	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2952	C146e	N-67°-W	楕円形	1.18×1.04	84	外傾	段状	—	自然	深鉢	安行1・2式期	SI500より新
2953	C146f	N-42°-W	楕円形	1.67×1.48	74	段状	平坦	—	自然	深鉢		
2954	B15a2	—	円形	1.05	104	垂直	平坦	—	—	深鉢・壺石		SK2894と重複
2957	B15b5	N-68°-W	楕円形	1.90×1.20	15	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2958	D15b7	N-47°-E	楕円形	2.10×1.81	67	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2960	B15a3	N-5°-E	楕円形	1.83×[1.11]	72	段状	平坦	—	人為	深鉢・土器片付盤	加曾利E I式期	
2961	B15c5	—	不定形	1.55×1.48	27	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2964	C146g	N-9°-E	楕円形	1.50×0.92	118	段状	凹状	1	自然	深鉢		
2965	C147f	N-71°-E	楕円形	2.55×2.35	55	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2966	C138d	—	円形	1.00	35	垂直	平坦	—	—	深鉢	加曾利E III式期	
2967	B15c5	N-70°-W	楕円形	1.00×0.75	97	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2971	B13d1	—	楕円形	1.23×1.01	41	外傾	段状	—	自然	深鉢		
2976	B15e4	N-27°-E	楕円形	2.29×2.07	53	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2978	B15e4	—	円形	2.20×2.01	27	外傾	平坦	1	自然	深鉢		
2979	B15b4	N-5°-E	長方形	1.33×1.17	29	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2982	B15i3	N-61°-W	楕円形	1.07×0.91	16	外傾	平坦	1	自然	深鉢		
2983	B13i2	—	円形	1.01×0.95	12	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2984	C12a5	N-90°-E	楕円形	1.96×1.45	14	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2985	C14b7	—	円形	1.90×1.93	47	段状	平坦	—	自然	深鉢		

(4) 焼土遺構

第1号焼土遺構 (第493図)

位置 調査区の南東部, D14c1区。

調査経過 本跡の検出された区域は、縄文土器片を含む褐色土に覆われていたため、ベルトを設定し土層調査をした。本跡はこの褐色土層の中層から検出された。

規模と平面形 径1.62mの不整形円で、深さは75cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

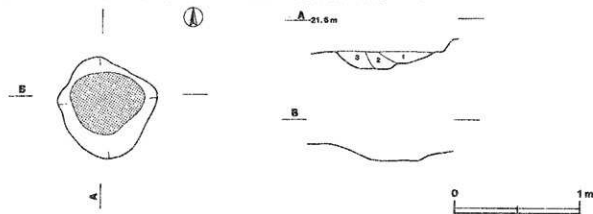
底 凹凸である。

覆土 3層に分層され、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子・焼土粒子多量、ローム小・中ブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック微量
- 3 におい褐色 ローム粒子・ローム少ブロック中量

所見 本跡の時期は、調査経過及び検出された層位から縄文時代と推定される。



第493図 第1号焼土遺構実測図

第2号焼土遺構 (第494図)

位置 調査区の南部, D13j5区。

調査経過 本跡の検出された区域は、縄文土器片を含む褐色土に覆われていたため、ベルトを設定し土層調査をした。本跡はこの褐色土層の中層から検出された。

規模と平面形 長径1.27m、短径0.75mの不整形楕円形で、深さは8cmである。

長径方向 N-28°-W

壁 緩やかに立ち上がる。

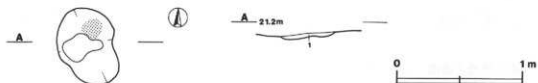
底 凹凸である。

覆土 1層。堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 明褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量

所見 本跡の時期は、調査経過及び検出された層位から縄文時代と推定される。



第494図 第2号焼土遺構実測図

(5) 土器埋設遺構

第2号土器埋設遺構(第495図)

位置 調査区の東部, C14b8区。

規模と平面形 長径0.59mの円形と推定され、深さは24cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 4層に分層され、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量(2層より色調が明るい)

遺物 縄文土器片1点が出土している。P167は深鉢の胴部片で、埋設された状態で出土した。半隆起線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第2号土器埋設遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第495図 1	深鉢 縄文土器	B (12.2)	胴部片。胴部はわずかに外傾する。胴部に半隆起線による懸垂文及び縦行沈線文が施されている。	砂粒・長石 にぶい黄褐色 普通	P167.30% P.L.65 埋設 馬高式



第495図 第2号土器埋設遺構・出土遺物実測図

2 古墳時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

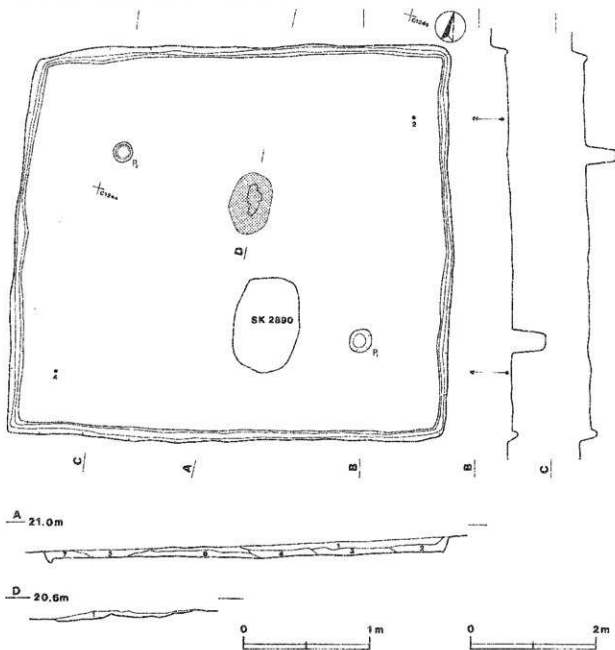
調査地区における古墳時代の竪穴住居跡は11軒で、西部地区に集中して確認されている。以下、検出した竪穴住居跡と出土遺物について記載する。

第485号住居跡 (第496図)

位置 調査区西部, C12est区。

重複関係 第2890号土坑に掘り込まれており、木跡が古い。

規模と平面形 長軸6.93m, 短軸6.28mの長方形。



第496図 第485号住居跡実測図

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は6~21cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下を全周している。上幅5~13cm、下幅2~8cm、深さ6cmで、断面形はU字形をしている。

床 平坦である。

ピット 2か所。P₁は径36cmの円形で、深さ54cm、P₂は長径34cm、短径30cmの楕円形、深さ48cmで、ともに主柱穴と思われる。主柱穴は4か所と考えられるが、耕作による攪乱のためあと2か所は確認できなかった。

炉 はほぼ中央部に位置している。規模は長径96cm、短径62cmの楕円形で、炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1 褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック多量、焼土中ブロック中量

覆土 7層からなり、人為堆積と思われる

土層解説

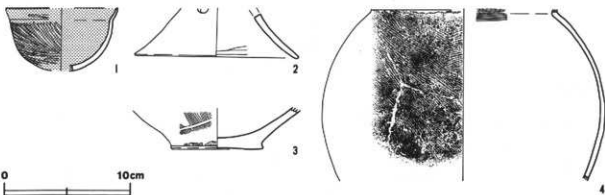
- | | | | |
|-------|---------------------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量、ローム中ブロック微量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、焼土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子少量 | | |

遺物 土師器片128点が覆土から出土している。第497図1は土師器埴、3は土師器甕である。2の土師器器台は北東コーナー寄り、4の土師器甕は南西コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

第485号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第497図 1	埴 土師器	A (9.0) B (5.0)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部外面へう過ぎ。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤形。	砂粒・長石・スコリアにぶい赤褐色 普通	P301 40% PL66 覆土下層 内・外面割離
2	器台 土師器	B (3.9) D 13.2	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に孔がある。	内面下位傾方向のヘラナデ。	砂粒・長石 普通	PS22 20% 覆土下層 内・外面割離
3	甕 土師器	B (3.3) C 7.3	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形。底部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色 普通	P503 5% 覆土
4	甕 土師器	B (15.0)	体部片。体部は球形状で、器壁は薄い。	体部外面及び内面上端ハケ目調整。外面にスス付着。	砂粒・雲母・スコリア(外)にぶい黄褐色(内)褐色 普通	P504 20% 覆土下層



第497図 第485号住居跡出土遺物実測図

第486号住居跡 (第498図)

位置 調査区西部, C12c2区。

重複関係 第11号方形竪穴状遺構土坑に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 一辺が6.44mの隅丸方形。

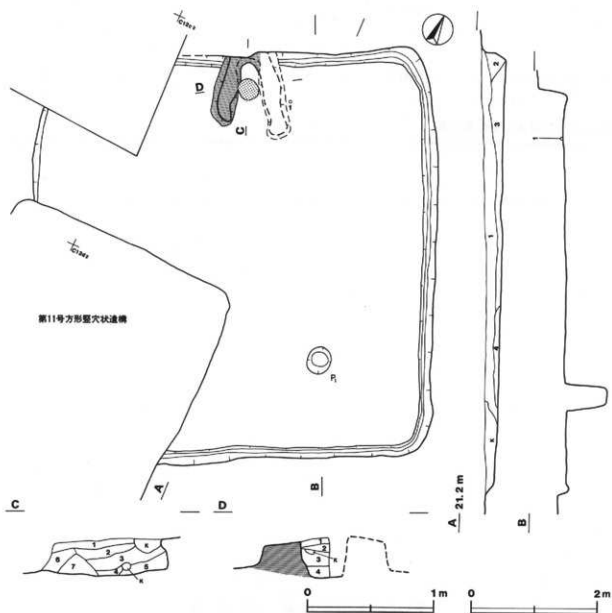
主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は12~42cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下を除き壁下を周回している。上幅11~13cm, 下幅4~7cm, 深さ3~5cmで, 断面形は皿状をしている。

床 全体的に平坦である。

ピット 1か所。P₁は長径44cm, 短径37cmの楕円形, 深さ67cmで支柱穴と思われる。



第498図 第486号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ〔136〕cm、袖幅〔121〕cmで、壁外への掘り込みはほとんどない。袖部は山砂混じりの粘土を貼り付けて構築されている。火床部は径64cmの円形で、わずかに掘りくぼめられている。然焼部奥から煙道部へはやや内彎して立ち上がる。右袖部は削平されている。

竈土層解説

- 1 黄褐色 砂多量
- 2 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、砂少量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック少量、砂少量
- 4 極暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物微量、砂少量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック中量、炭化物微量、砂少量
- 6 極暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック微量、砂少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子少量

覆土 4層からなり、人為堆積と思われる

土層解説

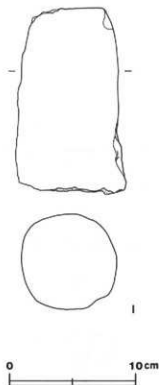
- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片17点、土製品1点が出土している。第499図1の土製支脚は、竈の右側床面から横位の状態で出土している。

所見 本跡は、壁際に炭化材・焼土が堆積していることから焼失家屋と考えられる。時期は、住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と思われる。

第486号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値			重量 (g)	現存率 (%)	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			
第499図1	支脚	(14.8)	8.6	7.6	(884.0)	-	DP501 床面



第499図 第486号住居跡出土遺物実測図

第488号住居跡 (第500・501図)

位置 網走区西部, B12区。

規模と平面形 長軸5.41m, 短軸4.77mの隅丸長方形。

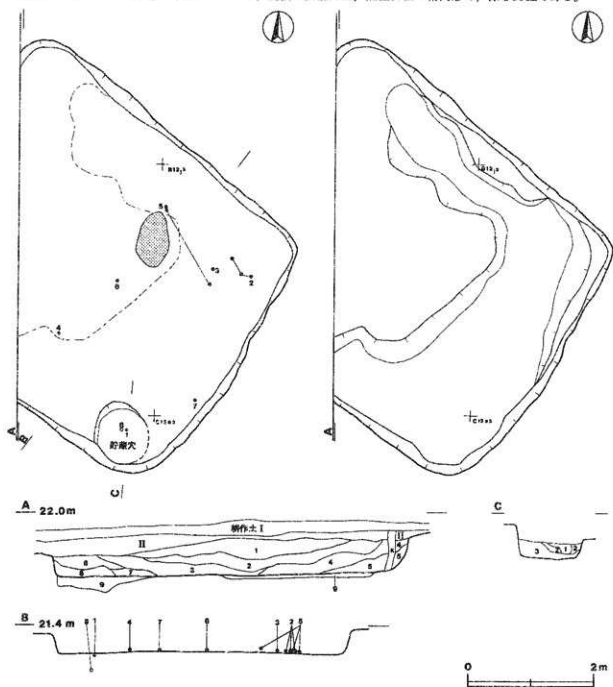
主軸方向 N-39°-E

壁 壁高は31~37cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 中央部は踏み固められている。床面には炭化材・焼土が堆積している。

炉 中央部やや北東寄りに付設され, 規模は長径89cm, 短径51cmの楕円形で, 炉床はほとんど掘りくぼめられておらず, 床面がわずかに火熱を受けか変している程度である。

貯蔵穴 南東コーナー付近に付設されている。規模は長径98cm, 短径87cmの楕円形で, 深さ30cmである。



第500図 第488号住居跡・掘り方実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック多量、焼土中ブロック多量
 2 暗褐色 焼土粒子中量
 3 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 8層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子少量、炭化粒子中量
 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子中量
 6 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、炭化粒子中量、炭化物少量
 7 暗褐色 ローム粒子微量、ローム中ブロック微量、炭化粒子中量、炭化物少量
 8 暗褐色 ローム粒子微量、ローム中ブロック微量、炭化粒子中量、炭化物中量

掘り方 北西コーナーを除く北壁下から南壁下中央部にかけて、住居周縁をめぐる溝状の掘り方を検出した。

規模は、上幅62~215cm、下幅33~180cm、深さ14~24cmで南東コーナー付近が広く掘られている。

掘り方土層解説

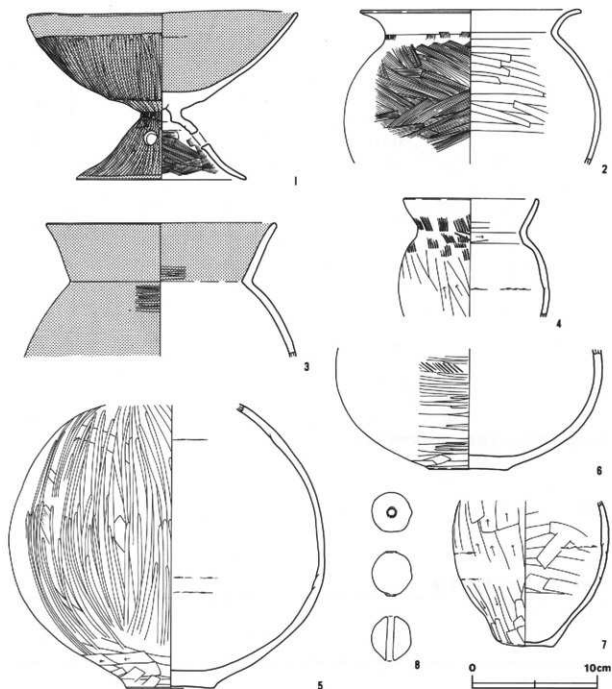
- 9 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック多量

遺物 土師器片126点、土製品1点が覆土から出土している。第501図1の高坏は横位の状態で、8の土玉とともに貯蔵穴内から出土している。2・3・5の土師器甕は東コーナー寄りの床面から、4・6の土師器甕は中央部の床面からそれぞれ出土している。また、7の土師器甕は東壁付近の床面から正位の状態で出土している。所見 本跡は、床面に炭化材・焼土が堆積していることから焼失家屋と考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

第488号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第501図 1	高坏 土師器	A 21.3	胴部、坏部欠損。脚部は膨らみを持ち、底部はラッパ状に開く。坏部は下部に弱い稜を持ち、内響して立ち上がる。脚部に3孔。	脚部・坏部外面縦方向のヘラ磨き。脚部内面ハケ目調整。坏部下部ヘラ削り後、ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 (外)にぶい赤褐色 [内]にぶい褐色 普通	P509 80% PL66 貯蔵穴 覆土上層 内・外面割離
		H 13.4				
		D 13.6				
2	甕 土師器	A 17.4	体部から口縁部にかけての破片。体部は内響して立ち上がり、口縁部は外反する。	体部外面ハケ目調整。体部内面縦方向のヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 赤色 普通	P510 30% PL66 床面 体部内面割離
		B (12.3)				
3	甕 土師器	A 18.4	体部から口縁部にかけての破片。体部は内響して立ち上がり、脚部はくの字状に屈曲し、口縁部は外翻する。	体部外面・口縁部内面ヘラ磨き。外面及び口縁部内面赤彩。	砂粒・石英 [外]にぶい赤褐色 普通	P511 30% 床面 内・外面割離
		B (10.6)				
4	甕 土師器	A 10.6	体部から口縁部にかけての破片。体部は内響して立ち上がり、口縁部は外翻する。体部内面に輪積み痕がある。	外面ハケ目調整後、体部斜方向のヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P512 40% PL66 床面
		B (9.4)				
5	甕 土師器	B (22.5)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は球形状で、内面に輪積み痕がある。	外面ハケ目調整後、縦方向のヘラ磨き。体部下部横方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 灰青褐色 普通	P513 60% PL66 床面 内・外面割離
		C 7.0				
6	甕 土師器	B (9.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は大きく内響して立ち上がる。	底部外面ヘラ削り。体部外面ハケ目調整後、縦方向のヘラナデ及びヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P514 20% 床面
		C 6.1				
7	甕 土師器	B (11.6)	底部から体部にかけての破片。先底気味の平底。	底部外面ヘラ削り。体部外面中位より上・下方向にヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 浅黄褐色 普通	P515 50% 床面 体部内面割離
		C 4.6				

図版番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備考
		長さ	径	孔径			
第501図8	土玉	3.5	3.1	0.7	32.0	100	D P502 貯蔵穴内覆土



第501図 第488号住居跡出土遺物実測図

第489号住居跡 (第502図)

位置 調査区西部, B12b4区。

重複関係 第133号溝に掘り込まれており, 本跡が古い。

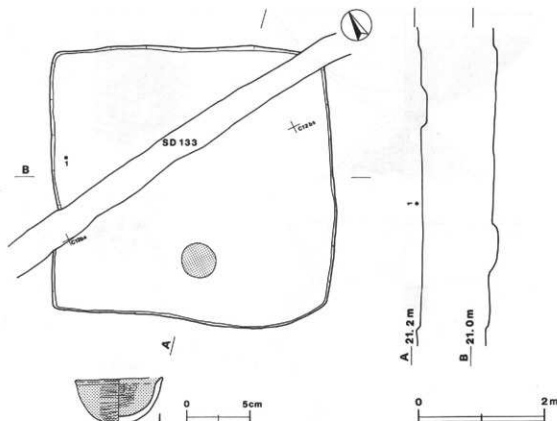
規模と平面形 一辺が4.47mの方形。

主軸方向 N-26°-E

壁 壁高は4~7cmで, 緩やかに外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

炉 中央部南壁寄りにあり, 規模は径55cmの円形で, 炉床はほとんど掘りくぼめられておらず, 床面がわずか



第502図 第489号住居跡・出土遺物実測図

に火熱を受け赤変している程度である。

遺物 土師器片12点が覆土から出土している。第502図1の土師器小形埴は西壁中央付近の覆土下層から正位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第489号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地成	備考
第502図 1	小形埴 土師器	A 6.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	体部外面縁方向のヘラ磨き。体部内面ヘラナデ後、ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 淡黄橙色	P516 95% PL66 覆土下層
		B 3.7				

第490号住居跡 (第503図)

位置 調査区西部, B12g3区。

重複関係 第2号堀A・Bに掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸 [4.98] m, 短軸 [4.92] mの隅丸方形と推定される。

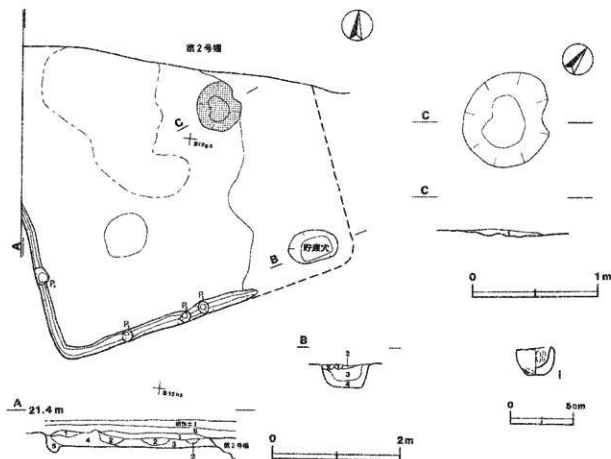
主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は12~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南西コーナーを中心に検出され、上幅15~18cm, 下幅3~10cm, 深さ7cmで、断面形はU字形をしている。

床 平坦で、炬から西壁にかけての住居跡中央部が踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は、長径20cm, 短径16cmの楕円形で、深さ15cmである。P₂は、長径19cm, 短径



第503図 第490号住居跡・出土遺物実測図

16cmの楕円形で、深さ18cmである。P₁は長径20cm、短径17cmの楕円形で、深さ15cmである。P₂は長径27cm、短径20cmの楕円形で、深さ13cmである。各ピットとも燼溝内から検出されているが、性格は不明である。

炉 中央部やや北寄りになり、長径78cm、短径68cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめている。炉床は赤変硬化したブロック状の焼土が見られる。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック中量

貯蔵穴 南東コーナー付近に付設され、規模は長径77cm、短径50cmの楕円形、深さ40cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック多量

2 暗褐色 焼土粒子中量

3 黒褐色 ローム粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子少量

覆土 5層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量

2 赤褐色 焼土小ブロック多量、炭化物中量

3 赤褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、焼土粒子多量、炭化物中量

4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物中量

5 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量

遺物 土師器片20点が覆土から出土している。第503図1は土師器ミニチュア土器である。

所見 本跡は、西壁付近に多量の焼土が広がり、また良好な状態で炭化材も出土しているため焼失家屋と思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第490号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第503図 1	1-P ₂ 76 土師器	A 2.7 B 2.3	丸底。体部は下位で内彎した後、直線的に立ち上がる。頸部凹曲がある。	体部外面ナデ。	形粒・雲母 褐色 普通	P.517 100% P.166 覆土

第491号住居跡 (第504図)

位置 調査区西部, B12R7区。

規模と平面形 長軸 [6.52] m, 短軸 [5.67] mの隅丸長方形と推定される。

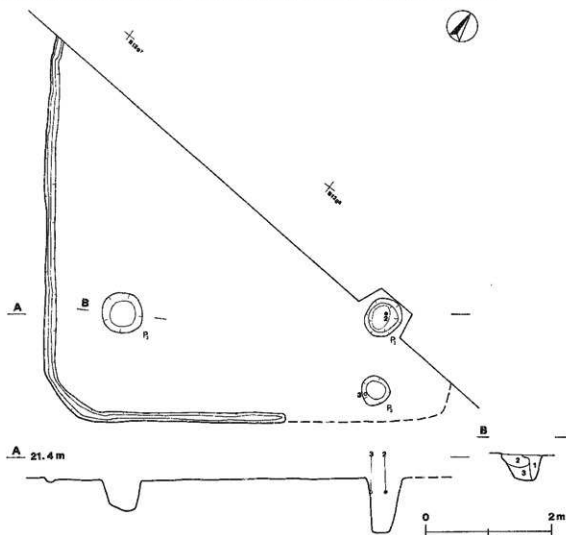
主軸方向 N-37°-W

壁 壁高は3cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下, 南壁下の一部で確認され, 上幅10~14cm, 下幅3~11cm, 深さ4cmで, 断面形は扇状をしている。

床 全体的に平坦である。

ピット 3か所 (P₁-P₃)。P₁は, 径58cmの円形で深さ89cmである。P₂は, 径68cmの円形で, 深さ49cmである。P₃は径45cmの円形で, 深さ36cmである。P₁・P₂は主柱穴と思われるが, P₃の性格は不明である。



第504図 第491号住居跡実測図

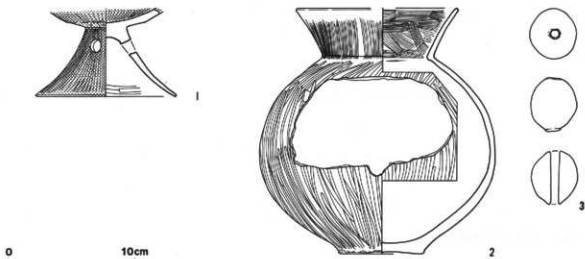
遺物 土師器片10点、土製品1点が覆土から出土している。第505図1は土師器高坏である。また、2の土師器壺はP₁内覆土上層から正位の状態、3の土玉はP₃内から出土している。2は体部に孔が空いており、焼成後、故意に穿孔した可能性がある。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

第491号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 1	高坏 土師器	B (7.0) D 11.1	胴部から坏部にかけての破片。胴部はラッパ状に開く。坏部は下位に筋い線を持つ。胴部に3孔。	外面及び坏部内面縦方向のヘラ磨き 胴部内面下位横方向のヘラナデ。 坏部下位ヘラ磨き。外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア (外) 赤褐色 (内) にぶい褐色 普通	P518 60% 覆土
2	壺 (四雲土器) 土師器	A 12.8 B 19.5 C 6.6	口縁部一部欠損。平底。体部は球形状で、胴部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反する。体部には、焼成後楕円形孔の孔が穿たれている。	体部外面ハケ目整形後、縦方向のヘラ磨き。口縁部外面縦方向のハケ目整形。口縁部内面ハケ目整形。口縁部外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 良好	P519 90% P ₁ 内覆土上層

図版番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備考
		長さ	径	孔径			
第505図3	土玉	4.4	3.8	0.8	58.0	100	D P503 P ₃ 内覆土



第505図 第491号住居跡出土遺物実測図

第492号住居跡 (第506・507図)

位置 調査区北西部, B13j1区。

規模と平面形 長軸6.58m, 短軸5.63mの隅丸長方形。

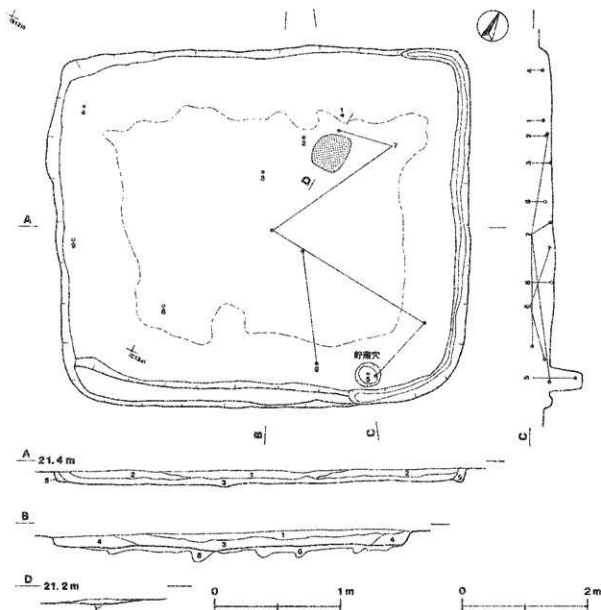
主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は9~16cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下と両コーナー部で検出され、上幅16~18cm, 下幅5~10cm, 深さ4cmで、断面形は皿状をしている。

床 全体的に平坦である。中央部分が若干低くなっており、踏み固められている。

炉 中央部北コーナー寄りに付設されている。規模は長径61cm, 短径54cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめている。炉床はわずかに赤変し、ブロック状の焼土が見られる。



第506図 第492号住居跡実測図

炉土層解説

1 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量、流土小ブロック微量、炭化穀子微量
 貯蔵穴 南東コーナー寄りに付設されている。規模は径40cmの円形で深さ50cmである。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

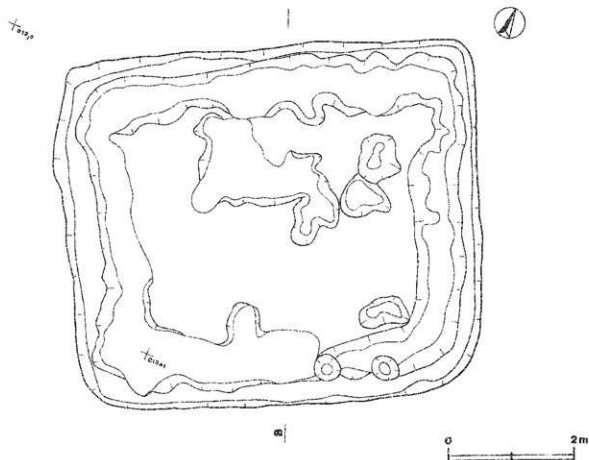
- 1 黒褐色 ローム粒子微量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量

掘り方 住居周縁をめぐる溝状の掘り方を検出した。規模は、上幅45~118cm、下幅11~105cm、深さ8cmである。

掘り方土層解説

- 6 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片182点、土製品1点、土製模造品1点が覆土から出土している。第508図1の上師器杯、2の上師器椀、3の土師器器台は、炉の周辺から出土している。4の土師器器台は正位の状態で北西コーナー付近か



第507図 第492号住居跡掘り方実測図

ら出上している。5の土師器蓋は貯藏穴の覆土下層から出上している。6の土師器蓋は中央部から南壁付近にかけて出土した土器片が接合したものである。また、7の土師器台付甕は中央部から貯藏穴にかけて出土した土器片が接合したものである。8の管状土鉢は南西コーナー寄りから、9の土製模造品鏡は西壁中央部付近から出上している。

所見 本跡の時期は、住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

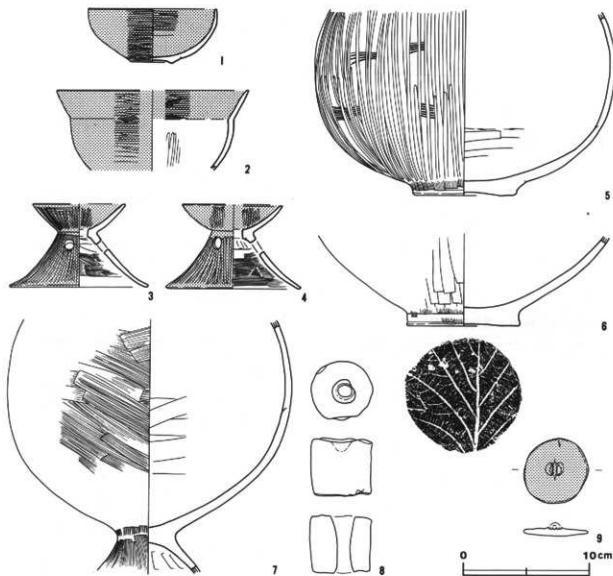
第492号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器 種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	土色・土層・地成	備 考	
第508図 1	土 師 器	A [10.2]	底部から口縁部にかけての破片。わずかに内脛する平底。体部は内脛し口縁部は垂直に立ち上がる。	内・外脛面方向のヘラ磨き、内・外蓋赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア 赤褐色	P320 60% 覆土中層	
		B 4.3			普通	内・外蓋赤彩	
		C 3.4					
2	陶 土 師 器	A [10.2]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内脛して立ち上がり、口縁部は外脛する。	外脛及び口縁部内面ハケ目塗彩後、投方向のヘラ磨き。体部内面を塗き赤彩。	砂粒・長石・スコリア (外) 赤褐色 (内) 灰い赤褐色 黄褐色	PS21 55% 覆土中層	
		B (6.3)					
3	蓋 台 土 師 器	A [7.4]	脚部、器受部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。器受部は内脛して立ち上がり、中央に鼻孔がある。脚部に3孔。	外脛及び器受部内面方向のヘラ磨き。脚部内面塗彩方向のハケ目塗彩。外蓋赤彩。	砂粒・長石・石英 (外) 灰い赤褐色 (内) 灰い黄褐色 普通	PS22 70% P166 床面	
		B 9.6					
		D 11.2					
4	器 内 土 師 器	A 7.9	脚部から器受部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。器受部は内脛して立ち上がり、中央に鼻孔がある脚部に3孔。	外脛及び器受部内面方向のヘラ磨き。脚部内面塗彩方向のハケ目塗彩。外蓋赤彩。	砂粒・長石・石英 (外) 赤褐色 (内) 灰い褐色 良好	P523 60% P166 覆土中層 脚部内面割取	
		B 7.7					
		D 10.8					

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第508図 5	甕 土師器	B (14.7) C 8.0	底部から体部にかけての破片。わずかに内彎する平底。体部は球形状を呈する。	体部外面下位縦方向、中位横方向のハケ目整形後、縦方向のヘラ磨き。体部内面横方向のヘラナデ。底部外面不定方向のヘラ磨り。	砂粒・小石・石英 浅黄褐色 普通	P524 30% P167 貯蔵穴 覆土下層 内・外面割離
6	甕 土師器	B (7.2) C 9.0	底部から体部にかけての破片。平底体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形後、縦方向のヘラナデ。底部木製痕。	砂粒・石英・スコリア にふい・橙色 普通	P525 10% 覆土中層
7	台付 土師器	B 20.3	台部から体部にかけての破片。台部はハの字状に開き、体部は球形状を呈する。	台部外面縦方向、体部外面斜め方向のハケ目整形。体部内面横方向のヘラナデ。	砂粒・スコリア 明黄褐色 普通	P526 30% 覆土

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備 考
		長さ	径	孔径			
第508図8	管状土師	4.6	4.9	1.8	126.0	100	D P504 覆土下層

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)		重量 (g)	現存率 (%)	備 考
		径	厚さ			
第508図9	土製模造品	5.2	0.7	(17.0)	95	D P505 覆土中層 内・外面赤彩



第508図 第492号住居跡出土遺物実測図

第494号住居跡 (第509図)

位置 調査区西南部, D12a9区。

規模と平面形 長軸6.08m, 短軸4.70mの長方形。

主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は18~20cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦であるが, 中央部分が若干低くなっている。

炉 中央部北寄りに付設されている。規模は長径75cm, 短径40cmの楕円形で, 床面を10cmほど掘りくぼめている。炉床はわずかに赤変し, 焼土粒子が見られる。

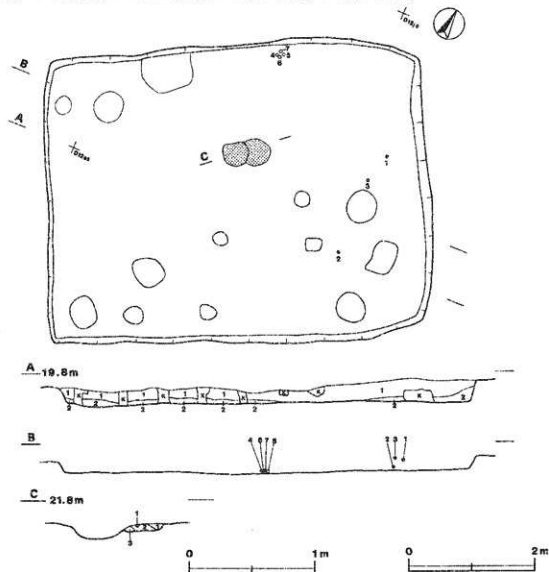
炉土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒中量
- 2 明赤褐色 ローム粒子多量, 焼土粒中量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒中量

覆土 2層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 塗上粒子微量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック微量, ローム大ブロック少量



第509図 第494号住居跡実測図

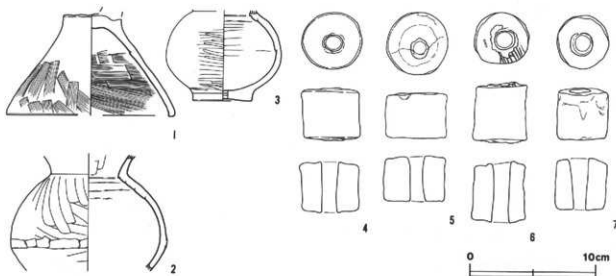
遺物 土師器66片点、土製品4点が覆土から出土している。第510図1の土師器粗製器台、3の土師器小形蓋は東壁付近の覆土上層から出土している。2の土師器小型壺は北東コーナー寄りの覆土下層から出土している。4～7の管状土鉢は、4点まとまって北壁付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

第494号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第510図 1	粗製器台 土師器	B (7.9) D (13.4)	脚部片。ハの字状に開き、踵部がわずかに内彎する。台部に突起を有していた痕跡がある。	外面縦方向、内面横方向のハケ目整形。	砂粒・雲母・スコリアにふい黄褐色 普通	P527 40% 覆土上層
2	小型壺 土師器	B (9.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は算盤玉状で、口縁部は外反する体部内面上位に輪槽み痕がある。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリアにふい黄褐色 良好	P528 30% PL66 覆土下層
3	小型壺 土師器	B (7.2) C (4.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は算盤玉状を呈する。	体部外面横方向のヘラ磨き。内面横方向のヘラナデ。底部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P529 30% 覆土上層

図版番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備考
		長さ	径	孔径			
第510図4	管状土鉢	4.7	4.6	1.2	104.0	100	D P506 覆土下層
4	管状土鉢	5.0	5.0	1.4	111.0	100	D P507 覆土下層
6	管状土鉢	4.4	4.1	1.6	97.0	100	D P508 覆土下層
7	管状土鉢	4.2	4.2	1.8	84.0	100	D P509 覆土下層



第510図 第494号住居跡出土遺物実測図

第495号住居跡 (第511・512図)

位置 調査区南西部、C13e2区。

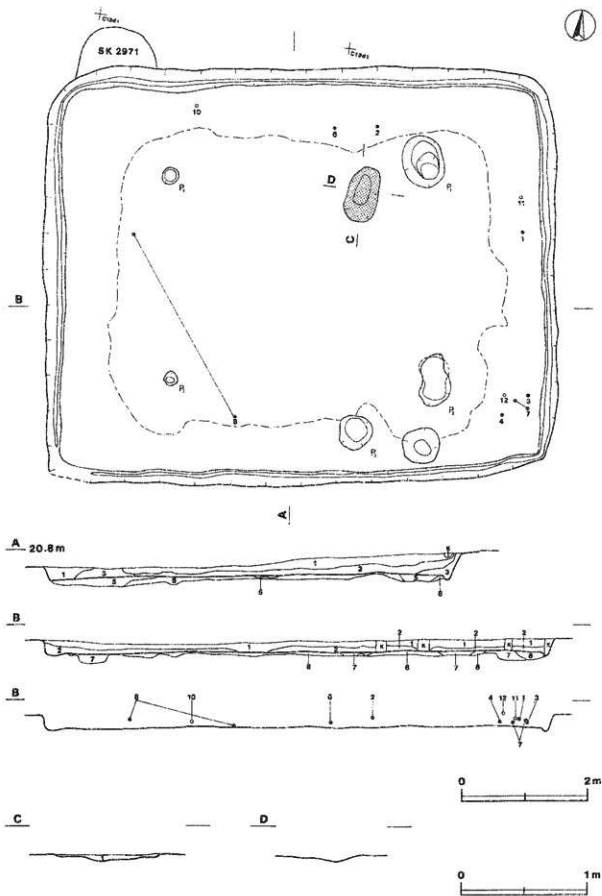
規模と平面形 長軸8.03m、短軸6.52mの隅丸長方形。

主軸方向 N-9°-W

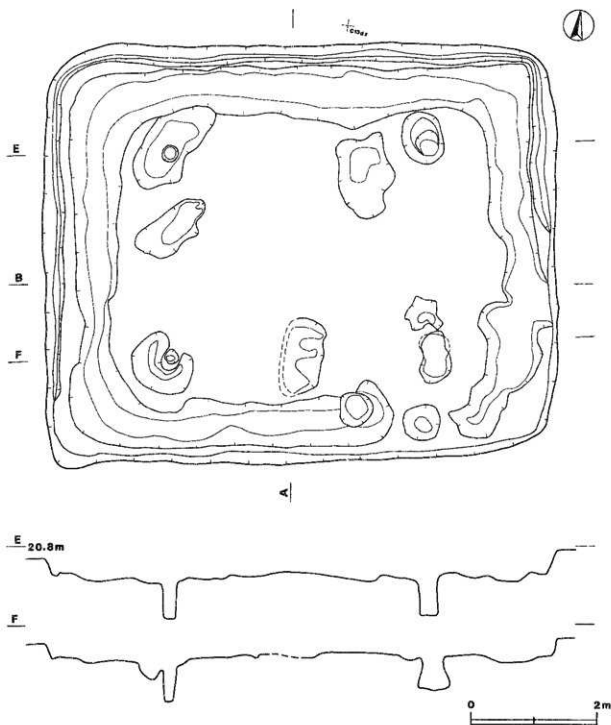
壁 壁高は15～31cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南西コーナーを除きほぼ全周し、上幅12cm、下幅3～10cm、深さ7cmで、断面形はU字形をしている。

床 全体的に平坦で、中央部は踏み固められている。



第511图 第495号住居跡突測図



第512図 第495号住居跡掘り方実測図

ピット 5か所 ($P_1 \sim P_5$)。 P_1 は長径85cm, 短径64cmの楕円形で, 深さ68cmである。 P_2 は長径84cm, 短径43cmの橢圓形で, 深さ54cmである。 P_3 は長径24cm, 短径20cmの楕円形で, 深さ65cmである。 P_4 は径25cmの円形で, 深さ58cmである。いずれも主柱穴と思われる。また, P_5 は径53cmの円形で, 深さ55cmの出入り口施設に伴うピットである。

炉 中央部やや北東寄りに付設されている。規模は長径75cm, 短径47cmの楕円形で, 床面を4cmほど掘りくはめている。炉床にはブロック状の焼土が見られる。

土層解説

1 にぶい赤褐色 ローム粒子少量、焼土小アブロック少量、炭化粒子微量

貯蔵穴 南東コーナー寄りに付設されている。規模は径61cmの円形で、深さ66cmである。

覆土 4層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小アブロック少量、炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子多量、ローム小アブロック少量

3 褐色 ローム粒子多量、ローム小アブロック少量、焼土粒子中量、炭化粒子少量

4 褐色 ローム粒子多量、ローム小アブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量

掘り方 貯蔵穴付近を除いた住居周縁をめぐる溝状の掘り方を検出した。規模は、上幅40~117cm、下幅12~75cm、深さ15cmである。

掘り方土層解説

5 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小アブロック少量、炭化物微量 7 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小アブロック少量

6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小アブロック中量、炭化物微量 8 褐色 ローム粒子多量、ローム小アブロック多量

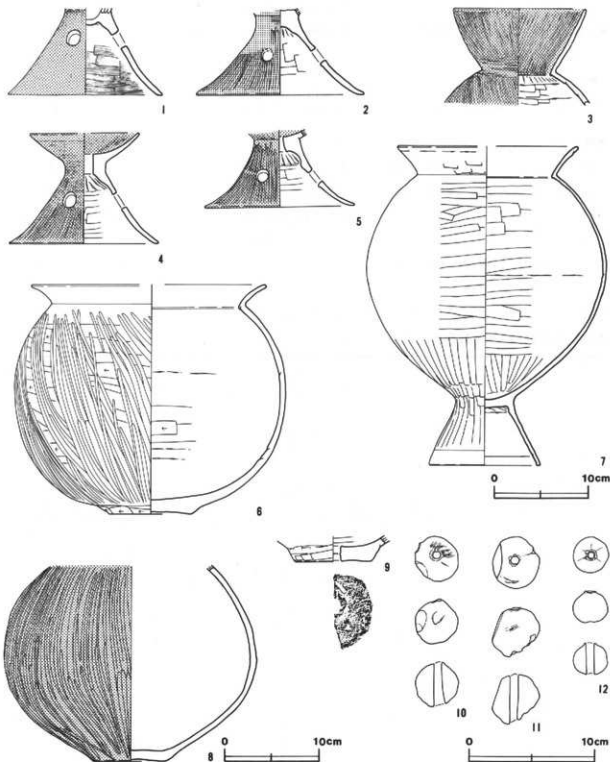
遺物 土師器片223点、土製品3点が覆土から出土している。第513図1の土師器高坏は東壁付近の覆土中層から横位の状態で、2の土師器高坏は北壁付近の覆土上層から逆位の状態で出土している。3の土師器罎、4の土師器器台、7の土師器器台付壺は、南東コーナー付近の覆土中層から出土している。6の土師器壺は、北壁付近の覆土中層から正位の状態で出土している。8の土師器罎は、西壁付近の覆土中層から出土した土器片と南壁付近の床面から出土した土器片が接合したものである。9は瓶の底部片で、覆土から出土している。10~12の土玉は、北壁付近や東壁付近からそれぞれ出土している。獣骨はウマであるが、本跡に伴うかどうかは不明である。

所見 本跡の時期は、住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

第495号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	引当値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色澤・焼成	備考
第513図 1	高坏 土師器	B (6.9) D 12.4	胴部片。胴部はラッパ状に開く。胴部に3孔。	胴部外面縦方向のヘラ磨き。内面横方向のハケ目整形。外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 (外)赤褐色 (内)赤褐色 普通	P530 50% P167 覆土中層
2	高坏 土師器	B (6.6) D 13.4	胴部片。胴部はラッパ状に開く。胴部に3孔。	胴部外面縦方向のヘラ磨き。内面横方向のヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・石英・雲母・ スコリア(外)にぶい赤褐色(内)にぶい褐色 普通	P531 50% P167 外面割離 覆土上層
3	罎 土師器	A (10.4) B (7.7)	体部から口縁部にかけての破片。胴部はハの字状に開く。1層目はわずかに内湾する。体部内面に輪痕がある。	外面縦方向のヘラ磨き後、無彫痕方向のヘラ磨き。口縁部内面縦方向のヘラ磨き。体部内面横方向のヘラナデ。外壁及び口縁部内面赤彩。	砂粒・石英・雲母・ スコリア(外)にぶい赤褐色(内)にぶい褐色 普通	P532 40% P167 覆土中層 内・外面割離
4	器台 土師器	A (6.6) B (8.8) D 11.8	胴部から器受部にかけての破片。胴部はラッパ状に開く。器受部は外壁で立ち上がり、中央に穿孔がある。胴部に3孔。	胴部外面及び器受部内面縦方向のヘラ磨き。器受部外面横方向のヘラ磨き。胴部内面横方向のヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア (外)にぶい赤褐色 (内)明赤褐色 普通	P533 60% P167 覆土中層 外面割離
5	器台 土師器	B (6.2) D 12.0	胴部片。胴部はラッパ状に開く。器受部中央の貫通孔は、上から下に分けられている。胴部に3孔。	胴部外面縦方向のヘラ磨き。内面横方向のヘラナデ。表面赤彩。	砂粒・石英・雲母・ スコリア(外)にぶい赤褐色 (内)明赤褐色 普通	P534 60% P167 覆土
6	壺 土師器	A (18.6) B 18.2 D 6.6	体部。口縁部 短欠損。平底。体部は鐘形状で、口縁部は外反する。体部内面に輪痕がある。	口縁部内・外面横ナデ。体部外壁ヘラ磨り後、腹方向のヘラ磨き。底部外面不定方向のヘラ磨り。外面に黒付着。	砂粒・石英・小礫 灰質褐色 普通	P535 70% P167 覆土中層
7	台付壺 土師器	B (33.4) D 12.0	台部から口縁部にかけての破片。台部はハの字状に開く。体部は上段に最大径を持ち、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面の上位から中段縦方向、下位から台部縦方向のヘラ磨り後、ヘラナデ。体部内面中位ヘラ磨り。台部下端内・外面横ナデ。外面に黒付着。	砂粒・石英・雲母・ スコリア 褐色 良好	P536 50% P168 覆土中層

図版番号	器 種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第513図 8	甕 土 師 器	B (20.8) C 7.6	底部から体部にかけての破片。わずかに内彎する平底。体部は球形状を呈し、中位に最大径を持つ。	体部外面縦方向のヘラ磨き。底部外面ヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・石英・小礫・當得(外)にぶい赤褐色(内)にぶい褐色 青油	P537 50% P168 床出。甕土中層 内・外面割離
9	甕 土 師 器	B (2.0) C 6.0	底部片。平底。底部中央に焼成前の穿孔を有する。	底部内・外面縦方向のヘラ割り。	砂粒・石英にぶい褐色 良好	P538 5% 甕土



第513図 第495号住居跡出土遺物実測図

調査番号	部 位	容 積 係 数 (%)			重量 (g)	含水率 (%)	備 考
		長さ	幅	孔 径			
第514図10	土 玉	3.6	3.4	0.9	37.6	100	D P 510 覆土中層
11	土 玉	4.1	3.9	0.8	(46.0)	70	D P 511 覆土中層
12	土 玉	3.8	2.5	0.7	18.0	100	D P 512 覆土上層

第496号住居跡 (第514図)

位置 調査区北西部, C13b4区。

規模と平面形 長軸3.79m, 短軸3.09mの隅丸長方形。

長軸方向 N-26°-W

壁 壁高は17~20cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

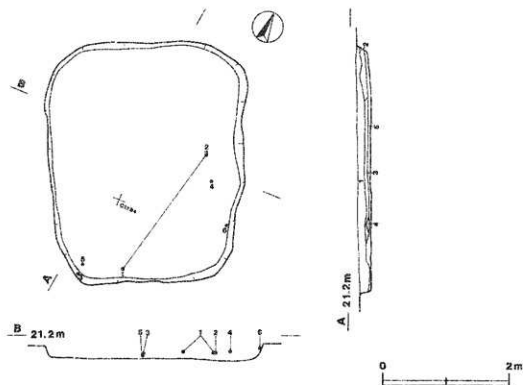
覆土 5層からなり, 人為堆積と思われる。

土層解説

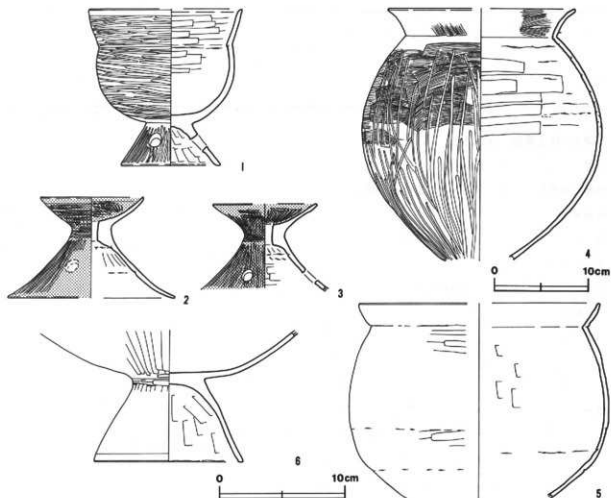
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 粘土粒子微量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子多量
- 5 明褐色 灰色粒子中量

遺物 土師器片23点が覆土から出土している。第515図1の土師器器付壇は, 南壁付近の覆土中層から横位の状態で出土している。2の土師器器台と6の土師器器台付堿は, 東壁付近の覆土中層からとも出土している。3の土師器器台は, 南西コーナーの覆土下層から斜位の状態で出土している。4の土師器器台付堿と5の土師器器台は, 東壁付近の覆土中層と南西コーナーの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期 (4世紀後半) と思われる。



第514図 第496号住居跡実測図



第515図 第496号住居跡出土遺物実測図

第496号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第515図 1	脚付 土師器	A (12.2) B 12.5 D 8.0	埴の体部、口縁部一部欠損。脚部はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。脚部に3孔。	口部部外面横ナデ。埴部の外面横方向、脚部縦方向のヘラ磨き。埴部内面横方向のヘラナデ。	砂粒・長石・雲母にふい橙褐色 良好	P540 70% P168 覆土中層
2	器台 土師器	A 8.2 B 8.0 D (13.2)	脚部から器受部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎しながら立ち上がる。器受部中央の貫通孔は上から下にあけられている。脚部内面に輪横直がある。	器受部内・外面は横方向、脚部外面は縦方向のヘラ磨き。脚部内面上位は縦方向のヘラナデ。表面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア(外)赤褐色(内)ふい橙褐色 普通	P541 30% P168 覆土中層
3	器台 土師器	A (8.2) B (7.1)	脚部から器受部にかけての破片。脚部は外反して開く。器受部は外反して口縁部に至る。器受部中央に単孔がある。脚部に3孔。	器受部内面縦方向のヘラ磨き。外面縦方向のヘラ磨き後、脚部縦方向のヘラ磨き。脚部内面横方向のヘラナデ。表面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア(外)赤褐色(内)黄褐色 普通	P542 60% P168 覆土下層
4	台付 土師器	A (19.8) B (26.5)	体部から口縁部にかけての破片。脚部欠損。体部は上位に最大径を持ち口縁部は外反する。体部内面に輪横直がある。	口縁部外面は斜め方向、内面は横方向のハケ目整形。体部外面横方向のハケ目整形後、縦方向のヘラ磨き。体部内面縦方向のヘラナデ。	砂粒・スコリアにふい黄褐色 普通	P543 50% P168 覆土中層
5	土師器	A (19.0) B (15.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、下位に最大径を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横方向のヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリアにふい褐色 普通	P544 40% P168 覆土下層
6	台付 土師器	B (10.6) D 11.8	台部から体部にかけての破片。台部はハの字状に開き、体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦方向のヘラナデ。脚部下層内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母にふい黄褐色 普通	P545 10% P168 覆土中層

第498号住居跡 (第516図)

位置 調査区中央部, C14b3区。

規模と平面形 長軸6.41m, 短軸5.81mの長方形。

主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は3~9cmで, 緩やかに外傾して立ち上がる。

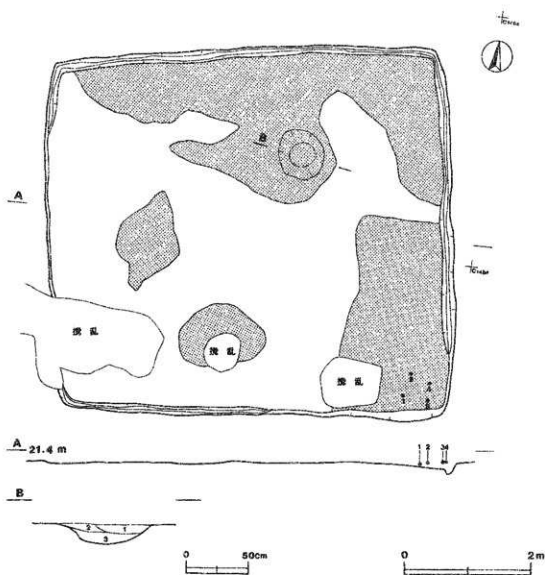
壁溝 南東コーナー付近と西壁中央部を除いて検出した。上幅16cm, 下幅2~8cm, 深さ9cmで, 断面形はU字形をしている。

床 全体的に平垣である。焼土が広範囲にわたり床面に堆積している。

炉 中央部やや北東寄りに付設されている。規模は長径82cm, 短径72cmの楕円形で, 床面を15cmほど掘りくぼめている。炉床にはわずかに焼土粒子と焼土ブロックが見られる。

炉土層解説

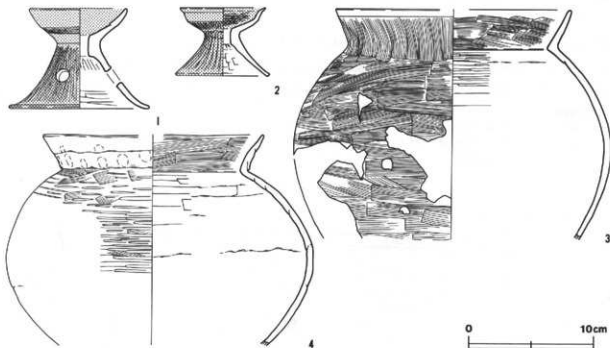
- | | |
|---------|---------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子中量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |



第516図 第498号住居跡実測図

遺物 土師器片33点が覆土から出土している。第517図1の土師器器台は南東コーナーの覆土下層から、2の土師器器台は南東コーナーの覆土中層から正位の状態で出土している。3の土師器甕は、南東コーナーの覆土中層から逆位の状態で出土している。4の土師器甕は、南東コーナーの覆土中層から出土している。

所見 本跡は、床面の広範囲に焼土が広がっていることから焼失家屋と思われる。時期は、住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。



第517図 第498号住居跡出土遺物実測図

第498号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第517図 1	土師器 器台	A 7.5	器受部一部欠損。脚部はラッパ状に開き、器受部は内彎して立ち上がる器受部中央に単孔がある。脚部に3孔。	器受部の外面上位横ナデ。脚部外面縦方向のヘラ書き、内面横方向のヘラナデ。表面赤彩。	砂粒・長石・雲母 (外) におい赤褐色 (内) におい褐色 普通	P546 95% P169 覆土下層
		B 7.9				
		D 11.2				
2	土師器 器台	A 6.7	器受部一部欠損。脚部はハの字状に開く。器受部中位に窪を持ち、基部は外彎する。器受部中央に単孔がある。脚部に孔はない。	器受部内面横方向のヘラ書き。器受部外面下位から脚部にかけて縦方向のヘラ書き。表面赤彩。	砂粒・雲母 (外) 明赤褐色 (内) 灰黄褐色 普通	P547 95% P169 覆土中層
		B 5.4				
		D 7.4				
3	土師器 甕	A [18.7]	体部から口縁部にかけての破片。体部は球形状を呈し、口縁部は外彎する。	口縁部外面縦方向、内面横方向のハケ目整形。体部外面横方向のハケ目整形。内面上位ヘラナデ。	砂粒・長石・スコリア におい赤褐色 普通	P548 20% P169 覆土中層 外面割線
		B [18.2]				
4	土師器 甕	A [17.3]	体部から口縁部にかけての破片。体部は大きく内彎し、算盤玉状を呈する。口縁部は外反する。口縁部外面に輪縁痕がある。	口縁部外面に指頭圧痕。内面は横方向のハケ目整形。体部外面はハケ目整形。縦方向のヘラナデ。体部内面横方向のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 におい黄褐色 良好	P549 30% P169 覆土中層
		B [16.7]				

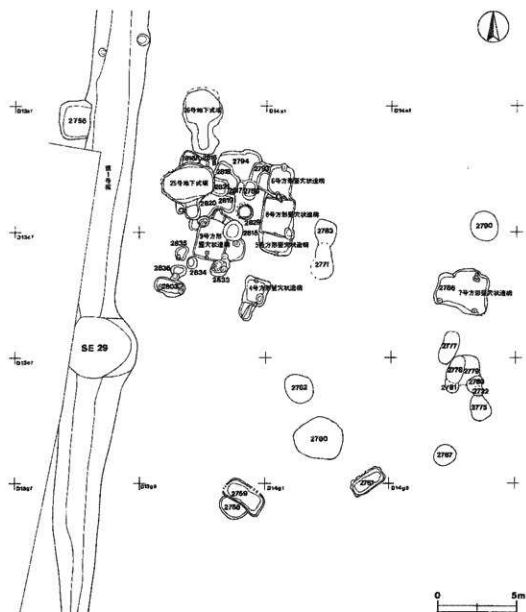
表11 前田村遺跡H区古墳時代住居一覽表

住居跡 番号	方位	主軸方向	平面形	規模(m) (長×短)	壁高 (cm)	床高	内部施設				土	出土遺物	時期	備考 (参照関係)	
							竪溝	柱穴	土間	土間					
485	C12	N-17°-W	長方形	6.93×6.28	6~21	平掘	全周	2	—	—	—	土	瓦、土器、土	前期	SK2890より古
486	C12	N-22°-W	隅丸方形	6.44×6.44	12~42	平掘	3/4	1	—	—	—	土	土器	前期	SI1487より古
488	B12	N-39°-E	隅丸長方形	5.41×4.77	21~37	平掘	—	—	—	1	土	土	瓦、土器、土	前期	
489	C12	N-26°-E	方形	4.47×4.47	4~7	平掘	—	—	—	—	土	土	土器	前期	SI0133より古
490	B12	N-25°-W	隅丸方形	5.98×5.92	12~20	平掘	一部	4	—	1	土	土	土器	前期	SI0129より古
491	B12	N-37°-W	隅丸方形	3.92×3.67	3	平掘	1/4	2	1	—	—	土	土器、土	前期	
492	B13	N-27°-W	隅丸長方形	6.58×5.63	9~16	平掘	1/4	—	—	1	土	土	土器	前期	
494	D12	N-24°-W	長方形	6.08×4.70	18~20	平掘	—	—	—	—	土	土	土器	前期	
495	C13	N-9°-W	隅丸長方形	8.03×6.32	15~21	平掘	2/3	4	—	1	土	土	土器	前期	
496	C13	N-26°-W	隅丸長方形	3.79×3.06	17~20	平掘	—	—	—	—	土	土	土器	前期	
498	C14	N-9°-W	長方形	6.41×5.81	3~9	平掘	3/4	—	—	—	土	土	土器	前期	

3 中・近世の遺構と遺物

中世第3号遺構群 (第518図)

調査日区で中世遺構と思われるものは、ピット群1か所、方形堅穴状遺構8基、長方形土坑6基、地下式竈4基、井戸2基、堀3条、溝1条である。このうち方形堅穴状遺構5基、地下式竈2基等の中世遺構が集中する調査区南部のC13a₉~D14a₁のグリッドに囲まれた範囲を第3号遺構群とする。ここでは、第3号遺構群及び検出した遺構と遺物について記載する。



第518図 第3号遺構群配置図

(1) 方形堅穴状遺構

上坑として調査した第2774、2782、2785、2787、2788、2814、2881号土坑及び第487号住居跡については、その形態などから整理の段階で方形堅穴状遺構とした。以下、遺構と出土遺物について記載する。

第4号方形堅穴状遺構〔SK-2774〕(第519図)

位置 調査区南部，D13a0区。

規模と平面形 長軸1.67m，短軸1.40mの隅丸長方形。

長軸方向 N-19°-E

出入口 南壁西部の壁外に張り出し，確認面から床面に至る3段の階段状の出入口口部を有している。規模は長さ104cm，幅83cmである。

壁 壁高は59cmで，垂直に立ち上がる。

底 平坦で，踏み締められている。南東コーナーには長径66cm，短径41cmの楕円形で，深さ11cmの突出した掘り込みがあり，そこから西側にかけて炭化物が広がっている。

ピット 2か所 (P₁～P₂)。P₁は長径23cm，短径20cmの楕円形で，深さ26cmである。P₂は長径24cm，短径21cmの楕円形で，深さ43cmである。いずれも主柱穴と思われる。

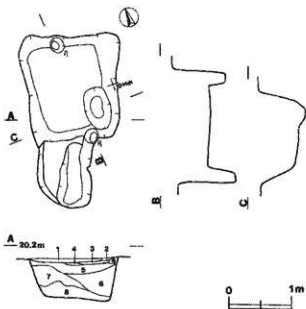
覆土 8層からなり，人為堆積と思われる。

土層観察

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，
焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，
炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，
炭化粒子多量，炭化物中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，焼土小ブロック多量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，
炭化物少量 |

遺物 覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の堅穴状遺構と思われる。



第519図 第4号方形堅穴状遺構実測図

第5号方形堅穴状遺構〔SK-2782〕(第520図)

位置 調査区南部，D14c1区。

重複関係 第8号方形堅穴状遺構に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.10m，短軸(1.12)mの隅丸長方形と推定される。

長軸方向 N-8°-E

壁 壁高は27cmで，垂直に立ち上がる。

ピット 2か所 (P₁～P₂)。P₁は長径29cm，短径23cmの楕円形で，深さ8cmである。P₂は長径20cm，短径15cmの楕円形で，深さ15cmである。P₁は主柱穴と思われるが，P₂の性格は不明である。

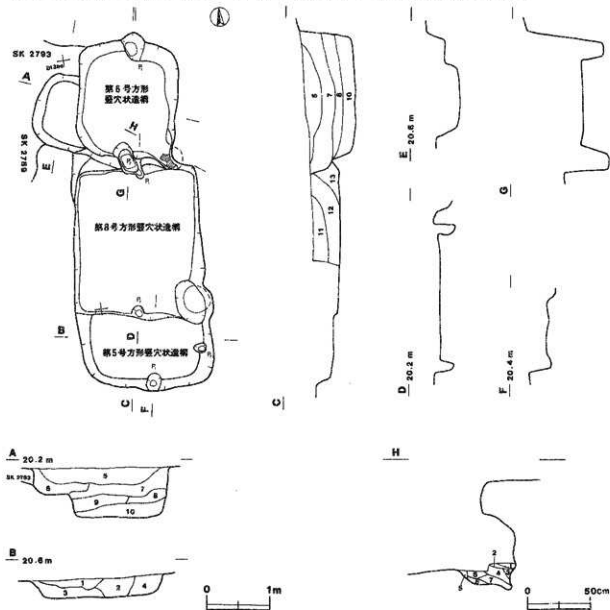
覆土 4層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------|--|
| 1 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |

遺物 覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。



第520図 第5・6・8号方形竪穴状遺構実測図

第6号方形竪穴状遺構〔SK-2785〕(第520図)

位置 調査区南部、D14b1区。

重複関係 西側部分で第2793号土坑を、南側部分で第8号方形竪穴状遺構を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.25m、短軸1.55mの隅丸長方形。

長軸方向 N-12°-E

出入口口 西壁南部の壁外に張り出し、床面から高さ35cmの所に段を持つ。規模は長さ68cm、幅115cmである。

壁 壁高は74~87cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み締められている。南東コーナーには奥行き55cm、深さ21cmの突出した掘り込みがあり、灰が広がっている。

掘り込み部土層解説

- 1 褐色 rome 粒子中量、rome 小ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物少量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物多量、灰少量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物多量
- 4 褐色 焼土粒子少量、炭化物少量、灰多量
- 5 暗赤褐色 rome 粒子中量、焼土粒子少量、炭化物中量
- 6 赤褐色 焼土粒子少量、炭化物少量、灰中量
- 7 暗赤褐色 rome 粒子多量、焼土粒子少量、炭化物少量
- 8 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物多量

ピット 2か所 (P₁~P₂)。P₁は長径45cm、短径33cmの楕円形で、深さ35cmである。P₂は長径50cm、短径24cmの楕円形で、深さ46cmである。いずれも主柱穴と思われる。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 5 褐色 rome 粒子多量、rome 中ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物中量
- 6 褐色 rome 粒子多量、rome 中ブロック多量、焼土粒子少量、炭化物少量
- 7 褐色 rome 粒子多量、rome 中ブロック多量、焼土粒子少量、炭化物少量
- 8 暗褐色 rome 粒子多量、rome 大ブロック中量、炭化物中量
- 9 に近い褐色 rome 粒子中量、rome 大ブロック多量、炭化物少量
- 10 暗褐色 rome 粒子中量、rome 中ブロック中量、炭化物少量

遺物 覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世の竪穴式遺構と思われる。

第7号方形竪穴式遺構 (SK-2787) (第521図)

位置 調査区南部、D14d4区。

重複関係 第2786号土坑の東側を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.81m、短軸(2.10)mの隅丸長方形。

長軸方向 N-5°-E

壁 壁高は45~50cmで、垂直に立ち上がる。

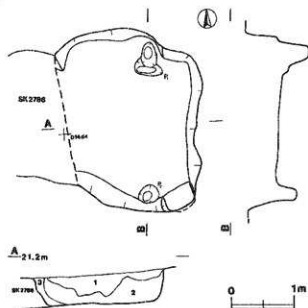
床 平坦で、踏み締められている。南東コーナーには長径57cm、短径30cmの楕円形の突出した掘り込みがある。

ピット 2か所 (P₁~P₂)。P₁は長径40cm、短径24cmの楕円形で、深さ45cmである。P₂は長径32cm、短径29cmの楕円形で、深さ30cmである。いずれも主柱穴と思われる。

覆土 3層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 rome 粒子多量、rome 小ブロック多量
- 2 暗褐色 rome 粒子多量、rome 小ブロック多量、rome 中ブロック中量
- 3 暗褐色 rome 粒子中量、rome 小ブロック少量、rome 中ブロック少量、rome 大ブロック微量



第521図 第7号方形竪穴式遺構実測図

遺物 遺物は出土していない。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。

第8号方形竪穴状遺構〔SK-2788〕(第520図)

位置 調査区南部，D14b1区。

重複関係 本跡は，第5号方形竪穴状遺構の北側を掘り込むため新しく，第6号方形竪穴状遺構に北側を掘り込まれているので古い。

規模と平面形 長軸2.47m，短軸2.07mの長方形。

長軸方向 N-9°-E

壁 壁高は10~25cmで，垂直に立ち上がる。

床 平坦で，踏み締められている。南東コーナーには長径72cm，短径44cmの楕円形の突出した掘り込みがある。

ピット 2か所(P₁~P₂)。P₁は長径16cm，短径11cmの楕円形で，深さ28cmである。P₂は径20cmの円形で，深さ23cmである。いずれも支柱穴と思われる。

覆土 3層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説

11 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

12 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック中量

13 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック少量

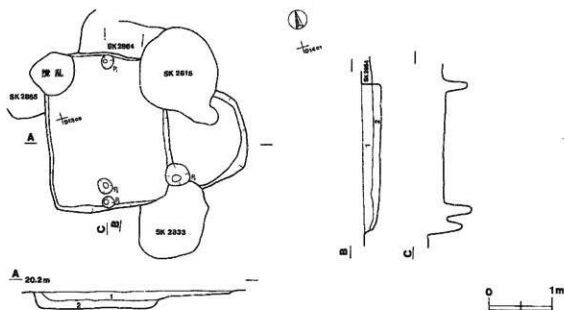
遺物 覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。

第9号方形竪穴状遺構〔SK-2814〕(第522図)

位置 調査区南部，D13c0区。

重複関係 第2815号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。また，第2833・2864・2865号土坑との新旧関係は不明である。



第522図 第9号方形竪穴状遺構実測図

規模と平面形 長軸2.50m, 短軸1.93mの長方形。

長軸方向 N-12°-E

出入口 東壁の壁外に張り出し、床面から20cmの所に段を持つ。規模は長さ120cm, 幅[165]cmで、段から確認面にかけて緩やかなスロープ状を呈している。

壁 壁高は25cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦で、特に中央部が踏み締められている。

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁は長径21cm, 短径19cmの楕円形で、深さ35cmである。P₂は径19cmの円形で、深さ25cmである。P₁・P₂は支柱穴と思われる。P₃は長径25cm, 短径21cmの楕円形、深さ42cmで、性格は不明である。P₄は長径40cm, 短径35cmの楕円形、深さ53cmで、出入口施設に伴うピットと思われる。

覆土 2層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 砂少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, 砂少量

遺物 覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世の堅穴状遺構と思われる。

第10号方形堅穴状遺構〔SK-2881〕(第523図)

位置 調査区西部, C12j6区。

規模と平面形 長軸2.92m, 短軸2.25mの長方形。

主軸方向 N-2°-W

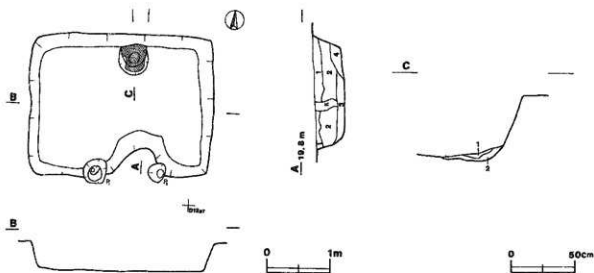
出入口 南壁中央部に半円状の掘り残しがある。規模は長さ70cm, 幅95cmである。

壁 壁高は42~44cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み締められている。北壁中央部には径47cmの円形で、深さ7cmの掘り込みがあり、灰が広がっている。

掘り込み層土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, 赤土粒子中量
- 2 黒褐色 灰多量



第523図 第10号方形堅穴状遺構実測図

ピット 2か所 (P₁~P₂)。P₁は径37cmの円形で、深さ42cmである。P₂は径29cmの円形で、深さ53cmである。いずれも出入り口施設に伴うピットと思われる。

覆土 4層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------|--|
| 1 緑褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量、ローム大ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |

遺物 覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。

第11号方形竪穴状遺構〔SI-487〕(第524図)

位置 調査区西部、C12e2区。

重複関係 第486号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。また、第132号溝との新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸10.39m、短軸3.91mの長方形。

長軸方向 N-1°-E

出入り口 東壁南部に壁外に張り出し、床面から高さ14cmの所に緩斜のある段を持つ。規模は長さ148cm、幅212cmである。

壁 壁高は61~82cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁下と西壁下及び東壁下で検出され、上幅12~20cm、下幅5~13cm、深さ3cmほどで、断面形は皿状をしている。

床 平坦で、出入り口付近を中心に踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は径21cmの円形で、深さ21cmである。P₂は、径25cmの円形で、深さ17cmである。P₃は長径22cm、短径17cmの楕円形で、深さ81cmである。P₄は、長径34cm、短径30cmの楕円形で、深さ90cmである。各ピットとも出入り口施設に伴うピットと思われる。

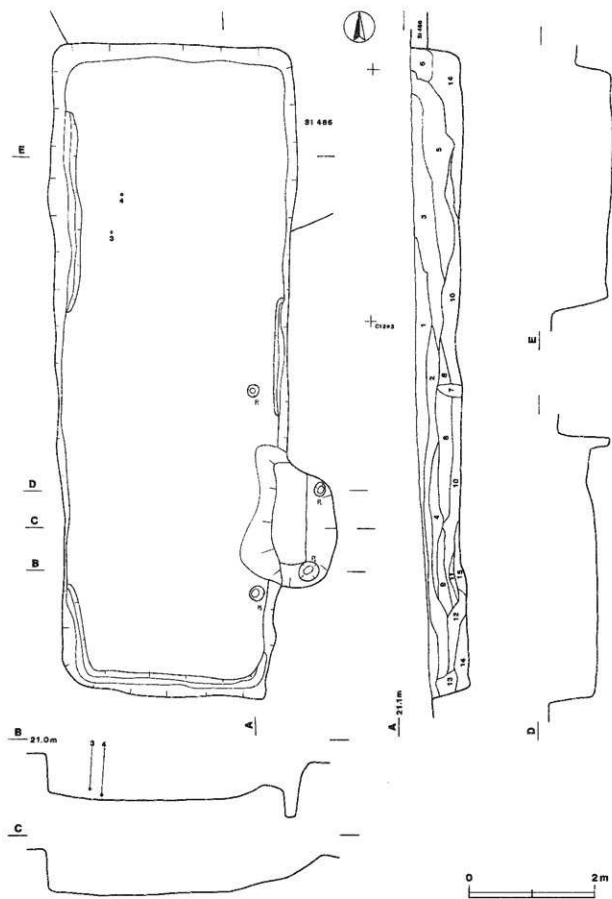
覆土 15層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック微量 |
| 9 暗褐色 | ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量、粘土粒子少量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、粘土粒子少量 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量 |
| 13 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |
| 14 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |
| 15 黒褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子多量 |

遺物 土師器片30点、土師質土器4点と陶器片8点が覆土から出土している。第525図1・2は土師質土器小皿である。3・4の土師質土器小皿は、北側西壁付近の床面から正位の状態で出土している。

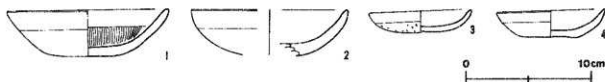
所見 本跡は、遺構の形態や出土遺物から中世の竪穴状遺構と思われる。



第524图 第11号方形竖穴状遗构实测图

第11号方形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	形 種	計測値(cm)	器形の特徴	口辺の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第525図 1	小 皿 土師瓦土器	A 12.6 B 3.7	底部、体部一部欠損。先端、体部は縦やかに内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ、体部内面へうろつき、赤ロクロ成形。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P505 80% PL69 瓦土 内面割線
2	小 皿 土師瓦土器	A [12.4] B 3.3	底部から口縁部にかけての破片。体部は縦やかに内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。赤ロクロ成形。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P506 30% 焼上
3	小 皿 土師瓦土器	A 8.2 B 1.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は縦やかに内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。赤ロクロ成形。	細砂・スコリア にふい登色 良好	P507 95% PL69 焼上
4	小 皿 土師瓦土器	A 8.6 B 2.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は縦やかに内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ。赤ロクロ成形。	細砂・雲母 褐色 良好	P508 90% PL69 焼上 内・外面割線



第525図 第11号方形竪穴状遺構出土遺物実測図

表12 前田村遺跡H区方形竪穴状遺構一覽表

遺構 番号	位置	長軸方向	下面形	規模(m)	埋高 (cm)	内部施設			出土遺物	時期	備 考 (重複関係)			
						床面	土柱穴	ピット						
4	D13	N-19°-E	隅丸長方形	1.67×1.49	59	平壇	—	2	—	—	人為	中世		
5	D14	N-8°-E	隅丸長方形	6.58×4.92	27	平壇	—	1	1	—	人為	中世	SK2788より古	
6	D14	N-12°-E	隅丸長方形	2.25×1.55	74~87	平壇	—	2	—	—	自然	中世	SK2788より新、SK2962より新、SK269と重複	
7	D14	N-5°-E	隅丸長方形	2.81×2.10	45~50	平壇	—	2	—	—	人為	中世	SK2788より新	
8	B14	N-9°-E	長方形	2.47×2.07	10~25	平壇	—	2	—	1	自然	中世	SK2782より新、SK2785より古	
9	B13	N-12°-E	長方形	2.50×1.93	25	平壇	—	2	1	2	自然	中世	SK2815より古、SK2833、2864、2865と重複	
10	C12	N-2°-E	長方形	2.92×2.25	42~44	平壇	—	—	—	4	自然	中世		
11	C12	N-1°-E	長方形	10.39×3.91	61~82	平壇	—	—	—	—	人為	皿、小皿	中世	SK486より新、SD132と重複

(2) 長方形土坑

H区では、中世の地下式墳及び長方形の堅穴状遺構が確認されている。これらの遺構の近くから、平面形が長方形の土坑が、6基検出されている。これらは前者と覆土が近似することから中世の土坑と思われるが、地下式墳や堅穴状遺構との関連を考慮すると、土坑のいくつかは中世の墓塚の可能性もある。ここでは、検出された長方形土坑について記載する。

第2756号土坑 (第526図)

位置 調査区南部, D13as区。

重複関係 第1号堀と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸2.40m, 短軸(1.95m)の隅丸長方形と推定され、深さ66cmである。

長軸方向 N-1°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 4層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微粒, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中粒, ローム中ブロック中粒
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック中量

遺物 覆土から縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないため、時期及び性格は不明である。

第2759号土坑 (第526図)

位置 調査区南部, D13g0区。

重複関係 第2758号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.68m, 短軸1.37mの隅丸長方形で、深さ50cmである。

長軸方向 N-52°-W

壁 厚さ2~9cmの粘土貼りで、外傾して立ち上がる。

床 厚さ9cmの粘土貼りで、平坦である。

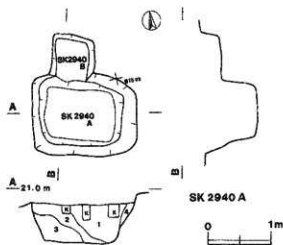
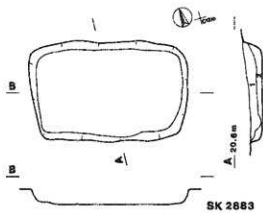
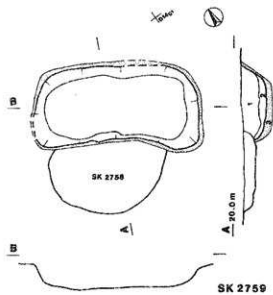
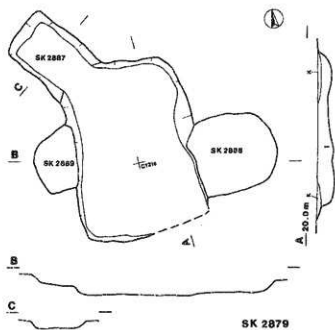
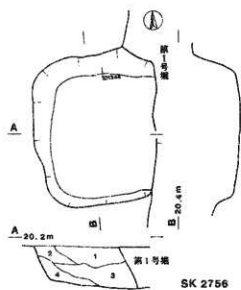
覆土 2層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 黄褐色 粘土粒子多量

遺物 覆土から縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが、遺構全体を粘土で貼っていることから墓塚の可能性がある。



第526图 第2756·2759·2761·2879·2883·2940 A号土坑实测图

第2761号土坑 (第526図)

位置 調査区南部, D14 (2区)。

規模と平面形 長軸2.18m, 短軸1.12mの隅丸長方形で, 深さ17cmである。

長軸方向 N-56°-E

壁 厚さ1~15cmの粘土貼りで, 外傾して立ち上がる。

床 厚さ4~8cmの粘土貼りで, 平坦である。

覆土 3層からなり, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 黑色粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 粘土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 黑色粒子多量, 粘土粒子少量
- 4 黄褐色 粘土粒子多量

遺物 覆土から縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが, 遺構全体を粘土で貼っていることから墓塚の可能性はある。

第2879号土坑 (第526図)

位置 調査区西部, C12 (6区)。

重複関係 第2887・2888・2889号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸2.85m, 短軸1.90mの隅丸長方形で, 深さ30cmである。

長軸方向 N-4°-W

壁 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

覆土 単一層であり, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック少量

遺物 遺物は出土していない。

所見 遺物が出土していないため, 時期及び性格は不明である。

第2883号土坑 (第526図)

位置 調査区西部, C12 (9区)。

規模と平面形 長軸2.46m, 短軸1.57mの隅丸長方形で, 深さ25cmである。

長軸方向 N-73°-W

壁 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

覆土 2層からなり, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック中量

遺物 遺物は出土していない。

所見 遺物が出土していないため, 時期及び性格は不明である。

第2940 A号土坑 (第526図)

位置 調査区北東部, B15eil区。

重複関係 第2940B号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸1.66m, 短軸1.32mの隅丸長方形で、深さ85cmである。

長軸方向 N-74°-W

壁 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

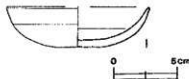
覆土 4層からなり、人為堆積と思われる。

土層観察

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量

遺物 覆土から縄文土器片と土師質土器片1点が出土している。第527図1は土師質土器小皿である。

所見 出土遺物が少ないが、中世のものと思われる。



第527図 第2940 A号土坑出土遺物実測図

第2940 A号土坑出土遺物観察表

図版番号	品 種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地成	備 考
第527図 1	小 皿 土師質土器	A [11.2] B 3.2	底面から口縁部にかけての破片。丸底、 体部は内傾しながら立ち上がり口縁部 に定る。	口縁部内・外面磨ナマ、溝口クロ 成形。	砂粒・雲母・スクリヤ (外) 褐色 (内) にぶい赤褐色 普通	D608 30% 覆土

表13 前田村遺跡H区中世土坑一覧表

土 坑 番 号	位置	長軸方向	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (重複関係)
				長軸 × 短軸 (m)	深さ (cm)					
2756	D13 ₁	N-1°-E	[隅丸長方形]	2.40 × [1.95]	66	外傾	平坦	人為		SD128と重複
2759	D13 ₂	N-52°-W	隅丸長方形	2.68 × 1.37	30	外傾	平坦	人為		SK2738より古
2761	D14 ₁	N-56°-E	隅丸長方形	2.18 × 1.12	17	外傾	平坦	人為		
2879	C12 ₁	N-4°-W	隅丸長方形	2.85 × 1.90	30	外傾	平坦	人為		SK2887、2888、2889と重複
2883	C12 ₂	N-79°-W	隅丸長方形	2.46 × 1.57	25	外傾	平坦	人為		
2940A	B15 ₁	N-74°-W	隅丸長方形	1.66 × 1.32	85	外傾	平坦	人為	小皿	SK2940Bと重複

表14 前田村遺跡H区その他の土坑一覧表

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 (重複関係)
				長 軸 × 短 軸(m)	深さ(cm)					
2758	D14 _外	N-56°-W	不整形円形	1.82 × (1.13)	18	外傾	平坦	自然		SK2759より前
2777	D14 _外	N-22°-E	長 楕 円 形	2.10 × 1.00	20	緩斜	平坦	自然		
2786	D14 _外	N-10°-E	(舟 形)	(2.00) × (0.81)	35	垂直	平坦	自然		SK2787より古
2789	D13 _外	N-0°	(栞 円 形)	1.24 × (0.84)	29	外傾	平坦	—		SK2790, 2794, 2817と重複
2793	D14 _外	N-16°-E	(方 形)	(1.39) × (1.13)	31	緩斜	平坦	人為		SK2785より古, SK2794より古, SK2799と重複
2794	D13 _外	N-82°-W	(不 定 形)	(2.77) × (2.02)	23	緩斜	平坦	自然		SK2789, 2793, 2817, 2818と重複
2815	D13 _外	—	円 形	1.33 × 1.25	87	外傾	平坦	人為		SK2814と重複
2816A	D13 _外	N-80°-E	(長 方 形)	(1.23) × (0.82)	44	外傾	平坦	—		SK2813, 2816Bと重複
2816B	D13 _外	N-73°-W	(方 形)	(0.54) × (0.45)	21	緩斜	平坦	—		SK2813, 2816Aと重複
2817	D13 _外	N-12°-E	(不 整 長 円 形)	(1.31) × (0.66)	19	緩斜	平坦	人為		SK2812より新, SK2790, 2794, 2818, 2819と重複
2818	D13 _外	N-16°-E	(隅 丸 方 形)	(1.19) × (1.10)	—	—	—	—		SK2794, 2813, 2817, 2821と重複
2819	D13 _外	N-15°-E	(隅 丸 台 形)	(1.05) × (0.97)	40	外傾	平坦	人為		SK2817, 2820, 2821と重複
2820	D13 _外	—	不 明	(1.60) × (1.04)	45	緩斜	平坦	—		SK2813, 2814, 2819, 2821, 2864, 2865と重複
2821	D13 _外	N-19°-E	(隅 丸 長 方 形)	(1.05) × (0.95)	62	緩斜	平坦	自然		SK2812より古, SK2817より古, SK2818-2820と重複
2825	D13 _外	N-77°-E	長 楕 円 形	2.50 × 1.21	31	緩斜	平坦	人為		
2833	D13 _外	N-18°-E	(楕 円 形)	(1.14) × (1.05)	52	垂直	平坦	人為		SK2814と重複
2864	D13 _外	N-83°-W	(不 定 形)	(0.85) × (0.70)	14	緩斜	平坦	—		SK2814と重複
2965	D13 _外	—	不 明	(0.70) × (0.69)	20	緩斜	平坦	—		上陶質土器小皿
2887	C12 _外	N-33°-W	[長 方 形]	[1.27] × 0.87	12	緩斜	平坦	—		SK2879と重複
2888	C12 _外	—	不 整 円 形	(1.33) × 1.25	17	緩斜	平坦	—		SK2879と重複
2889	C12 _外	N-19°-E	不 定 形	1.09 × (0.76)	21	緩斜	平坦	—		SK2879と重複
2890	C12 _外	N-7°-E	楕 円 形	1.51 × 1.07	26	外傾	平坦	人為		
2904	C14 _外	N-83°-E	楕 円 形	1.74 × 1.52	19	外傾	平坦	自然		
2929	C13 _外	N-42°-W	隅 丸 方 形	1.78 × 1.30	21	外傾	平坦	人為		
2930	B15 _外	N-12°-W	隅 丸 方 形	1.99 × 1.92	23	緩斜	平坦	人為		SK2936と重複
2940B	B15 _外	N-17°-E	方 形	0.74 × 0.69	31	外傾	平坦	—		SK2940Aと重複
2948	C12 _外	—	円 形	1.05 × 0.97	40	外傾	平坦	自然		
2955	B15 _外	N-76°-W	長 方 形	(7.10) × 1.20	52	外傾	平坦	人為		SK956と重複, 『墓に灰化物を多数に含む
2956	B13 _外	N-26°-E	(楕 円 形)	1.12 × (0.68)	15	—	—	—		SK2930, 2936と重複
2962	B15 _外	—	円 形	1.56 × [1.29]	38	外傾	平坦	自然		
2963	B15 _外	N-71°-W	不 整 楕 円 形	2.16 × 1.45	58	垂直	平坦	自然		
2968	A19 _外	—	円 形	1.23 × 1.14	65	垂直	平坦	自然		
2969	C13 _外	N-46°-E	楕 円 形	1.74 × 1.12	18	緩斜	平坦	自然		
2972	C13 _外	N-32°-W	楕 円 形	0.97 × 0.81	56	外傾	平坦	自然		SI495と重複
2973	C12 _外	N-4°-E	楕 円 形	2.12 × 1.47	21	緩斜	平坦	人為		
2975	B15 _外	N-58°-W	楕 円 形	1.74 × 1.03	12	垂直	平坦	自然		
2977	B13 _外	N-8°-W	不 整 楕 円 形	1.45 × 0.94	30	外傾	平坦	人為		
2980	B15 _外	N-8°-E	(隅 丸 方 形)	1.25 × (0.86)	69	垂直	平坦	自然		
2981	B15 _外	N-87°-E	楕 円 形	1.82 × 0.68	29	外傾	平坦	人為		

(3) 地下式墳

H区では、地下式墳4基を検出した。

第25号地下式墳〔SK-2813〕(第528図)

位置 調査区南部，D13b9区。

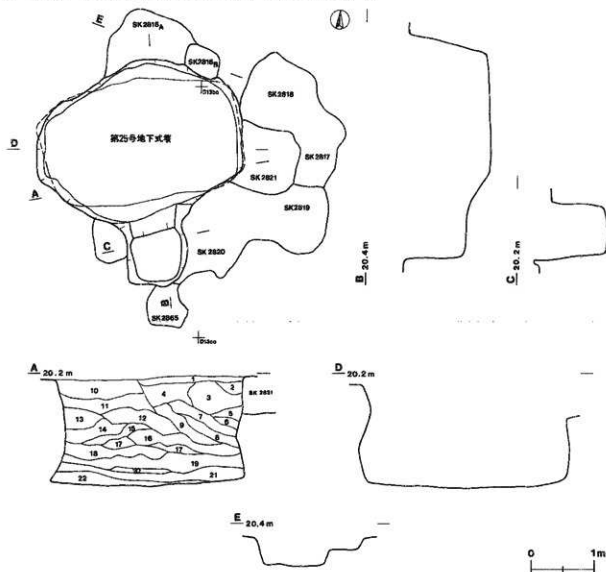
重複関係 第2820・2821号土坑を掘り込んでおり，本跡が新しい。また，第2816A・B，2817，2818，2819，2865号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

主軸方向 N-8°-E

竪坑 上面は，長径0.97m，短径0.87mの不整楕円形で，深さ1.12mである。底面は，長径0.80m，短径0.77mの不整楕円形である。主室に向かって，スロープ状になっている。

主室 底面は，長径3.11m，短径1.94mの不整楕円形で，平坦である。常総粘土層まで掘り込まれており，確認面から底面までの深さは，1.61mである。

壁 竪坑は，ほぼ垂直に立ち上がる。主室は，内傾して立ち上がる。



第528図 第25号地下式墳実測図

覆土 22層からなる。1～18層には、ロームブロックが含まれ、人為的に埋め戻されたものと思われる。19～22層は、天井部の崩落土と思われる。

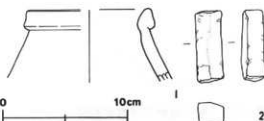
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子微量
3	褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、黒色粒子多量
4	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、ローム大ブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
5	褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、黒色粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量、ローム大ブロック微量
7	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック多量、ローム大ブロック多量
9	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック微量、ローム大ブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量、炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
12	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック微量、ローム大ブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
14	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック少量、焼土粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
16	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
17	褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック中量、黒色粒子少量
18	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック中量
19	褐色	ローム小ブロック多量、ローム中ブロック多量、ローム大ブロック多量、黒色粒子微量
20	暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少量、黒色粒子少量
21	褐色	ローム小ブロック多量、ローム中ブロック多量、ローム大ブロック中量、粘土粒子少量
22	褐色	ローム小ブロック多量、ローム中ブロック多量、粘土粒子中量

遺物 覆土から砥石、陶器甕、土師質土器片や縄文土器

片が出土している。第529図1は陶器甕、2は凝灰岩の砥石である。

所見 出土遺物や遺構の形態から中世のものと思われる。



第25号地下式竪出土遺物観察表

第529図 第25号地下式竪出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第529図 1	甕 陶器	A (9.8) B (5.7)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は二重口縁で、断面は三角形を呈している。	外面ロクロナデ。体部外面に自然焼成がみえる。	砂状石英・スコリア 褐色 普通	P587 15% 覆土 常備

図版番号	器種	計測値			石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
第529図2	砥石	(5.7)	2.2	1.9	(38.0)	凝灰岩 Q508 覆土

第26号地下式竪〔SK-2830〕(第530図)

位置 調査区南部，D13a9区。

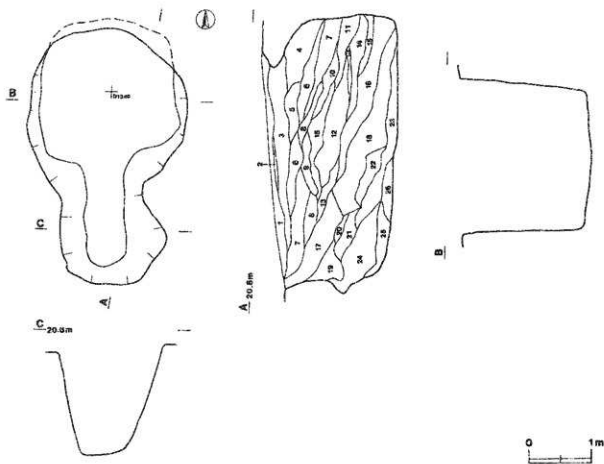
主軸方向 N-3°-W

竪坑 上面は、長径2.05m、短径1.70mの不整形円形で、深さ1.68mである。底面は、長軸1.68m、短軸0.64mの長方形である。主室の底面との段差はなく平坦である。

主室 底面は、長軸2.22m、短軸2.20mの方形で、平坦である。粘土層まで掘り込まれており、確認面から底面までの深さは、2.00mである。

壁 竪坑は、外傾して立ち上がる。主室は、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 26層からなる。12・14・16・18・22・26層は天井部が崩落したものと思われる。他の土層はロームブロックを多量に含むことから、人為的に埋め戻されたものと思われる。



第530図 第26号地下式横実測図

土層解説

- | | |
|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗色 | 焼土粒子微量, 炭化粒子微量, 黒色粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック微量, 黒色粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム大ブロック中量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック中量 |
| 12 褐色 | ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック少量, 黒色粒子少量 |
| 13 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック多量 |
| 14 褐色 | ローム大ブロック多量, 黒色粒子中量 |
| 15 焦褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子微量★ |
| 16 明褐色 | ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック多量 |
| 17 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック微量 |
| 18 明褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック多量, 黒色粒子微量 |
| 19 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量 |
| 20 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量 |
| 21 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック中量 |
| 22 明褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック多量 |
| 23 暗褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量 |
| 24 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 25 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック中量, 粘土粒子微量 |
| 26 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 粘土粒子多量 |

遺物 覆土から土師器土器片や縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定できる出土遺物はないが、遺構の形態から中世のものと思われる。

第27号地下式墳〔SK-2944〕(第531図)

位置 調査区北東部, B15e1区。

重複関係 第137号溝と重複しているが, 新旧関係は不明である。

主軸方向 N-9°-E

堅坑 上面は, 長径0.99m, 短径0.92mの不整形円形で, 深さ1.91mである。底面は, 長径0.97m, 短径0.85mの不整形円形である。主室への通路は, やや狭くなっており天井部が残っている。主室の底面との段差はなく平坦である。

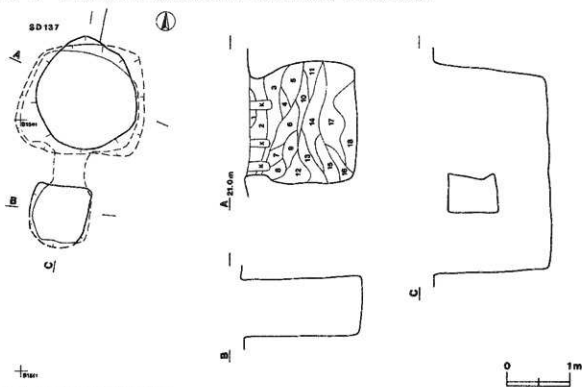
主室 底面は, 長径1.84m, 短径1.52mの不整形円形で, 平坦である。確認面から底面までの深さは, 1.80mである。天井部が, 一部残存している。

壁 堅坑と主室は, ほほ垂直に立ち上がる。

覆土 18層からなる。15~18層は天井部が崩落したものである。他の土層はロームブロックを多量に含むことから, 人為的に埋め戻されたものである。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック多量
4 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量
5 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック多量
6 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子微量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
8 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量
9 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
10 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量
11 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量
12 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック微量
13 暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック少量
14 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
15 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック中量
16 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック多量
17 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック中量
18 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック多量, ローム大ブロック多量



第531図 第27号地下式墳実測図

遺物 遺物は出土していない。

所見 出土遺物はないが、遺構の形態から中世のものと思われる。

第28号地下式竈〔SK-2947〕(第532図)

位置 調査区北東部, A15j7区。

主軸方向 N-16°-E

竈坑 上面は、長径1.63m、短径1.53mの不整形円で、深さ0.88mである。底面は、長径1.29m、短径0.95mの楕円形である。主室に向かってわずかに傾斜し、0.4mほどの段差が見られる。

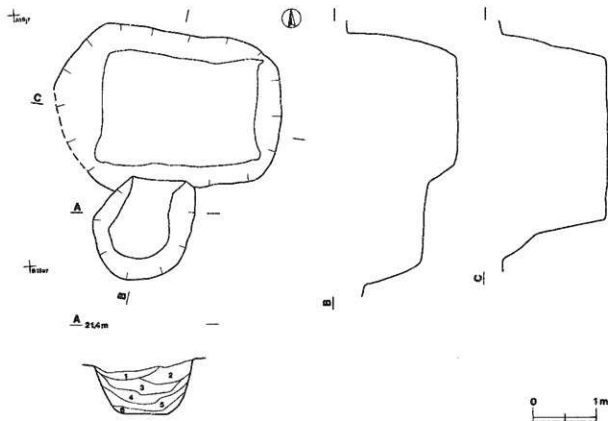
主室 底面は、長軸2.60m、短軸1.84mの長方形で、平坦である。確認面から底面までの深さは、1.74mである。

壁 竈坑と主室は、外傾して立ち上がる。

覆土 6層からなる。4～6層は天井部が崩落したものと思われる。他の土層はロームブロックを含むことから、人為的に埋め戻されたものと思われる。

土層解説

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量 |



第532図 第28号地下式竈実測図

遺物 遺物は出土していない。

所見 出土遺物はないが、遺構の形態から中世のものと思われる。

表15 前田村遺跡H区地下式墳一覽表

地下式 番号	位置	長軸方向	平面形と規模(m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (兼埋蔵品)	
			平面形		底面形							深さ
			長軸×短軸	短軸×長軸	長軸×短軸	短軸×長軸						
25	D13	N-8°-W	壁坑	不明	不明	不明	不明	不明	垂直	平埴	人為	SG2820より新、2821より新、 SG2816A-B-2819、2863と重複
			主室	不明	不明	不明	不明	不明				
26	D13	N-3°-W	壁坑	不明	不明	不明	不明	不明	垂直	平埴	人為	
			主室	不明	不明	不明	不明	不明				
27	B15	N-9°-E	壁坑	不明	不明	不明	不明	不明	垂直	平埴	人為	SD137と重複
			主室	不明	不明	不明	不明	不明				
28	A15	N-16°-E	壁坑	不明	不明	不明	不明	不明	垂直	平埴	人為	
			主室	不明	不明	不明	不明	不明				

(4) 井戸

H区では、井戸2基を検出した。調査では第26・27号井戸としたが、前回の調査・整理で井戸としたものが増加したため、第29・30号井戸と改称した。

第29号井戸〔SE26〕(第533図)

位置 調査区南部，D13a区。

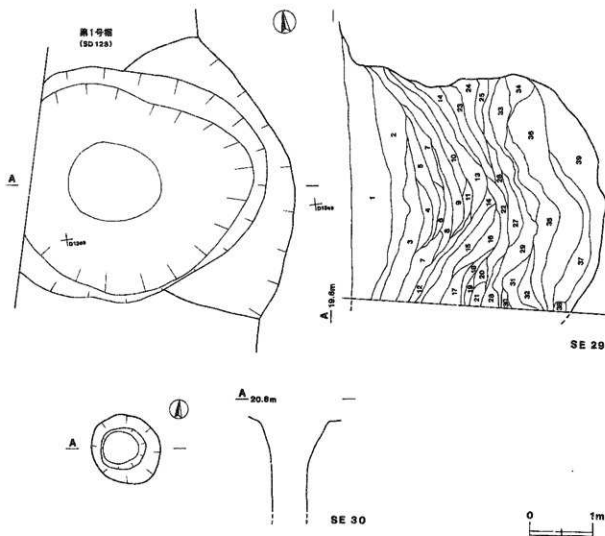
重複関係 第1号堀を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と形状 掘り方は，長径(4.20)m，短径(3.65)mの楕円形と推定され，深さ4.03mである。底面は皿状で，形状は瓢箪形である。

覆土 39層からなる。ロームブロックを含む層が多いことから，人為的に埋め戻されたものと思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
4 灰褐色	ローム粒子微量，炭化物微量
5 暗褐色	ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子少量，炭化物少量，灰褐色粘土粒子少量
7 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
8 暗褐色	ローム粒子微量，灰褐色粘土粒子微量



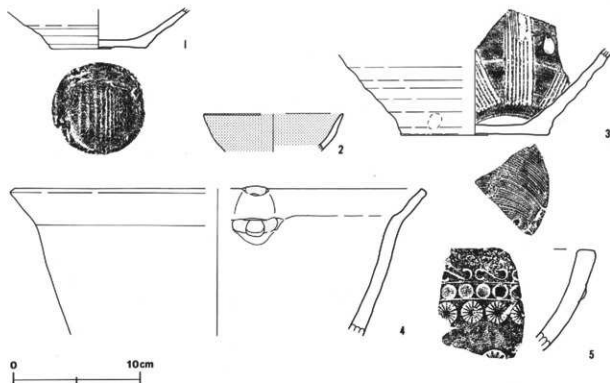
第533図 第29・30号井戸実測図

9	暗褐色	ローム粒子少量	ローム小ブロック少量	ローム中ブロック微量
10	暗褐色	ローム粒子少量	ローム小ブロック少量	ローム中ブロック微量
11	黒褐色	ローム粒子少量	ローム小ブロック少量	炭化物微量
12	暗褐色	ローム粒子中量	ローム小ブロック中量	ローム中ブロック少量
13	黒褐色	ローム粒子微量	ローム小ブロック微量	炭化物微量
14	暗褐色	ローム粒子少量	ローム小ブロック少量	ローム中ブロック少量
15	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	ローム中ブロック中量
16	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	ローム中ブロック中量
17	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	ローム中ブロック中量
18	黒褐色	ローム粒子微量	炭化物微量	炭褐色粘土粒子少量
19	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	炭褐色粘土小ブロック多量
20	黒褐色	ローム粒子多量	炭化物多量	ローム中ブロック少量
21	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	
22	黒褐色	ローム粒子微量	炭化物微量	炭褐色粘土粒子微量
23	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	
24	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	炭褐色粘土粒子少量
25	暗褐色	炭褐色粘土中ブロック中量		
26	暗褐色	ローム粒子中量	ローム小ブロック中量	炭褐色粘土小ブロック中量
27	暗褐色	ローム粒子少量	ローム小ブロック少量	炭褐色粘土小ブロック少量
28	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	ローム中ブロック少量
29	暗褐色	炭褐色粘土中ブロック少量		炭褐色粘土小ブロック多量
30	暗褐色	ローム粒子微量	炭褐色粘土粒子微量	炭褐色粘土中ブロック少量
31	暗褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	炭褐色粘土小ブロック多量
32	暗褐色	炭褐色粘土大ブロック中量		炭褐色粘土中ブロック中量
33	にぶい黄褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	炭褐色粘土小ブロック多量
34	にぶい黄褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	炭褐色粘土中ブロック中量
35	にぶい黄褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	炭褐色粘土小ブロック多量
36	灰黄褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	炭褐色粘土中ブロック中量
37	にぶい黄褐色	ローム粒子少量	炭褐色粘土粒子少量	炭褐色粘土小ブロック多量
38	にぶい黄褐色	ローム粒子少量	炭褐色粘土粒子少量	炭褐色粘土小ブロック多量
39	にぶい黄褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック多量	炭褐色粘土中ブロック中量
		炭褐色粘土大ブロック少量		

遺物 覆土から瀬戸・美濃系陶器の指輪や小皿（室町時代）、土師質土器の内耳鍋や鉢が出土している。第534

図5は瓦器の火舎で、口縁部に2条の線刻、横位のS字文、貼付の円形浮文や押印を施している。また、底面から木杭2本が垂直に刺した状態で出土している。

所見 遺物が覆土から出土しているため時期を判定できないが、中世のものと思われる。



第534図 第29号井戸出土遺物実測図

第29号井戸出土遺物観察表

出願番号	器 種	計測値(cm)	器形の特徴	子証の特徴	泥土・色調・組成	備 考
第534図 1	鉄 土製土器	B (3.1) C 7.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。 体部は外反する。	底部回転糸切り痕。ナテ。	砂粒・石英・スコウア 褐色 普通	P562 10% 雑土
2	小 皿 灰地陶器	A [11.0] B (3.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部 はわずかに内彎しながら立ち上がり、 口縁部に至る。	内・外面に輪が施されている。	織物・白色砂子 ナリーツ雲色 良好	P565 10% 雑土 瀬戸・美濃系
3	種 鉢 陶 器	B (6.8) C [11.6]	底部から体部にかけての破片。平底。 体部は内彎しながら立ち上がる。唇部 外縁下に微細な痕がある。	体部内・外面クロコナテ。体部内 面には7案一庫位の筋目が施され ている。底部回転糸切り。	砂粒・石英 灰赤色 良好	P564 10% P170 雑土 瀬戸・美濃系
4	内 皿 類 土製土器	A [31.6] B 12.0	体部から口縁部にかけての破片。体部 はわずかに内彎しながら立ち上がり、 口縁部に至る。内耳欠損。	口縁部内・外面クロコナテ。二次 焼成を受けている。	砂粒・黄砂・石英・ 長石・小礫 褐色 普通	P563 10% 雑土 内・外両面焼

第30号井戸〔SE27〕(第533図)

位置 調査区北東部、B15c1区。

重複関係 第137号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と形状 掘り方は、長径1.19m、短径1.03mの楕円形である。形状は、0.46mの深さまで傾斜を持ち、そこから下はほぼ垂直に掘り込まれ、漏斗状をしている。深さ1.56mまで調査したが、それ以下は未完掘である。

遺物 遺物は出土していない。

所見 遺物は出土していないため、時期は不明である。

(5) 堀

第128・129号溝として調査した遺構は、整理の段階で堀として扱うことにした。以下、検出した堀と出土遺物について記載する。

第1号堀〔SD-128〕(付図・第535図)

位置 調査区中央部、B13~D13区。

遺構関係 第29号井戸に掘り込まれており、本跡が古い。また、第2号測Aと同時期で第2号堀Bより新しい。第130号溝、第2756号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 規模は長さ(88.7)m、上幅1.55~4.00m、下幅1.55~2.15m、深さ0.60~1.37mである。断面形は箱築である。

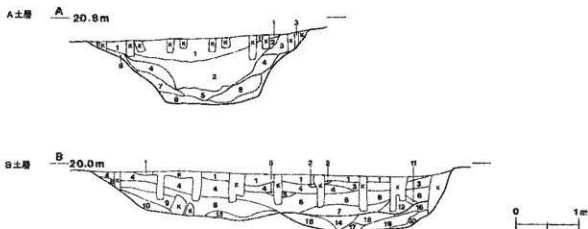
方向 南北方向(N-5°-E)にはほぼ直線的に延びているが、さらに南側は調査区域外に延びるものと思われる。

底 平坦である。

覆土 第13層までは、第1号堀の土層である。また、第14層から第20層までが第2B号堀の土層である。第1号堀は人為堆積と思われる。

A土層解説		6	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック多量
1	暗褐色	7	褐色	ローム粒子多量
2	黒褐色	8	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック多量
3	黒褐色	9	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
4	暗褐色			
5	褐色	12	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック多量
B土層解説		13	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
1	暗褐色	14	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック多量
2	にぶい赤褐色	15	褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック多量
3	暗褐色	16	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量
4	褐色	17	褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック少量
5	褐色	18	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
6	褐色	19	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック多量
7	褐色	20	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック多量
8	褐色			
9	褐色			
10	褐色			
11	褐色			

遺物 第536図1~7は土師質土器の小皿で、1~4は平底、5~7は丸底である。8は甕、9は片口鉢で、ともに常滑産の陶器である。10は、凝灰岩の砥石である。

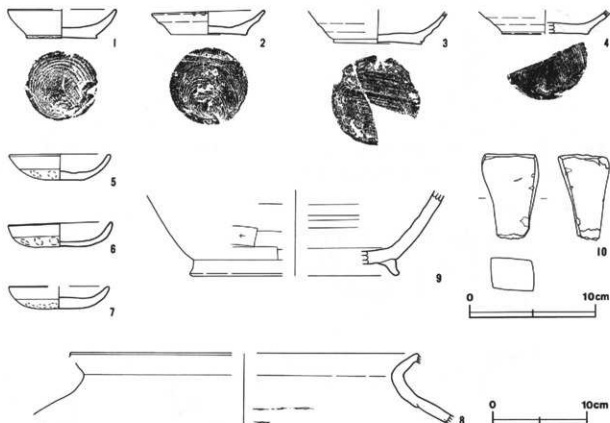


第535図 第1号堀実測図

所見 本跡の時期は、出土遺物から中世（13世紀前葉）と思われる。

第1号堀出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第536図 1	小 皿 土師質土器	A [8.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内部ヘラナデ。底部回転承切り。	砂粒・雲母・ 褐色 普通	P552 60% PL69 覆土
		B 2.3				
		C 5.4				
2	小 皿 土師質土器	A 8.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部と口縁部の境に稜を持ち、口縁部は外彎する。	口縁部内・外面及び体部外面ロクロナデ。底部回転承切り。	砂粒・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P553 70% PL69 覆土
		B 2.0				
		C 6.0				
3	小 皿 土師質土器	B (2.7)	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎する。	底部回転承切り後、ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 淡黄褐色 普通	P555 50%
		C 7.0				
4	小 皿 土師質土器	B (1.9)	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎する。	底部回転承切り後、ヘラナデ。	細砂・長石・雲母 褐色 良好	P556 30%
		C (6.8)				
5	小 皿 土師質土器	A 7.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。体部外面に指頭圧痕がある。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。非ロクロナデ形。	砂粒・スコリア 褐色 普通	P550 99% PL69 覆土
		B 2.1				
6	小 皿 土師質土器	A 8.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。体部外面に指頭圧痕がある。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。非ロクロナデ形。	細砂・雲母・長石 明赤褐色 良好	P551 70% PL69 覆土
		B 2.0				
7	小 皿 土師質土器	A (7.8)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。底部内面は内彎にわずかに膨らむ。体部外面に指頭圧痕がある。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。非ロクロナデ形。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P554 65% 覆土
		B 2.3				



第536図 第1号堀出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第536図 8	壺 陶器	A (36.4)	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁は外反する。	体部内面ロクロナデ。体部外面に自然輪がかかる。	砂粒・石英・小礫 灰褐色 (輪)オリーブ褐色 良好	P557 5% 覆土 常陸13世紀
		B (7.5)				
9	片口鉢 陶器	B (6.8)	高台部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下位横方向のヘラ削り。内面ヘラナデ。底部は切り離し後、高台貼り付け。高台部ロクロナデ。	砂粒・長石 陶灰色 普通	P558 5% P169 覆土 常陸13世紀
		D (16.6)				
		E 1.3				

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第536図10	砥石	(6.8)	4.5	4.0	(137.0)	陶灰岩	Q501 覆土

第2 A・B号堀〔SD-129〕(付図・第537図)

位置 調査区北部, B13~14区。

重複関係 第1号堀と第2 A号堀は同時期と思われる。また, 第2 B号堀は第2 A号堀より古いと思われる。

規模と形状 堀Aの規模は長さ(33.7)m, 上幅3.60~4.60m, 下幅2.40~2.90m, 深さ0.90~0.95mである。

堀Bの規模は下幅1.00~2.00mである。断面形はともに箱築である。

方向 東西方向(N-87°-E)にはほぼ直線的に延びているが, さらに西側と東側は調査区域外に延びるものと思われる。

底 ともに平坦である。

覆土 第1層から第9層は堀Aの土層, 第10層から第12層は堀Bの土層で, ともに人為堆積と思われる。

土層解説

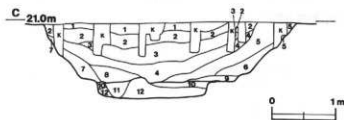
1 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック中量	8 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
2 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量	9 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量
3 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック多量	10 褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック多量
4 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	11 極暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック多量
5 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック多量	12 暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック多量
6 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック多量		
7 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック少量		

遺物 覆土から土師質土器小皿, 陶器片が出土している。獣骨はウマである。

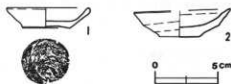
所見 本跡の時期は, 出土物から中世と思われる。

第2 A・B号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第538図 1	小皿 土師質土器	A 6.6	底部から口縁部にかけての破片。わずかに内彎する平底。体部はわずかに内彎し, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英・スロリア 淡赤褐色 普通	P560 60% P170 覆土
		B 1.6				
		C 3.8				
2	小皿 土師質土器	A [7.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部は外彎する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後, ヘラナデ。	細砂・雲母 褐色 良好	P559 60% P170 覆土
		B 2.3				
		C 3.0				



第537図 第2 A・B号堀実測図



第538図 第2 A・B号堀出土遺物実測図

(6) 溝

H区では溝13条を検出した。ほとんどの溝は掘り込みが浅く、遺物も少量で、時期や性格は不明である。ここでは1条についてのみ記述し、その他は一覧表に記載する。

なお、一部の溝の土層と断面図をここで掲載するが、配置や全体の形状については付図を参照されたい。

第137号溝 (付図・第540図)

位置 調査区北東部, B1s区。

重複関係 第30号井戸を掘り込んでおり、本路が新しい。また、第27号地下式構と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 規模は長さ(15.3)m, 上幅1.03~3.11m, 下幅0.80~2.93m, 深さ0.44mである。断面形は皿状である。

方向 南北方向(N-20°-E)にはほぼ直線的に延びている。

底 皿状である。

覆土 人為堆積と思われる。

遺物 覆土から土師質土器小皿や陶器片が出上している。

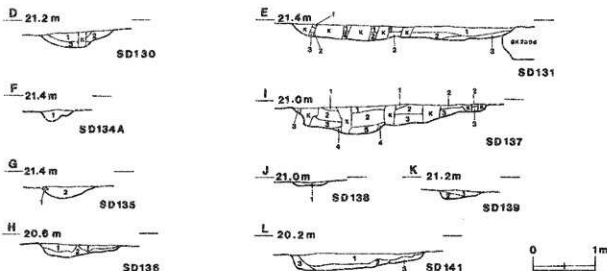
所見 本路の時期は、出土遺物から中世と思われる。



第539図 第137号溝出土遺物実測図

第137号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・化粧・焼成	備考
第539図 1	小皿 土師質土器	A [8.6] B 1.9	底面から口縁部にかけての破片。丸底。体部は縦やかり内押し、口縁部に凸る。	口縁部内・外側及び体部内側縁ナデ。赤ロクロ成形。	細砂・長石・雲母 褐色 普通	P561 30% PL70 覆土



第540図 第130・131・134A・135~139・141号溝実測図

第130号溝土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量

第134A号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック微量, 炭化粒少量

第131号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第135号溝土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量

第136号溝土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

第137号溝土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子微量, 粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

第138号溝土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量

第139号溝土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量

第141号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量

表16 前田村遺跡H区溝一覽表

溝番号	位置	長軸方向	規模 (m)			平面形	断面形	底面	覆土	出土遺物	時期	備考 (盛衰関係)
			長さ	幅	深さ							
130	B13	N-85°-W	(12.6)	1.05-1.25	0.24	直線状	U字形	平坦	自然	土師器		SK128と重複
131	C14	—	(26.98)	1.52-2.18	0.24	丁字状	U字形	平坦	自然	陶器		SK286より新, SK286と重複
132	C12	N-23°-E	(9.23)	1.11-2.18	—	直線状	—	—	—	—		SI487と重複
133	C12	N-86°-E	26.5	0.30-0.70	0.20	直線状	U字形	平坦	—	—		SI489より新
134A	B12	N-86°-W	16.9	0.30-0.80	0.17	直線状	U字形	平坦	自然	—		
134B	B12	N-81°-W	11.2	0.50-0.90	—	直線状	—	—	—	—		
135	B13	N-86°-W	(5.7)	0.70-0.90	0.17	直線状	U字形	平坦	人為	—		SK288と重複
136	B13	N-86°-W	10.78	0.49-1.31	0.08-0.20	直線状	U字形	平坦	人為	—		
137	B15	N-20°-E	(15.3)	1.03-3.11	0.44	直線状	U字形	平坦	人為	小皿, 陶器	中	SE30より新, SE294と重複
138	B15	N-7°-E	3.27	0.50-0.75	0.22	直線状	U字形	平坦	自然	—		
139	B15	N-11°-E	3.33	0.64-0.68	0.13	直線状	U字形	平坦	自然	—		
140	B12	N-2°-W	12.1	0.60-0.70	—	直線状	—	—	—	—		
141	C12	N-79°-W	9.79	1.96-2.53	0.10-0.49	直線状	U字形	平坦	人為	—		

(7) ビット群

調査地区においてビット群1か所を検出した。建物跡あるいは楕円等の可能性もあるが、対応関係を把握することができなかったため、ここではビット群として扱う。以下、その特徴について記載する。

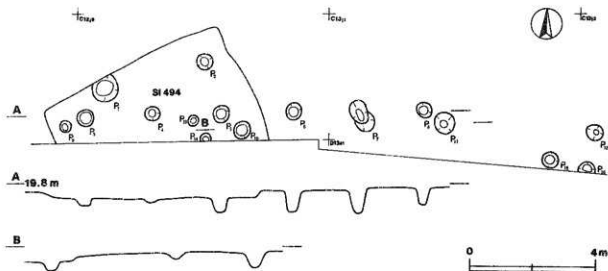
第1号ビット群 (第541図)

位置 調査区南西部, D12a0~D13a2区。

重複関係 P₁~P₅, P₉・P₁₀・P₁₃・P₁₄は, 第494号住居跡を掘り込んでおり, ビット群が新しい。

規模と平面形 南北4.73m, 東西17.44mの長方形の範囲に, 16か所のビット (P₁~P₁₆)を確認した。ビットの平面は, ほとんどのものが長径24~60cm, 短径21~55cmの円形あるいは楕円形で, 深さは12~81cmである。

所見 P₅~P₈は, はほぼ一直線上に並び独立柱建物跡の可能性もあるが, ビットの対応関係がはっきりしないためビット群として扱った。また, 出土遺物もなく時期は不明である。



第541図 第1号ビット群実測図

4 遺構外出土遺物

H区内の遺構外からは旧石器時代、縄文時代、古墳時代、中世、近世の遺物が出土している。ここでは遺構の覆土に混入したもの及び表土として出土したものを遺構外出土遺物とし、その一部を時代別に掲載する。

旧石器時代

1は硬質頁岩の縦長剥片である。表面と裏面との剥離はことなる。

縄文時代（第542～548図）

縄文土器の分類はG区に類じ、解説は以下の通りである。

縄文土器

第I群 早期

1類 田戸下層式土器 2は尖底深鉢の底部片で、横位に太い沈線文を施している。

第II群 前期

2類 浮島式 3は深鉢の口縁部片で、半截竹管による変形爪形文を施している。浮島Ⅱ式と思われる。

第III群 中期前葉

第Ⅲa群 阿玉台式

3類 阿玉台Ⅲ式（4～7） 4は把手の破片で、半截竹管による結節平行沈線文を施している。5は深鉢の波状口縁で、隆帯にキザミを加え、隆帯に沿って爪形文を施している。6は深鉢の口縁部片で、爪形文と半截竹管による蛇行沈線文を施している。7は深鉢の波状口縁部片で、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。

4類 阿玉台Ⅳ式（8） 8は深鉢の把手の破片で、R Lの単節縄文を地文とし、半楕円形の沈線文を施している。

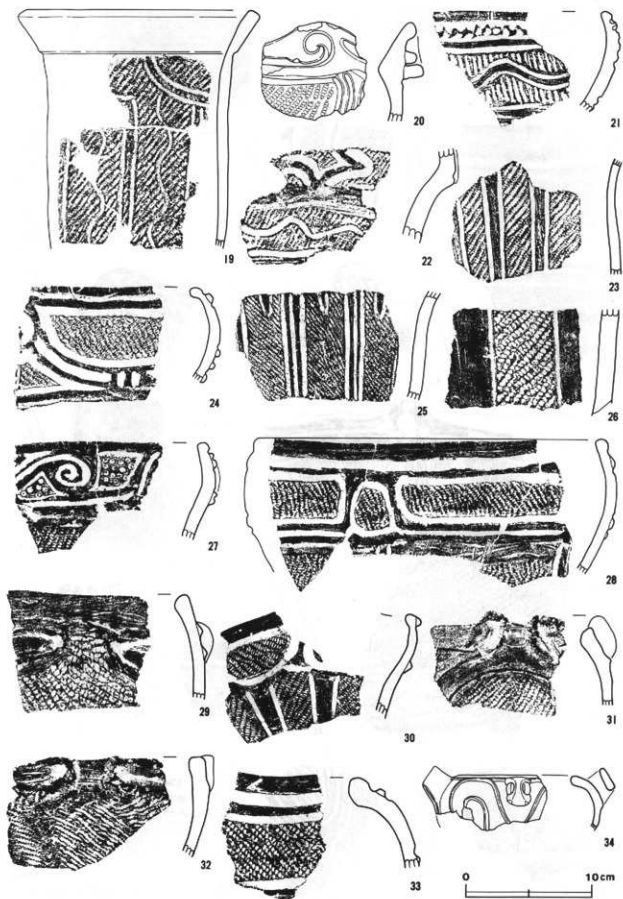
5類 阿玉台式（9） 9は胴部に補修孔のある無文の浅鉢の破片である。

第IV群 中期中葉

第Ⅲe類 中時式（10～18） 10は深鉢の胴部片で、単節縄文を地文とし、沈線文による渦巻文を描出している。11は眼鏡状把手を有する深鉢の口縁部片で、隆帯に爪形文を施している。12は深鉢の環状把手を有する口縁部片で、孔は沈線で縁取りされ、沈線の外側にはキザミを連続して施している。口唇部に2本の沈線を施している。14は深鉢の波状口縁部片で、孔を有し、その両側に横位の沈線を施している。15は深鉢の胴部片で、沈線の内側に沿ってキザミを施している。13は深鉢の口縁部片で、口縁部下に連続コの字文を巡らし、キザミを施した隆帯で文様を描出している。16は深鉢の口縁部片で、波状沈線と平行沈線を施している。18は深鉢の胴部片で、隆帯上の沈線間に刺突を施している。17は深鉢の口唇部を欠損する口縁部片で、隆帯上に縄文を施し、沈線で区画した中を複節縄文で充填している。



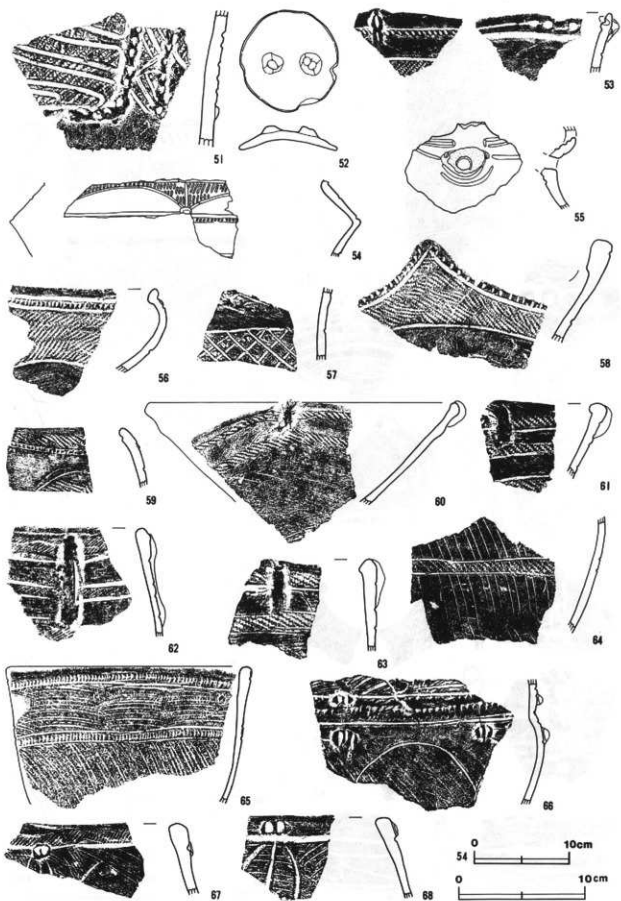
第542图 遗構外出土遺物実測図(1)



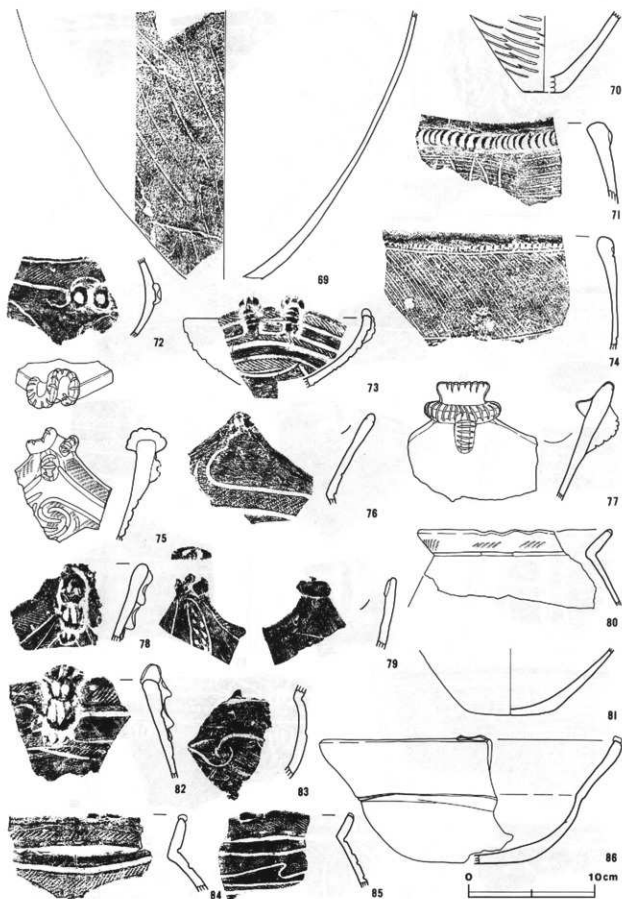
第543图 遼構外出土遺物実測图(2)



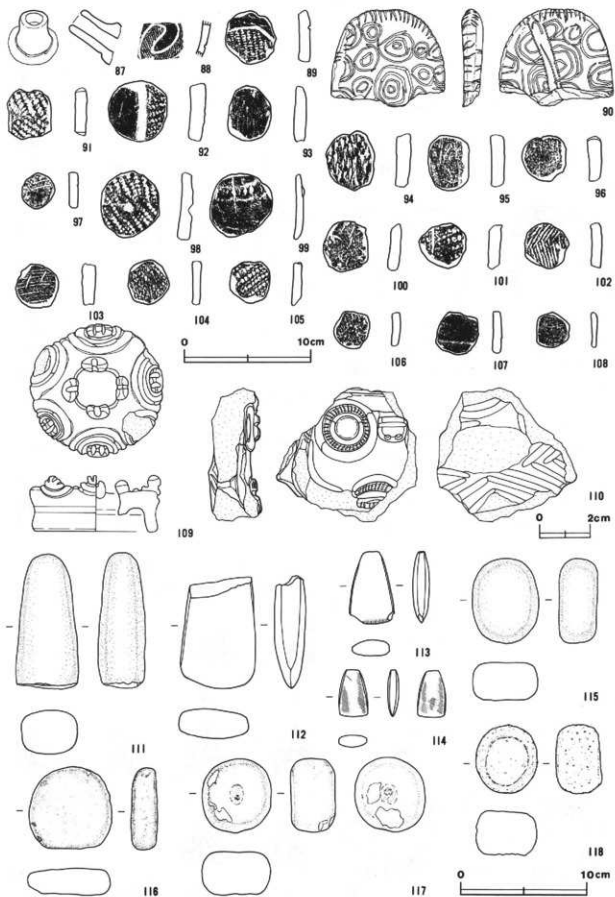
第544图 遗構外出土遺物実測図(3)



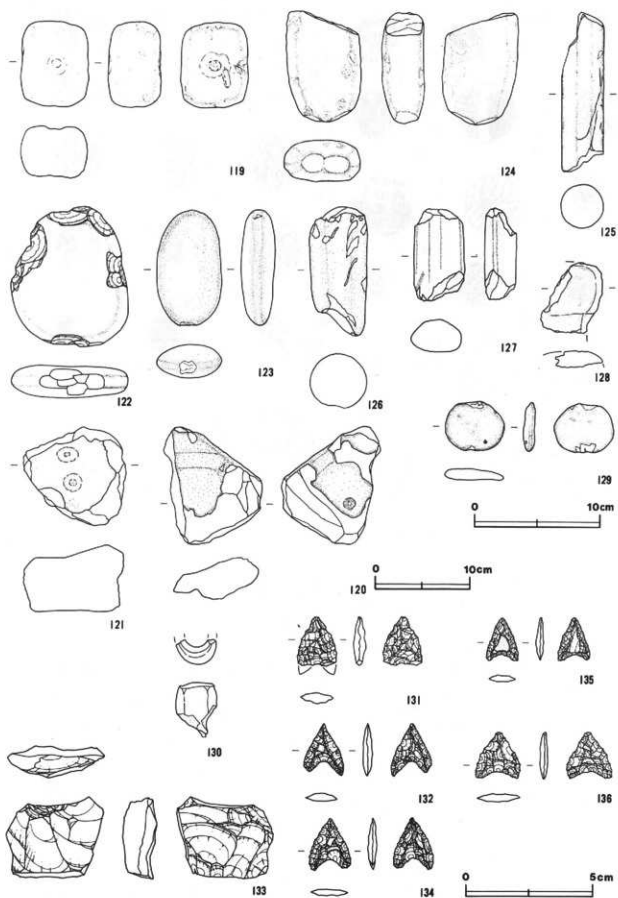
第545图 遗物出土物实例图(4)



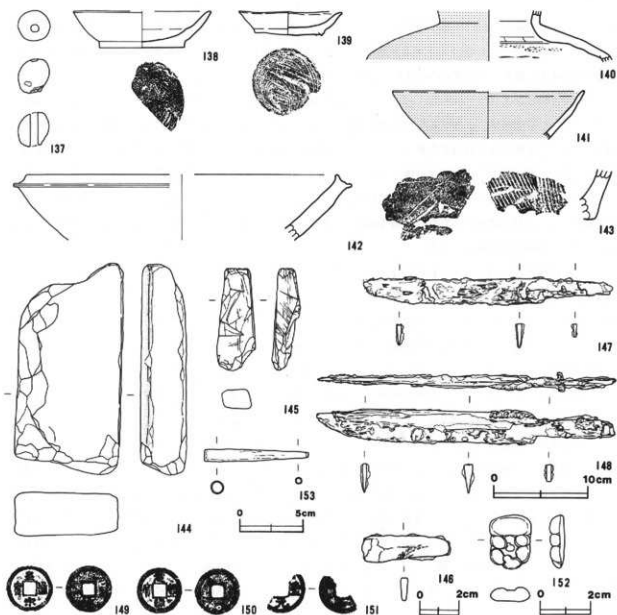
第546图 遗構外出土遺物実測図(5)



第547图 遼朝外出土遺物実測図(6)



第548图 遺構外出土遺物実測図(7)



第549図 遺構外出土遺物実測図(8)

第IV群 中期後葉

第IV a群 加曾利E式

1類 加曾利EⅠ式(19・20・22・24) 19は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で、口縁部は無文である。単節縄文を地文とし、沈線による蛇行懸垂文を施している。22は深鉢の胴部片で、単節縄文を地文とし、隆帯や波状沈線を施している。20は深鉢の波状口縁部片で、渦巻文と沈線のある隆帯で文様を描出している。24は内彎する深鉢の口縁部片で、単節縄文を地文とし、隆帯で区画文を描出している。

2類 加曾利EⅡ式(21・23・25・27) 21は深鉢の口縁部片で、交互刺突文と横方向の沈線文と波状沈線文を施している。25は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で、垂下する3本の沈線間を磨り消している。23は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で、垂下する2本の沈線間を磨り消している。27は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で、隆帯で区画された中に渦巻文と円形の刺突文を施し、胴部には単節縄文を施している。

3類 加曾利EⅢ式(26・28・30・33・38) 28は深鉢の口縁部片で、単節縄文を地文とし、隆帯で楕円形と長方形の区画文を描出している。33は深鉢の口縁部片で、口縁部に沿って沈線が巡る。30は深鉢の胴部から口

縁部にかけての破片で、口縁部は隆帯によって半楕円形に区画し、区画内に単節縄文を施している。胴部は垂下する沈線間を磨り消している。26は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で、沈線区画の磨消帯が垂下する。33は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で、微隆起線で文様を描出している。

4類 加曾利FⅣ式(29・31・32・34～37) 32は小波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で、波頂部に指頭により作り出した微隆起線による双耳状の小突起を有している。31は小波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で、微隆起線によって区画された磨消帯を有している。29は深鉢の口縁部片で、口縁部下に微隆起線による双耳状の小突起を有し、突起部まで単節縄文を施している。36は深鉢の口縁部片で、微隆起線により文様を施し、R Lの単節縄文を充填している。37は小波状の深鉢の口縁部片で、横位に微隆起線が巡っている。34は小形広口蓋の口縁部片で、2対の環状把手を有し、微隆起線で文様を描出している。35は鳥頭形を呈する把手の破片で、孔の周囲に円形刺突文を施している。

5類 加曾利E式(39) 39は有孔銅付土器の鉢で、銅部に孔がある。

第Ⅴ群 後期前葉

1類 称名寺I式(40・46) 40は深鉢の口縁部片で、沈線によって区画し、縄文を充填している。46は深鉢の胴部片で、沈線による区画内に単節縄文と磨り消しを施している。

3類 堀之内I式(41～45・47・49～52・55) 41は頸部が屈曲する鉢の口縁部片で、橋状把手を有し、口唇部に沈線を施している。43は小波状口縁を呈する深鉢の胴部から口縁にかけての破片である。波状部に孔があり、口縁部に円形刺突と沈線を施している。42は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で、孔と刺突文を施している。45は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で、口縁部に沿っての沈線間に円形刺突文を施している。44は深鉢の胴部片で、橋状施文による複列の沈線が蛇行して垂下する。47は浅鉢の小波状口縁部片で、単節縄文と条線文を地文とし、細かい条線文と指頭押印痕を施している。49は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で、沈線で文様を描出している。50は深鉢の胴部から波状口縁部にかけての破片で、波頂部に円形刺突文と縦位の沈線を施し、口縁部に沿って沈線を巡らしている。また、単節縄文を地文とする胴部には、蛇行沈線と沈線を垂下させている。51は深鉢の胴部片で、沈線と刺突のある隆帯で文様を描出している。52はほぼ完形の蓋で、内面は緩やかに内彎し、外面中央付近に2単位の把手が付いている。55は注口土器で、注口部の両側に円形刺突文を施している。

4類 堀之内Ⅱ式(53) 53は深鉢の口縁部片で、口唇直下にキザミのある隆線を巡らし、内面に円形刺突と沈線を施している。8の字状の貼付文を施している。

第Ⅴ群 後期中葉

4類 加曾利B式(54・56～59) 54は算盤玉状を呈する深鉢の胴部片で、単節縄文と沈線と磨消帯で文様を描出している。56は内彎する鉢の口縁部片で、L Rの単節縄文を地文とし、口唇部直下の沈線文間にキザミを施している。57は深鉢の胴部片で、単節縄文を地紋に斜格子目文と磨り消しを施している。58は波状口縁を呈する深鉢で、口唇部にキザミを施し、単節縄文と磨消帯で文様を描出している。59は口唇部内面に沈線のある深鉢の口縁部片で、単節縄文と沈線間のキザミで文様を描出している。

第Ⅴ群 後期後葉

1類 安行1式(60～65) 60は浅鉢の口縁部片で、縄文帯を2段施し、口縁部に斜位の貼付文を施している。61～63は隆起帯縄文のある深鉢の口縁部片で、縦長貼付文を施している。64は斜行条線を地文とする粗製深鉢の胴部片で、沈線区画内を単節縄文で充填している。※65は粗製深鉢の胴部から口縁部の破片で、口唇部と胴部にキザミ文を巡らしている。胴部のキザミ文から上には横位の条線、下には斜行条線を施している。

2類 安行2式(66~71・73・74・77) ※66は斜行条線を地文とする深鉢の胴部片で、ブタ鼻状貼付文を施している。67は斜行条線を地文とする粗製深鉢の口縁部片で、一部単節縄文を施し、口唇部下の沈線上にブタ鼻状貼付文を施している。68は斜行条線を地文とする粗製深鉢の口縁部片で、太い沈線と口唇部の間にブタ鼻状貼付文を施している。71は斜行条線を地文とする粗製深鉢の口縁部片で、口唇部は肥厚し、組紐文には爪形文を施している。74は斜行条線を地文とする粗製深鉢の口縁部片で、口唇部直下には刺突文を巡らしている。69は粗製深鉢の胴部から底部にかけての破片で、粗い斜行条線を施している。70は粗製深鉢の底部片で、条線を施している。73は台付鉢の口唇部片で、横位沈線の縦長貼付文を施している。77は深鉢の波状口縁部片で、波状部には縦位沈線と横位沈線のある突起を施している。

8類 後期安行式(72) 72は深鉢の胴部片で、円形の刺突文のある貼付文と沈線文を施している。

第Ⅸ群 晩期

1類 安行3a式土器(75・78・82) 75は波状口縁を呈する深鉢の波状口縁部片で、波頂部に沈線のあるS字状突起を持ち、無節縄文を施している。78は波状口縁を呈する深鉢の波頂口縁部片、82は深鉢の口縁部片で、共に大形のブタ鼻状貼付文を施している。

2類 安行3b式土器(48・76・79~81・83~86) 48は深鉢の口縁部片で、沈線間に列点文あるいはLRの単節縄文を施している。76は深鉢の波状口縁部片で、沈線区画内に単節縄文を充填している。79は波状口縁を呈する深鉢の波状口縁部片で、波頂部に粘土紐をハチマキ状に貼り付けている。84は広口壺の胴部から口縁部にかけての破片で、口唇部に貼付文、口縁部と沈線区画内に単節縄文を施している。85は広口壺の胴部から口縁部にかけての破片で、口縁部には縄文を、胴部には入組文を施している。83は浅鉢の胴部片で、沈線文を施している。86は無文の浅鉢で、中位にくびれを持ち、丸底である。80は広口壺の波状口縁部片、81は無文の底部片で、胎土や色調が同じことから同一個体と思われる。

4類 晩期安行式(87・88) 87は注口土器の注口部である。88は胴部片で、沈線により渦巻区画を描出し、LRの単節縄文を充填している。

土製品(89~110)

90は楕円形の土版で、表・裏面ともに2重から4重の円や楕円文が沈線で描かれ、縁には縦の沈線文が施されている。89・91は土器片種で中期の土器が使用されている。92~108は土器片円盤で、92・94~98は中期の土器片、93・99~107は後期の土器片、108は後晩期の土器片をそれぞれ利用している。109は土製耳飾りで、外縁にキザミのある突起を6単位有し、内縁にキザミのある突起を4単位施している。時期は安行2式と思われる。110はみみずく形土偶の右頭部片で、キザミを施した隆帯による、ボタン状貼瘤で目と口が描かれている。後頭部は沈線文が施されている。

石器・石製品(111~136)

111は磨製石斧である。112は定角式磨製石斧、113・114は小形定角式磨製石斧である。115~119は磨石である。117・119は両面にくぼみを持つ。120・121は石皿である。121は表面にくぼみを持つ。120は両面石皿として使われ、片面に窪みを持つ。122・129は石錘である。123・124は敲石である。123は楕円形で両端に使用痕がある。125~127は石棒である。127は断面形が楕円形の石棒、125・126は断面形が円形の石棒である。128は有頭石剣の頭部と思われる。130は垂れ飾りである。131・132・134~136は石鏃である。131・132・135・136は基部が凹状で、135は側縁が直線的である。133は石核である。

古墳時代（第549図）

土製品（137）

137は土玉で、ほぼ完形品である。

中世（第549図）

土器（138～143）

138・139は土師質土器の小皿で、糸切りの平底である。140は古瀬戸系の四耳壺で13世紀のものと思われる。141は瀬戸・美濃系の平碗で、灰釉を施しており、室町時代のものと思われる。142は陶器の鉢で、口唇部両端が突出している。143は瀬戸・美濃系の擂鉢の底部片で、砂目がある。

石製品（144・145）

144・145は砥石である。

鉄・銅製品（146～151）

147・148は短刀で、146は刀子の茎部片である。146～148は、古墳時代前期の第494号住居跡から出土しているが、これらの遺物は中世以降のものと考えられることから遺構外とした。148の短刀は全長（31.5）cm、身部長23.3cm、茎長（8.2）cmを測る。両関で、関部より2.4cmの位置に径0.5cmの目釘孔が穿たれる。147の短刀は全長26.3cm、身部長19.7cm、茎長5.6cmを測る。両関で、茎は尻に向けて徐々に幅を減じる。両短刀とも全体に木質が遺存しており、147の短刀が148の短刀の上に重なった状態で出土している。146の刀子の茎部は147・148短刀の近くから出土している。また、これらの短刀が出土した地点は、次年度に調査した中世の墓域に隣接することから、住居跡と墓域が重複していた可能性が考えられる。149～151は古銭である。149は皇宋通寶、150は元豊通寶で、共に中国銭である。151は半分しか残っていないが安南銭の紹豊元寶と思われる。

近世（第549図）

土製品（152）

152は泥面子である。

銅製品（153）

153は銅製の煙管である。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現 存 率 (%)	備 考
		長 径	幅	厚 径			
第545図	52 蓋	8.1	7.7	2.0	(64.0)	95	D P 535 S1422 覆土
第547図	89 土器片踵	4.1	3.9	0.8	18.0	100	D P 513
90	土 板	(7.7)	9.0	1.7	(123.0)	50	D P 534
91	土器片踵	4.0	3.5	0.8	16.0	100	D P 514 SK2479 覆土
92	土器片内版	4.7	4.7	1.0	3.2	100	D P 515 SK2479 覆土
93	土器片内版	4.4	3.3	0.8	16.0	100	D P 519 SK2479 覆土
94	土器片内版	4.7	3.7	1.1	22.0	100	D P 518
95	土器片内版	4.2	3.0	0.9	19.0	100	D P 521
96	土器片内版	3.6	3.4	1.0	(16.0)	90	D P 522 SK2436 覆土
97	土器片内版	2.8	2.6	0.7	6.9	100	D P 537 SK2968 覆土
98	土器片内版	5.3	4.6	0.9	30.0	100	D P 516 第1号船 覆土
99	土器片内版	5.0	5.1	0.6	20.0	100	D P 517
100	土器片内版	3.8	3.5	0.7	15.0	100	D P 520
101	土器片内版	3.5	3.7	0.8	15.0	100	D P 523
102	土器片内版	3.5	3.4	0.7	12.0	100	D P 524 SK2804 覆土
103	土器片内版	3.4	3.3	0.9	13.0	100	D P 525 SK2294 覆土
104	土器片内版	3.5	3.3	0.6	8.7	100	D P 526
105	土器片内版	3.3	3.2	0.7	10.3	100	D P 528
106	土器片内版	2.8	2.6	0.5	3.8	100	D P 529
107	土器片内版	3.4	3.2	0.7	11.0	100	D P 536 SK2490 覆土
108	土器片内版	2.8	(2.6)	0.4	(3.9)	90	D P 527
109	耳 飾り	3.2	5.2	2.2	(32.0)	75	D P 531
110	土 鍋	(5.2)	(5.6)	2.2	(47.0)	15	D P 533
第549図	152 泥 函子	2.1	1.7	0.6	(1.7)	95	D P 532

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現 存 率 (%)	備 考
		長 径	径	孔 径			
第549図	137 土 玉	2.7	2.5	0.6	(16.0)	95	D P 530 SK2825 覆土

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚径 (cm)	重量 (g)		
第542図	1 銅 片	5.9	1.6	1.1	6.7	硬質頁岩	Q521
第547図	110 磨製石斧	(10.7)	5.0	3.7	(345.0)	砂 岩	Q510
112	磨製石斧	(8.9)	5.9	2.3	(219.0)	チャート	Q512
113	磨製石斧	5.7	3.5	1.3	(41.0)	粘板岩	Q513
114	磨製石斧	3.7	2.3	0.9	12.0	粘板岩	Q514
115	磨 石	6.7	5.2	3.0	180.0	安山岩	Q516
116	磨 石	6.5	6.5	2.1	135.0	安山岩	Q531 第1号船 覆土下層
117	磨 石	5.9	5.5	3.7	160.0	安山岩	Q532 S1494 覆土 凹石兼用
118	磨 石	5.5	4.9	3.6	117.0	安山岩	Q517 SK2479 覆土
第548図	119 磨 石	6.8	5.4	4.2	263.0	安山岩	Q533 S1486 覆土 凹石兼用
120	石 皿	(12.5)	(10.3)	4.5	(572.0)	砂 岩	Q506 S1480 覆土中層
121	石 皿	(10.3)	(10.9)	7.0	(990.0)	安山岩	Q504
122	磨 石	11.1	9.4	2.6	376.0	砂 岩	Q509 第2号船 覆土
123	磨 石	9.1	5.2	2.7	183.0	砂 岩	Q511 第2号船 覆土

図版番号	器種	計測値				材質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
124	煎石	(8.8)	6.1	3.4	(201.0)	緑色凝灰岩	Q534 第1号地 覆土
125	石楯	(12.7)	3.4	3.4	(248.0)	緑泥片岩	Q519 第2号地 覆土
126	石楯	(10.3)	4.6	4.3	(333.0)	ホルンフェルス	Q518 第2号地 覆土
127	石楯	(7.3)	4.0	2.6	(116.0)	緑泥片岩	Q503 SD131 覆土
128	石楯	(5.6)	(4.9)	(1.3)	(46.0)	緑泥片岩	Q519
129	石楯	4.7	3.9	1.0	25.0	安山岩	Q530
130	磨丸磨り	(2.2)	(1.6)	(1.0)	(3.2)	チャート	Q529
131	石楯	(1.9)	1.5	0.4	(0.9)	黒曜石	Q526
132	石楯	2.1	1.6	0.4	0.7	石英	Q523
133	石楯	3.2	3.9	1.3	16.0	チャート	Q502 第1号地 覆土
134	石楯	2.1	1.6	0.4	0.8	チャート	Q535 SK266 覆土
135	石楯	1.7	1.3	0.4	0.5	黒曜石	Q524
136	石楯	1.8	1.8	0.3	0.8	チャート	Q527
新549図 144	砥石	(16.7)	8.4	3.7	(877.0)	砂岩	Q506 SK2717 覆土
145	砥石	(8.1)	3.1	2.2	(51.0)	凝灰岩	Q507

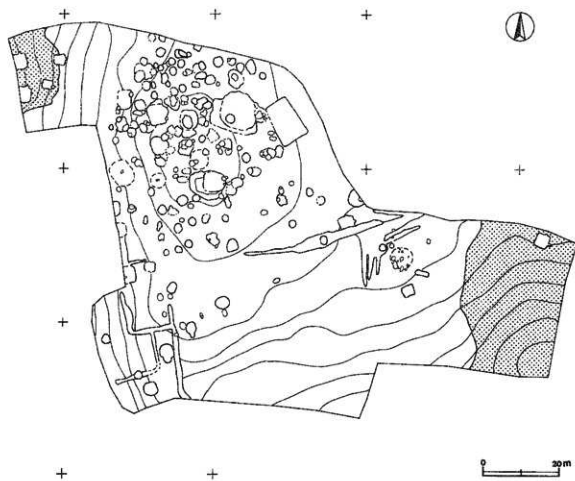
図版番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	備考
		長さ	幅	厚さ			
新549図 146	刀子	(4.8)	(1.5)	(0.6)	(6.7)	鉄	M503 SI494 覆土
147	短刀	26.3	3.0	1.0	97.0	鉄	M502 SI494 覆土
148	短刀	(31.5)	3.2	2.0	(203.0)	鉄	M501 SI494 覆土
153	磨針	8.3	1.0	—	11.0	銅	M504

図版番号	器種	直径 (cm)	重量 (g)	初鋳年		備考
				時代	年号	
新549図 149	坐米湯甕	2.3	3.40	北宋	1038年	M505 中国鉄
150	坐米湯甕	2.3	3.02	北宋	1078年	M506 中国鉄
151	傾盞元寶	(2.3)	(1.14)	漢	1341年	M507 安南鉄

第5節 I区の遺構と遺物

I区は、当遺跡の南部に位置している。I区の東側はD区、西側はJ区、北側はH区である。I区の地形は、南向きに突出する小舌状台地の先端部にあたり、中央部が平坦である以外は傾斜している。谷津に面する北西部と東部の傾斜地には、縄文時代を主体とする遺物包含層が堆積している。縄文時代の遺構と中世の塚は主に中央部の平坦面に集中し、平安時代と中世の遺構は主に傾斜地に位置している。I区における遺構の残存状況は、ゴボウ耕作のトレンチャーによる攪乱のため不良である。

I区で検出した遺構は、縄文時代の竪穴住居跡19軒、炉跡3基、築石遺構1基、土坑161基、焼土遺構1基、遺物包含層2か所、平安時代の竪穴住居跡6軒、中世の墳墓1基、方形竪穴遺構2基、土坑3基、地下式竈3基、井戸2基、溝7条、塚1基である。遺物は、縄文時代の遺物を主体とし、遺物収納箱(60×40×20cm)に206箱が出土している。以下、時代別に遺構と遺物を記載していくことにする。



第550図 I区全体図

1 縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1区では、縄文時代の竪穴住居跡19軒を調査した。第464号住居跡は2軒の住居跡が重複していることが判明したため、第464A号住居跡と第464B号住居跡とに分けた。第442～445・449・452・455・459～461・462・465・466・468～470・472～474号住居跡は、炉跡や土坑に改称したり、遺構ではないことが判明したことから、欠番とした。

第441号住居跡 (第551図)

位置 調査区北西部, F14d6区。

確認状況 耕作による擾乱が著しく、本跡の残存状況は不良である。

重複関係 本跡は第2548・2595号土坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。第2542号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸(4.98)m, 短軸3.90mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-87°-W

壁 壁高は12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、ロームを床にしている。中央部は踏み固められている。

ピット 2か所。擾乱が著しく、他は確認できなかった。P1は、径48cmの円形で、深さは43cmである。P2は、径38cmの円形で、深さは36cmである。P1・P2は規模から主柱穴と考えられるが、主柱穴数は不明である。

覆土 2層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

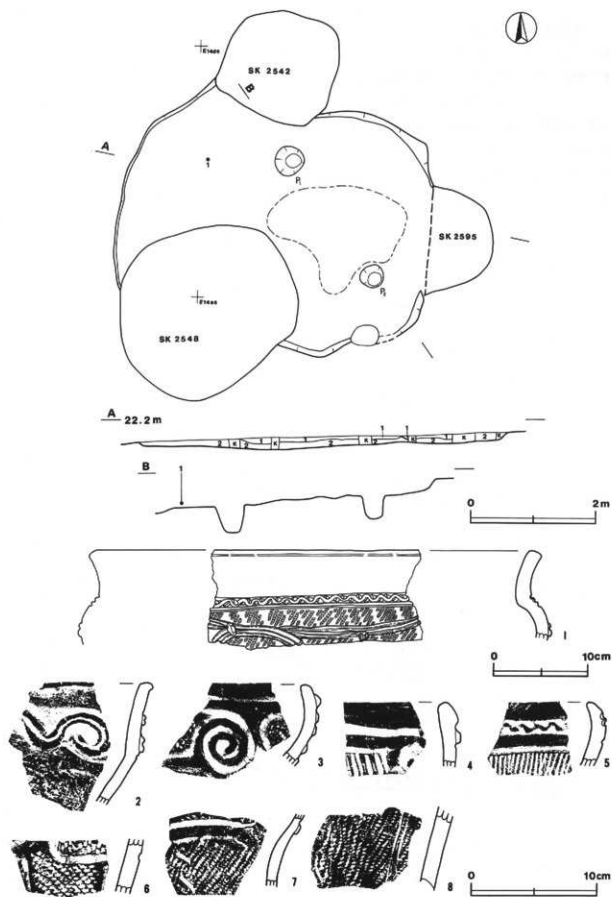
- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片463点、石皿片1点が覆土から出土している。1は深鉢の口縁部片で、覆土下層から出土している。2は深鉢の口縁部片で、沈線を有する隆帯により文様を描出している。3は深鉢の口縁部片で、RLの単節縄文を地文とし、隆帯により渦巻文を施している。4は深鉢の口縁部片で、縦位の沈線を地文とし、隆帯により文様を描出している。5は深鉢の口縁部片で、燃糸文を地文とし、口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。6は深鉢の口縁部付近から胴部の破片で、LRの単節縄文を地文とし、口縁部は沈線により文様を描出し、胴部は沈線による懸垂文を施している。7は深鉢の頸部片で、沈線を有する隆帯を巡らしている。8は深鉢の胴部片で、RLの単節縄文を地文とし、半截竹管による懸垂文を施している。

所見 本跡の時期は、1の出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。

第441号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第551図 1	深鉢 縄文土器	A (46.0) B (9.5)	口縁部破片。胴部は内穿し、口縁上部は短く外反する。胴部には交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。口縁下部はRLの単節縄文を地文とし、沈線を有する隆帯により文様を描出している。	長石・雲母・砂粒 に多い黄褐色 普通	P1 5% 覆土下層 加曾利E I式併行



第551图 第441号住居跡・出土遺物実測図

第446号住居跡 (第552図)

位置 調査区北部, F14g7区。

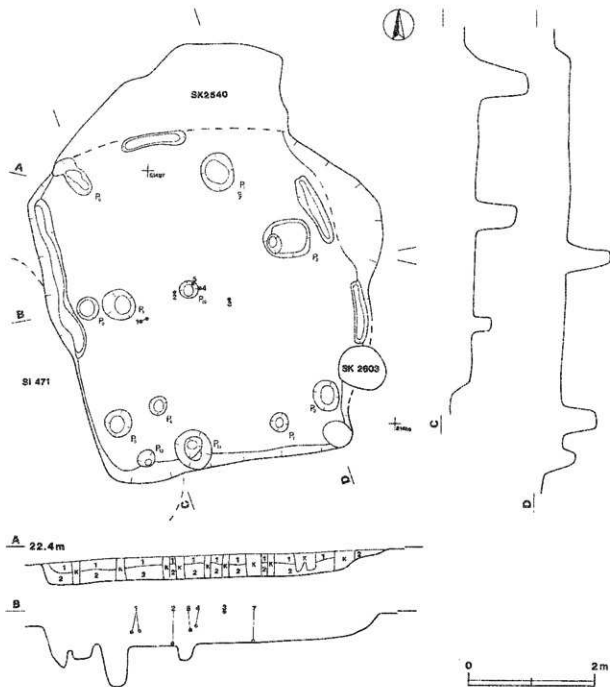
重複関係 本跡は第2603号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。第471号住居跡・第2540号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸 [5.50]m, 短軸4.82mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-21°-W

壁 壁高は34cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁以外の壁下を断続的に巡っている。上幅16~30cm, 下幅8~22cm, 深さ18~26cmである。



第552図 第446号住居跡実測図

床 平垣で、ロームを床にしている。

炉 炉は確認できなかった。床の残存状況が不良なため明確でないが、本跡は炉をもたない住居跡である可能性がある。

ピット 12か所。P₁～P₆は長方形に廻り、長径30～74cm、短径26～61cmの円形で、深さ30～74cmである。P₁～P₆は、規模と配列から6本柱の主柱穴と考えられる。P₇～P₁₀は、長径30～44cm、短径28～40cmのはば円形で、深さ17～88cmである。P₇～P₁₀は、補助柱穴と考えられる。P₁₁は、長径66cm、短径54cmの楕円形で、深さ80cmである。P₁₂は、径26cmのはば円形で、深さ30cmである。P₁₁・P₁₂は、本跡に伴う柱穴かどうかは不明である。

覆土 2層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層観察

- 1 褐色色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物微量

遺物 縄文土器片1,246点、磨石1点が出土している。1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部の破片で、覆土上層から出土している。2は深鉢の把手を有する口縁部の破片で、床面から出土している。3・4は深鉢の把手を有する口縁部の破片で、覆土上層から出土している。5は深鉢の胴部片で、R.Lの単節縄文を施している。6は深鉢の胴部片で、隆帯により区画文を描出し、隆帯に沿ってペン先状の工具により結節沈線文を施している。隆帯による文様内には爪形文により文様を描出している。7は磨石である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中幹式期）と考えられる。

第446号住居跡出土遺物観察表

採取番号	品名	計測値(cm)	形状及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第553区 1	深鉢 縄文土器	A (34.0)	口縁部から胴部の破片。波状口縁を呈し、口縁部は外傾する。口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って沈線を施している。胎土はR.Lの単節縄文である。	石英・長石・雲母 黒褐色 普通	P 5 5% 覆土上層 阿玉台V式
		B (15.0)			
2	深鉢 縄文土器	B (16.8)	把手を有する口縁部の破片。口縁部はわずかに内傾する。把手には凹孔を有する。口縁部は隆帯及びキザミを有する隆帯により文様を描出し、区画文内には爪形の沈線文を施している。	石英・長石・雲母 黒褐色 普通	P 6 5% P.L2 床面 中幹式併行
3	深鉢 縄文土器	B (9.0)	把手部及び口縁部の破片。口縁部はわずかに内傾する。把手の頂部には隆帯により区画状沈線帯を施している。口縁部はR.Lの単節縄文を施し、沈線により文様を描出している。	石英・長石・雲母 黒褐色 普通	P 7 5% P.L2 覆土上層 中幹式
4	深鉢 縄文土器	B (7.2)	把手部を有する口縁部の破片。口縁部はほぼ直立し、把手部は欠損している。キザミを有する隆帯により文様を描出し、更に沈線帯を交互斜交による連続コ字状文を施している。	石英・スクリア 黒褐色 普通	P 8 10% 覆土上層 中幹式

採取番号	品名	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第553区 7	磨石	2.9	7.8	3.2	286	安山岩	Q 2 床面 P.L105



第553図 第446号住居跡出土遺物実測図

第447号住居跡 (第554図)

位置 調査区中央部, F14i7区。

重複関係 本跡が第2559・2561号土坑を掘り込んでいることから本跡が新しく, 第1号集石遺構が本跡の覆土上面に付設されていることから本跡が古い。

規模と平面形 長径5.54m, 短径4.62mの楕円形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は8cmで, 外傾して立ち上がる。

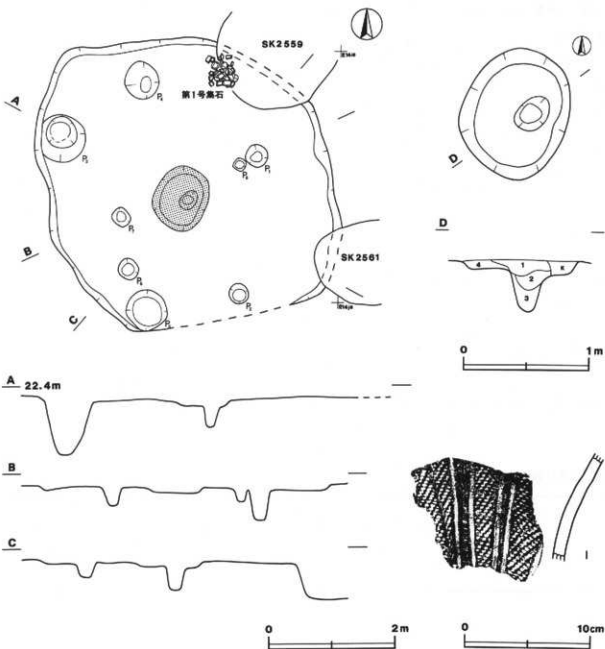
床 平坦で, ロームを床にしている。

炉 中央部に付設されている。長径96cm、短径84cmのほぼ円形で、深さ8cmの地床炉である。炉の中央部には、長径32cm、短径23cm、深さ42cmのピットを有する。炉床面は火熱により赤変硬化している。

土層解説

- | | | |
|---|--------|-----------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、第2層より明るい |
| 4 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土ブロック中量 |

ピット 8か所。P₁～P₄は炉を中心に長方形状に巡り、長径32～94cm、短径30～76cmのほぼ円形で、深さ47～91cmである。P₁～P₄は、規模と配列から4本柱の主柱穴と考えられる。P₅～P₈は、径16～66cmのほぼ円形で、深さ19～27cmである。P₅～P₈の性格は、不明である。



第554図 第447号住居跡・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片206点、石皿片1点、磨石片1点、凹石片1点が覆土から出土している。1は深鉢の胴部片で、R.Lの単節縄文を地文とし、沈線による懸垂文間を磨り消している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少量で明確でないが、出土遺物と住居跡の形態から縄文時代中期後葉（加曾利E2期）と考えられる。

第448号住居跡（第555区）

位置 調査区北部、E14f5区。

確認状況 本跡は傾斜地に位置し、斜面側である西側半分が流失しているため、東側半分を確認する。

重複関係 本跡は第2565・2571号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.00m、短軸〔3.86〕mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-2°-E

壁 外傾して立ち上がり、壁高は42cmである。

床 平出で、ロームを床にしている。

炉 中央部に付設されている。長径48cm、短径42cmのほぼ円形で、深さ12cmである。深鉢の口縁部から胴部の大形破片を埋設させた土器埋設炉である。炉内には、焼土等の裏跡はほとんどなく、炭化物を少量含んでいるだけである。

炉土層解説

1 褐色 ローム粒子少量、炭化物少量

ピット 5か所。P₁～P₅は炉を中心に長形状に巡り、長径48～70cm、短径44～60cmのほぼ円形で、深さ60～84cmである。P₁～P₅は6か所目のピットは確認できなかったが、規模と配列から6本柱の主柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物少量

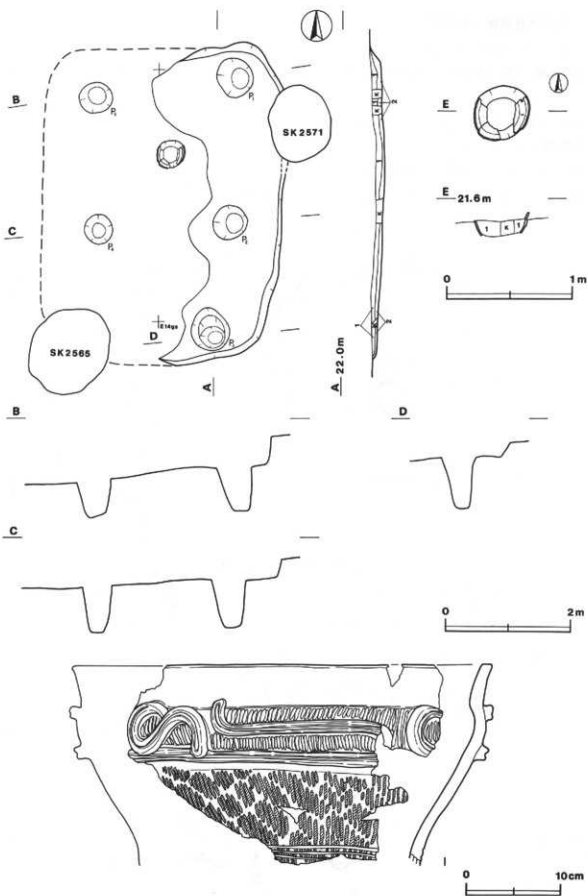
2 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、炭化物微量

遺物 縄文土器片194点、磨製石斧片2点が覆土から出土している。1は深鉢の口縁部から胴部の破片で、炉埋設土器である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E1式期）と考えられる。

第448号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	器径値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第555区 1	深鉢 縄文土器	A〔44.0〕 B〔21.1〕	口縁部から胴部の破片。口縁部は内傾し、口縁部はわずかに外反する。口縁部に沈線を有する隆帯を認め、口縁部文様帯を形成している。口縁部には沈線を有する隆帯によりS字状文とクランク文を交互に施している。口縁の空白部には縦位の沈線を施している。胴部の地文はR.Lの単節縄文である。	石英・長石・雲母 黒褐色 普通	P9 10% P.L.52 新設炉土器 加曾利E1式



第555图 第448号住居跡・出土遺物実測図

第450号住居跡 (第556図)

位置 調査区の北部, E14g9区。

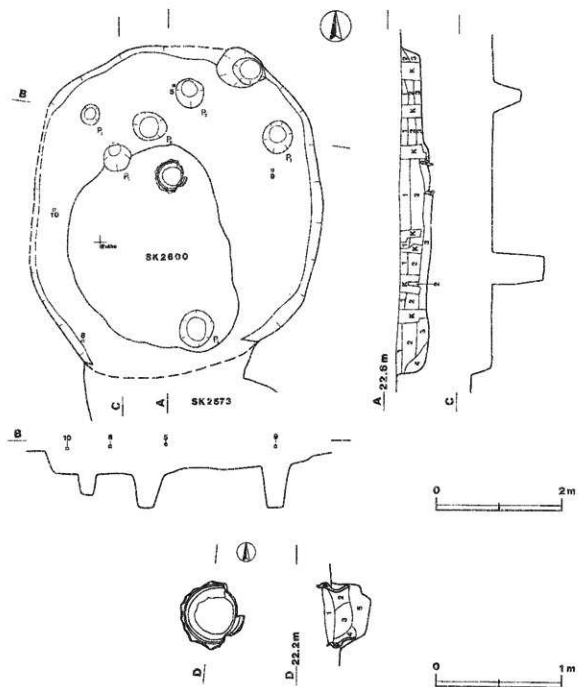
重複関係 本跡は第2600号土坑上面を床とし, 第2573号土坑を掘り込んでいることから, 本跡が両土坑より新しい。

規模と平面形 長径 [5.26]m, 短径4.60mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は48cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, ロームを床にしている。第2600号土坑上面の貼床部はわずかに沈下している。



第556図 第450号住居跡実測図

炉 中央部やや北寄りに付設されている。長径54cm、短径50cm、深さ31cmで、深鉢の上半部を埋設させた土器埋設炉である。炉内の土層は5層に分層され、第1～4層は埋設土器内の覆土、第5層は炉の掘り方の覆土である。埋設土器内の覆土に焼土等はほとんどなく、炭化物を少量含んでいるだけである。

炉土層解説

- 1 焼色 ローム粒子少量、ロームブロック微量
- 2 焼色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック微量、炭化物少量
- 4 焼色 ローム粒子少量、ロームブロック微量、炭化物少量
- 5 焼色 ローム粒子少量、ロームブロック少量

ピット 6か所。P₁～P₄は炉を中心に巡り、長径32～60cm、短径30～52cmの楕円形で、深さ33～78cmである。

P₁～P₄は確認できなかった柱穴があるものの、規模と配列から主柱穴と考えられる。P₅は、径46cmのはば円形で、深さ83cmである。P₆は、長径55cm、短径44cmの楕円形で、深さ54cmである。P₅とP₆の性格は不明である。

覆土 4層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 焼色 ローム粒子少量
- 3 焼色 ローム粒子少量、ロームブロック微量
- 4 焼色 ローム粒子少量、ロームブロック少量

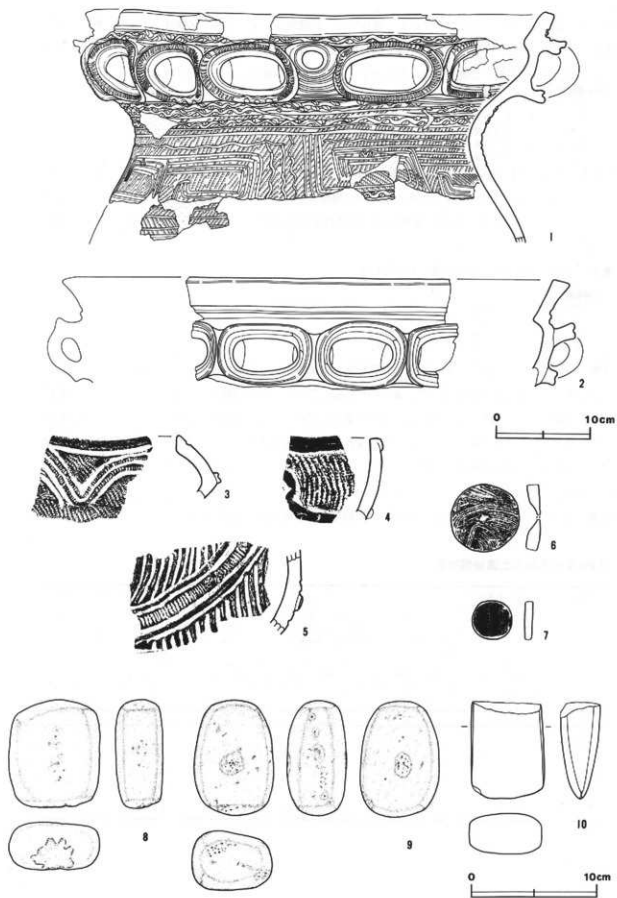
遺物 縄文土器片1,055点、磨石2点、磨製石斧1点が覆土から出土している。1は深鉢の上半部で、炉埋設土器である。2は深鉢の口縁部片で、覆土から出土している。3は浅鉢の口縁部片で、R Lの単節縄文を地文とし、沈線とキザミを有する隆帯により文様を描出している。4は深鉢の口縁部片で、R Lの単節縄文を地文とし、隆帯により文様を描出している。5は深鉢の口縁部付近の破片で、キザミを有する隆帯により文様を描出し、空白部に縦位の沈線文を充填している。6・7は土器片円盤で、混入したものである。8・9は磨石で、10は磨製石斧である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中幹式期）と考えられる。

第450号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第557図 1	深鉢 縄文土器	A [47.6] B (24.5)	上半部、頸部はくつれ、口縁部はわずかに内彎し、口唇部直下で屈折して外反する。口縁部には連続する横状把手を高くし、その直上には連続口の字状文を施している。胴部はRの高節縄文を地文とし、沈線により文様を描出している。	石英・長石・雲母 暗褐色 普通	P10 30% F.L.82 炉埋設土器 中幹式
2	深鉢 縄文土器	A [50.2] B (11.3)	口縁部片、口縁部はわずかに内彎し、口唇部直下で屈折して外反する。口縁部には連続する横状把手を高くし、口唇部直下は無文である。	石英・長石・雲母 に白い褐色 普通	P11 5% 覆土 中幹式

図版番号	器種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第557図 8	磨石	8.6	7.2	3.7	423	安山岩	Q5 覆土 P.L105
9	磨石	9.2	6.3	4.7	400	安山岩	Q6 覆土 P.L105
10	磨製石斧	(7.7)	5.7	3.2	(244)	緑色凝灰岩	Q7 覆土 P.L103



第557图 第450号住居跡出土遺物実測図

第451号住居跡 (第558図)

位置 調査区の北部, E14h4区。

確認状況 本跡は西向きに傾斜地に立地しているため, 西側が流出し, 東側半分を確認した。

重複関係 本跡は第2592・2593号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。第4号炉跡と重複するが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径3.76m, 短径(2.98)mの楕円形と推定される。

長径方向 N-8°-W

壁 壁高は16cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, ロームを床にしている。

炉 炉は確認できなかった。本跡は炉をもたない住居跡である可能性がある。

ピット 2か所。P₁は, 長径58cm, 短径48cmの楕円形で, 深さ67cmである。P₂は, 径34cmのはほぼ円形で, 深さ32cmである。P₁は規模から支柱穴と考えられるが, 支柱穴の数や配列等は不明である。P₂の性格は, 不明である。

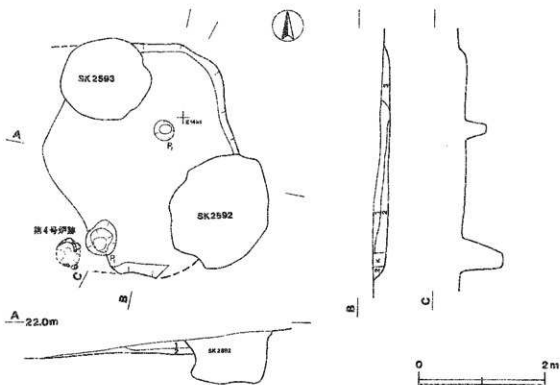
覆土 3層に分層され, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------|---------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は, 住居跡の形態や覆土が縄文時代中期のものと類似していることから縄文時代中期と考えられる。



第558図 第451号住居跡実測図

第453号住居跡 (第559図)

位置 調査区の中央部, F14a7区。

確認状況 壁や床は残存していないが, 炉とピットを確認したことから住居跡と判断した。

規模と平面形 長径 [3.82]m, 短径 [3.80]mの円形と推定される。

主軸方向 N-78°-E

炉 中央部やや西寄りに付設されている。長径64cm, 短径50cmの楕円形で, 炉の西部に深鉢の胴部を埋設させた土器埋設炉である。炉確認面が炉床面で, 炉床面は火熱により赤変硬化している。埋設土器の覆土は1層で, 焼土粒子を少量含んでいる。

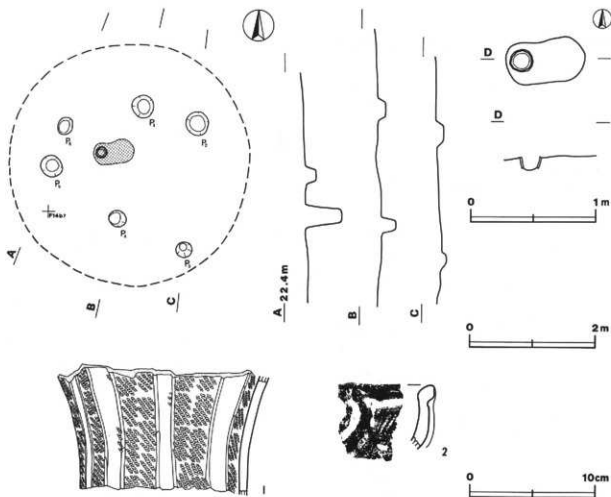
炉土層解説

1 暗褐色 焼土粒子少量

ピット 6か所。P₁~P₆は炉を中心に巡り, 径28~38cmのほぼ円形で, 深さ29~71cmである。P₁~P₆は, 規模と配列から6本柱の主柱穴と考えられる。

遺物 縄文土器片5点が出土している。1は深鉢の胴部で, 炉埋設土器である。2は深鉢の口縁部片で, R Lの単節縄文を地文とし, 隆帯により文様を描出している。

所見 本跡の時期は, 1の炉埋設土器から縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第559図 第453号住居跡・出土遺物実測図

第453号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第559図 1	深鉢 縄文土器	B (10.1)	胴部片。胴部は外反する。沈線による懸垂文間にLRの単節縄文を充填している。	灰白・スコリア 灰黄褐色 普通	P12 30% P L82 伊賀段土器 加賀利EⅡ式

第454号住居跡 (第560・561図)

位置 調査区の中央部, F14e4区。

確認状況 本跡の西半部は調査区域外となり, 本跡の東半部のみを確認した。耕作による擾乱が著しく, 残存状況は不良である。

規模と平面形 径 [3.82]mのはほぼ円形と推定される。

長径方向 [N-6°-E]

壁 壁高は40cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, ロームを床にしている。中央部は踏み固められている。

炉 炉は確認できなかった。本跡は炉をもたない住居跡である可能性がある。

覆土 2層に分層され, 自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

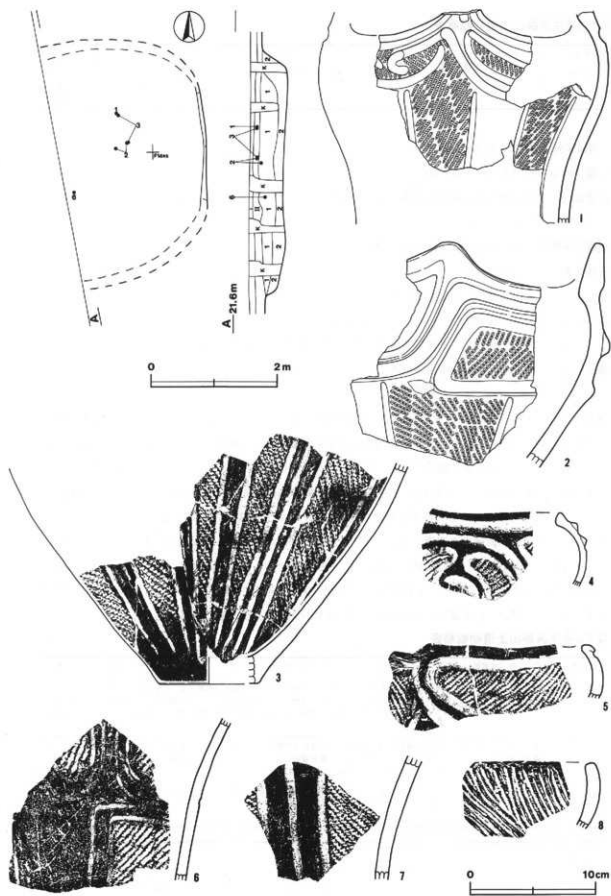
遺物 縄文土器片1,060点, 土器片円盤3点が覆土から出土している。遺物の大部分は, 投棄されたような状態で第1層から出土している。1・2は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部の破片, 3は深鉢の底部から胴部の破片で, いずれも第1層から出土している。4は深鉢の口縁部片で, 隆帯により文様を描出し, RLの単節縄文を充填している。5は小波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で, 波頂部は反頭となる。波頂部を起点に隆帯により文様を描出し, LRの単節縄文を充填している。6は深鉢の胴部片で, 沈線による区画文を施し, 区画文内にRLの単節縄文を充填している。7は深鉢の胴部片で, LRの単節縄文を地文とし, 沈線による懸垂文間を磨り消している。8は深鉢の口縁部片で, 条縄文を施している。9は深鉢の頸部片で, 半截竹管による刺突文を有する隆帯を巡らし, 半截竹管による縦位の平行沈線文を施している。10~12は土器片円盤である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加賀利EⅡ式期)と考えられる。

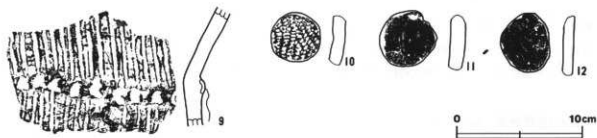
第454号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第560図 1	深鉢 縄文土器	B (16.8)	4单位の波状口縁を呈する口縁部から胴部の破片。口縁部は内彎する。口縁部はRLの単節縄文を縦位に施し, 沈線により文様を描出している。胴部はRLの単節縄文を縦位に施し, 沈線による幅広い懸垂文間を磨り消している。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P15 10% P L83 第1層 加賀利EⅡ式
2	深鉢 縄文土器	B (17.8)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部はLRの単節縄文を縦位に施し, 隆帯により文様を描出している。胴部はLRの単節縄文を縦位に施し, 沈線による幅広い懸垂文間を磨り消している。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P13 5% F L83 第1層 加賀利EⅡ式
3	深鉢 縄文土器	B (18.0) C [8.0]	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部はLRの単節縄文を地文とし, 沈線による幅広い懸垂文間を磨り消している。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P14 15% P L83 第1層 加賀利EⅡ式

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重量 (g)	残 存 率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長 さ	幅	厚 さ				
第561図10	土器片円盤	4.0	3.9	1.1	22	100	RLの単節縄文。	DP3 覆土
11	土器片円盤	4.4	4.6	1.2	(32)	90	沈線文。	DP4 覆土
12	土器片円盤	4.7	4.0	0.8	19	100	底部片。	DP5 覆土



第560图 第454号住居跡・出土遺物実測図(1)



第561図 第454号住居跡出土遺物実測図(2)

第456号住居跡 (第562図)

位置 調査区の中央部, E14:9区。

重複関係 本跡は第2629・2589・2590号土坑に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長径 [4.12]m, 短径4.62mの楕円形と推定される。

長径方向 N-25°-E

壁 外傾して立ち上がり, 壁高は8cmである。

床 平坦で, ロームを床にしている。

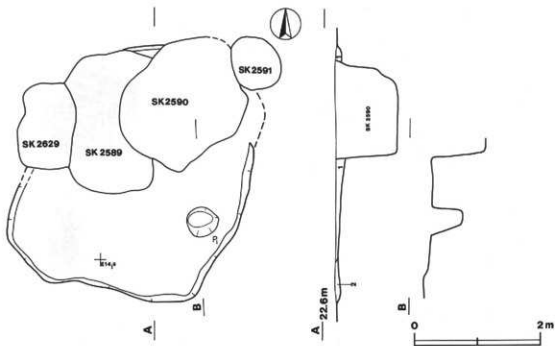
炉 確認できなかった。本跡は炉を持たない住居跡の可能性がある。

ピット 1か所だけを確認する。P1は, 長径52cm, 短径46cmの楕円形で, 深さ50cmである。規模から支柱穴と考えられるが, 支柱穴の数や配列は不明である。

覆土 2層に分層され, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック中量 |



第562図 第456号住居跡実測図

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は、縄文時代中期の第2529・2589・2590号土坑に掘り込まれていること、覆土が縄文時代中期のものと類似することから縄文時代中期と考えられる。

第457号住居跡（第563図）

位置 調査区の南部，F14g5区。

確認状況 本跡の西半部は調査区域外にあり，東半部だけを確認した。

重複関係 本跡は第124号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

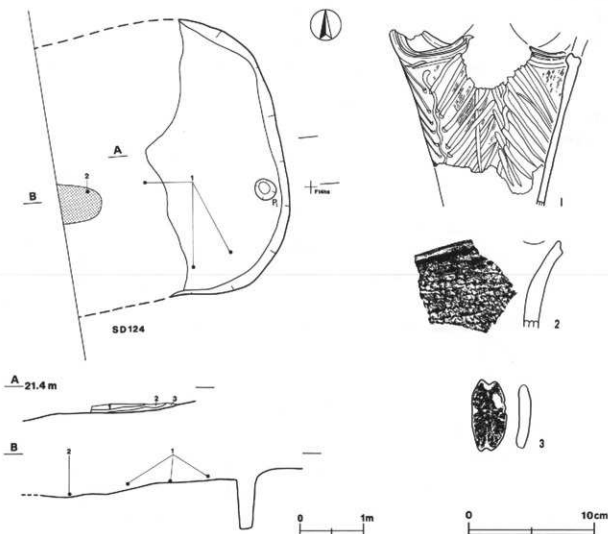
規模と平面形 長径 [3.64]m，短径 [4.34]mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-76°-E

壁 東壁だけが残存している。壁高は8cmで，緩やかに立ち上がる。

床 平坦で，ロームを床としている。

炉 中央部に付設されている。長径98cm，短径62cmの楕円形で，地床炉である。炉床面は火熱により赤変硬化している。



第563図 第457号住居跡・出土遺物実測図

ピット 1が所だけを確認した。P₁は、長径36cm、短径31cmの楕円形で、深さ82cmである。P₂の性格は、不明である。

覆土 3層に分層され、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ロームブロック中量

遺物 縄文土器片341点が出土している。1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部で、覆土から出土している。2は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で、口唇部直下に沈線を描き、LRの単節縄文を斜位に施している。3は土器片錐である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I式期）と考えられる。

第457号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	形状及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第563図 1	深鉢 縄文土器	A 13.0 B (14.1)	3單位の波状口縁を呈する口唇部から胴部の破片。LRの単節縄文を施し、沈線により文様を描出している。	砂粒に多い褐色普通	P17 50% P L53 覆土 堀之内I式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現在率 (%)	備考	備考
		長さ	幅	厚さ				
第563図 3	土器片錐	5.6	2.8	1.0	22	100	LRの単節縄文。	D F 6 覆土

第458号住居跡（第564図）

位置 調査区の中央部、E14・9区。

確認状況 壁や覆土は残存していないが、炉とピットを確認したことから住居跡と判断した。

規模と平面形 長径 [5.24]m、短径 [4.76]mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-2°-E

炉 中央部に付設されている。長径118cm、短径88cmの楕円形で、深さ38cmの地床炉である。炉床面は火熱による硬化があまり認められない。炉床面の東壁際には、P₁₁が位置している。長径30cm、短径26cmの楕円形で、深さ52cmである。P₁₁が炉に伴うものなのか、重複しているものかは不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック微量

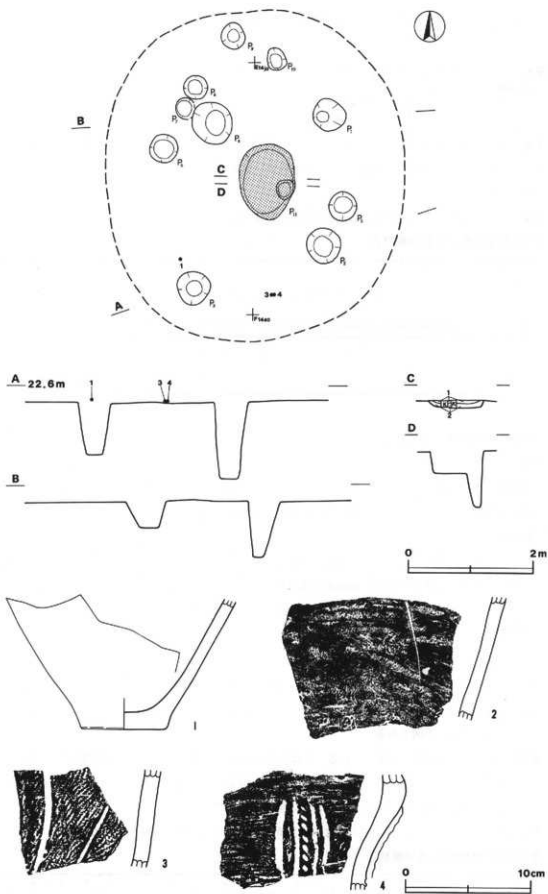
ピット 10か所。P₁～P₄は炉を中心に巡り、径52～68cmのはば円形で、深さ40～123cmである。P₁～P₄は、規模と配列から4本柱の主柱穴と考えられる。P₅～P₁₀は、径36～46cmのはば円形で、深さ32～52cmである。P₅～P₁₀の性格は、不明である。

遺物 縄文土器片213点が出土している。1は深鉢の底部から胴部の破片で、確認面から出土している。2は深鉢の胴部片で、無文である。3は深鉢の胴部片で、RLの単節縄文を施文とし、沈線により文様を描出している。4は深鉢の口縁部片で、キザミを有する隆帯を垂下させている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I式期）と考えられる。

第458号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	形状及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第564図 1	深鉢 縄文土器	B (10.4) C 6.9	底部から胴部の破片。胴部は外縁してワラ上がる。無文。	砂粒に多い褐色普通	P18 10% 覆土 堀之内I式



第564图 第458号住居跡・出土遺物実測図

第463号住居跡（第565～568図）

位置 調査区の北東部、E15g5区。

規模と平面形 長軸11.10m，短軸7.54mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-31°-W

壁 壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，ロームを床としている。

炉 炉は確認できなかった。

ピット 24か所。P₁～P₄は，長径60～94cm，短径54～84cmの楕円形で，深さ22～104cmである。P₁～P₄は，4本柱の主柱穴と考えられる。P₅～P₇は北東壁に沿って直線的に配置され，径33～48cmのほぼ円形で，深さ22～104cmである。P₈～P₁₁は南西壁に沿って直線的に配置され，長径38～52cm，短径32～44cmの楕円形で，深さ21～75cmである。P₈～P₁₁は，規模と配列から補助柱穴と考えられる。P₁₂～P₂₀は配列に規則性はなく，長径26～66cm，短径24～40cmの円形あるいは楕円形で，深さ17～61cmである。P₁₂～P₂₀の性格は，不明である。

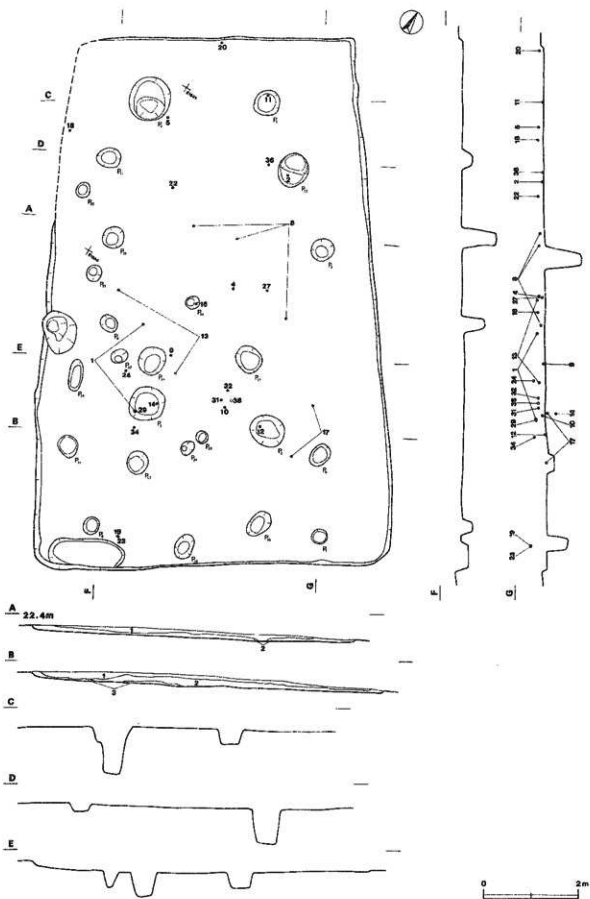
覆土 3層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量，炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ロームブロック少量

遺物 縄文土器片3,544点，土偶1点，石鏃1点，石棒片1点，石剣片3点，銅片1点が出土している。覆土下層からは安行2式土器が多く，覆土上層からは安行3 a・3 b式土器が多く出土している。1は深鉢の口縁部片で，覆土上層から出土している。2～4は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，2は覆土下層から，3・4は覆土上層から出土している。5は深鉢の口縁部片で，覆土上層から出土している。6・7は注口土器の注口部片で，覆土から出土している。8は深鉢の底部片で，覆土下層から出土している。9は粗製深鉢の底部から胴部の破片で，覆土下層から出土している。10・11は台付鉢の台部で，覆土下層から出土している。12は広口壺の口縁部から胴部の破片で，覆土から出土している。13は粗製深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。14は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，大形のブタ鼻状の貼付文を施している。15は鉢の口縁部片で，キザミを有する貼付文を施し，凹凸のある隆帯を巡らしている。16～24は粗製深鉢の口縁部片である。17は条線文を施している。16・18～20・24は口唇部直下に押印文あるいはキザミを有する隆帯を巡らし，条線文を地文とし，沈線文により文様を描出している。25は双頭の波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，波頂部直下に三叉文を施している。26は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，波頂部には鉢巻き状の貼付文を施している。27～31は広口壺の口縁部片で，LRの単節縄文を地文とし，沈線により文様を描出している。27・29の口唇部には瘤状の貼付文を施している。32・33・35は浅鉢の口縁部片で，33・35の口唇部には貼付文を施している。34は深鉢の口縁部片で，杵状区画文を施している。36は皿の口縁部片で，口唇部にキザミを施している。37は鉢の口縁部付近の破片で，陽刻手法により羊歯状文を施している。38はほぼ完形のミミズク形土偶で，覆土下層から出土している。39は有茎の石鏃である。

所見 本跡は，炉をもたない隅丸長方形の住居跡である。本跡の時期は，遺物の出土状況から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。



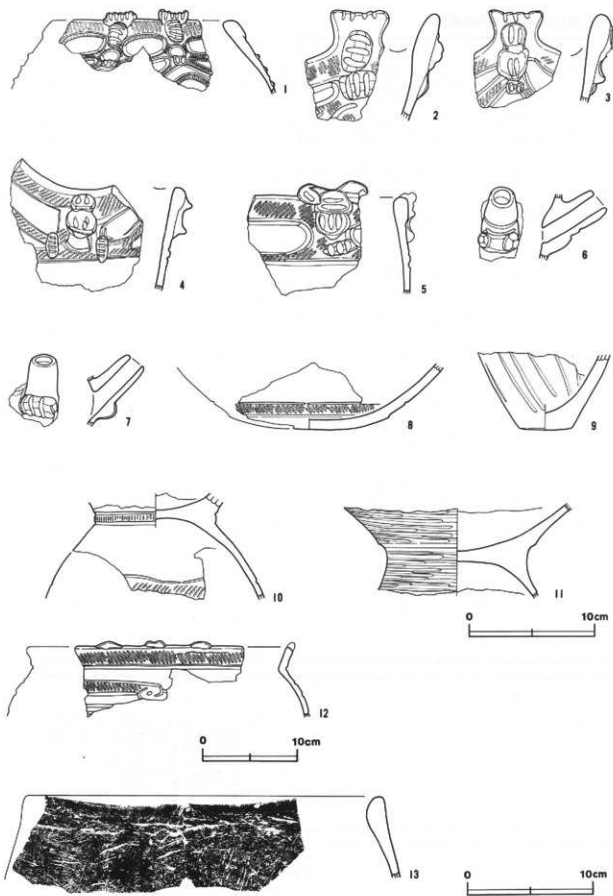
第565图 第463号住居跡实测图

第463号住居跡出土遺物観察表

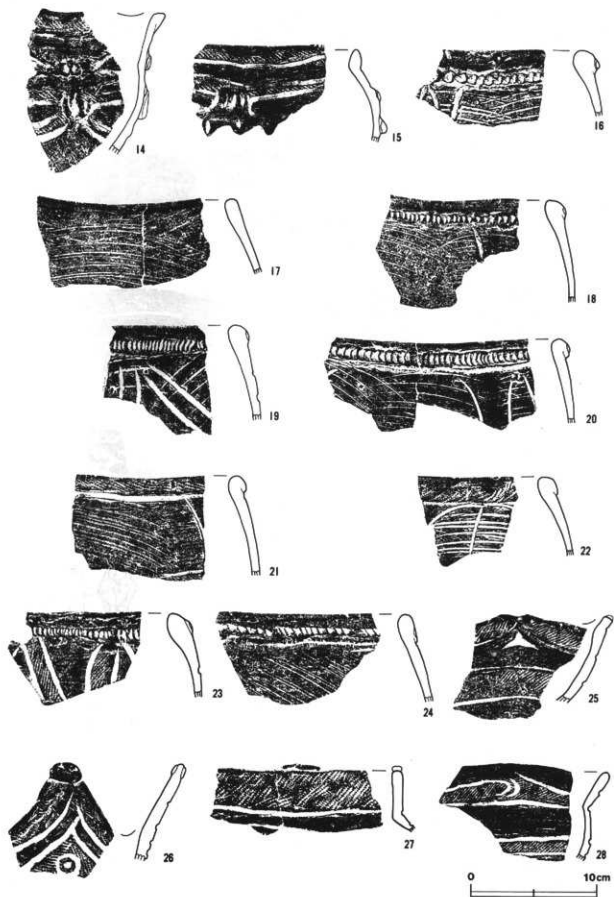
図版番号	器 種	計測値(cm)	形状及び文様の特徴	胎土・色調・地味	備 考
第566図 1	深鉢 縄文土器	A (16.0) B (5.7)	口縁部片。口縁部は内傾する。口唇部には魚尾状の突起を有し、その直下にキズミを有する縦長の貼付文を施している。口縁部はキズミを有する隆帯により文様を抽出し、隆帯の交点にはフタ鼻状の貼付文を施している。	長石・砂粒 にぶい褐色 良好	P38 5% P L83 縄土上層 安行2式
2	深鉢 縄文土器	B (8.6)	大底状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。底肩部には魚尾状の突起を有し、その直下にキズミを有する縦長の貼付文を施している。	砂粒 にぶい褐色 良好	P37 5% P L84 縄土下層 安行2式
3	深鉢 縄文土器	B (8.0)	大底状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。底肩部には魚尾状の突起を有し、その直下に大形のフタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 にぶい黄褐色 良好	P41 5% P L84 縄土上層 安行3a式
4	深鉢 縄文土器	B (10.6)	深鉢口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。底肩部直下に大形のフタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 にぶい褐色 良好	P42 5% P L83 縄土上層 安行3a式
5	深鉢 縄文土器	B (9.3)	口縁部片。口縁部は内傾する。口唇部には魚尾状の突起を有し、その直下に大形のフタ鼻状の貼付文を施している。	長石・砂粒 にぶい褐色 良好	P43 5% P L83 縄土上層 安行3a式
6	注口土器 縄文土器	B (6.0)	注口部片。注口の直下にキズミを有する横長の貼付文を施している。	長石・砂粒 にぶい褐色 良好	P39 10% 縄土 安行2式
7	注口土器 縄文土器	B (5.5)	注口部片。注口の直下にキズミを有する横長の貼付文を施している。	砂粒 褐色 良好	P40 10% 縄土 安行2式
8	浅鉢 縄文土器	B (5.1) C 12.6	底帯から胴部の破片。底帯は浅鉢で、胴部は外傾して立ち上がる。地文としてR Lの単純縄文を施している。	長石・砂粒 褐色 良好	P49 20% 縄土下層 安行1・2式
9	超浅深鉢 縄文土器	B (6.2) C 4.0	底帯から胴部の破片。底帯は平底で、胴部は外傾して立ち上がる。赤縄文を施している。	長石・砂粒 赤褐色 良好	P46 5% 縄土下層 安行式
10	台付鉢 縄文土器	B (7.6)	台部片。台部は内傾して立ち上がる。台部と胴部との接合部にはキズミを添らしている。	砂粒 にぶい褐色 良好	P47 10% P L84 縄土下層 安行1・2式
11	台付鉢 縄文土器	B (7.3)	台部から胴部の破片。台部は内傾し、胴部は外傾して立ち上がる。無文。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 良好	P48 20% P L84 縄土下層 安行2式
12	広口壺 縄文土器	A (27.0) B (7.5)	口縁部から胴部の破片。胴部は内傾し、口唇部は強く外傾する。口唇部には貼付文を施している。胴部はR Lの単純縄文を地文とし、沈帯により玉溜き三乳文を施している。	砂粒 にぶい黄褐色 良好	P44 10% 縄土 安行3b式
13	煎薬津鉢 縄文土器	A (27.6) B (6.6)	口縁部片。口縁部は内傾する。無文。	砂粒 灰褐色 良好	P45 5% 縄土 安行式

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重量 (g)	残 存 率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
		長さ	幅	厚さ				
第568図 38	土 鍋	12.1	8.2	3.2	(140)	80	ミズク形土鍋。胴部及び肩部の一部欠損。頸部には角状の突起を有し、後頸部には欠損するもの織ネクタイ状の突起を有することが考えられる。胴の輪郭はキズミを有する隆帯により抽出し、目・鼻・口は貼付文により抽出している。腹部中央にはボタン状の貼付文を配し、背面は沈帯による渦巻文を施している。	D P 7 P L96 縄土下層

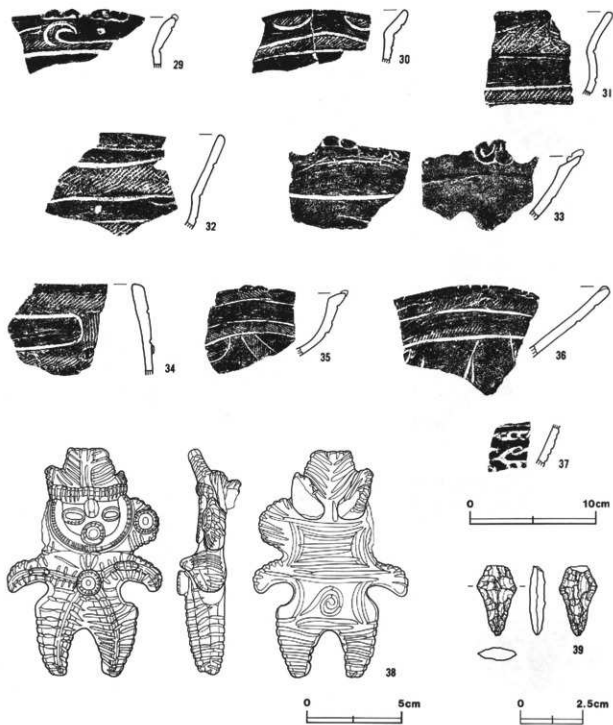
図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
M568図 39	石 鍋	(2.8)	1.5	0.5	(1.84)	チャート	Q9 覆土



第566图 第463号住居跡出土遺物実測図(1)



第567图 第463号住居跡出土遺物実測図(2)



第568図 第463号住居跡出土遺物実測図(3)

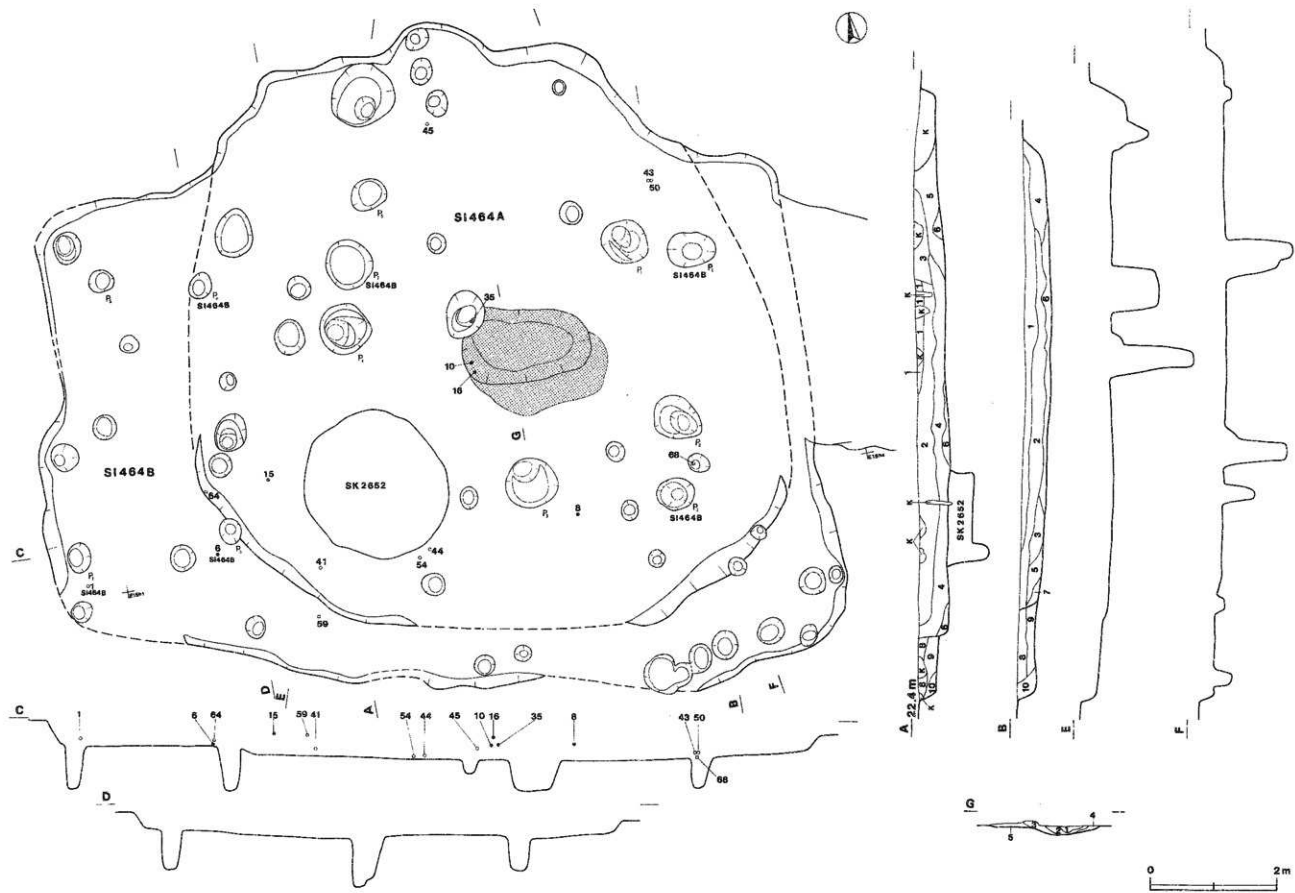
第464A号住居跡 (第569~575図)

位置 調査区の北部, E15g1区。

確認状況 当初1軒の住居跡として調査していたが, 2軒の重複であることが分かり, A号住居跡とB号住居跡に分けた。耕作による攪乱が著しく, 残存状況は不良である。

重複関係 本跡は第464B号住居跡を掘り込み, 第2652号土坑の上面を貼床にしていることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 長径10.80m, 短径9.40mの楕円形である。



第569图 第464A·B号住居跡実測图

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は46cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、ロームを床としている。床のほぼ全面が踏み固められている。

炉 ほぼ中央に付設されている。長径2.06m、短径1.20mの楕円形で、深さ13cmの地床炉である。炉床面は火熱により赤変硬化し、赤変硬化はさらに炉の南側まで及んでいる。炉の覆土は5層に分層される。覆土に獣骨片を含んでいることから、覆土を採取し水洗選別を実施した。

伊土層解説

- | | | |
|---|------|-----------------|
| 1 | 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 | 赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 5 | 赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土ブロック中量 |

ピット 25か所。P₁～P₅は炉を中心に掘り、長径56～84cm、短径48～80cmの楕円形で、深さ103～134cmである。P₁～P₅は、規模と配列から5本柱の主柱穴と考えられる。P₆～P₈は、第46B号住居跡との重複部分にあり、配列や覆土による所属の識別はできなかった。

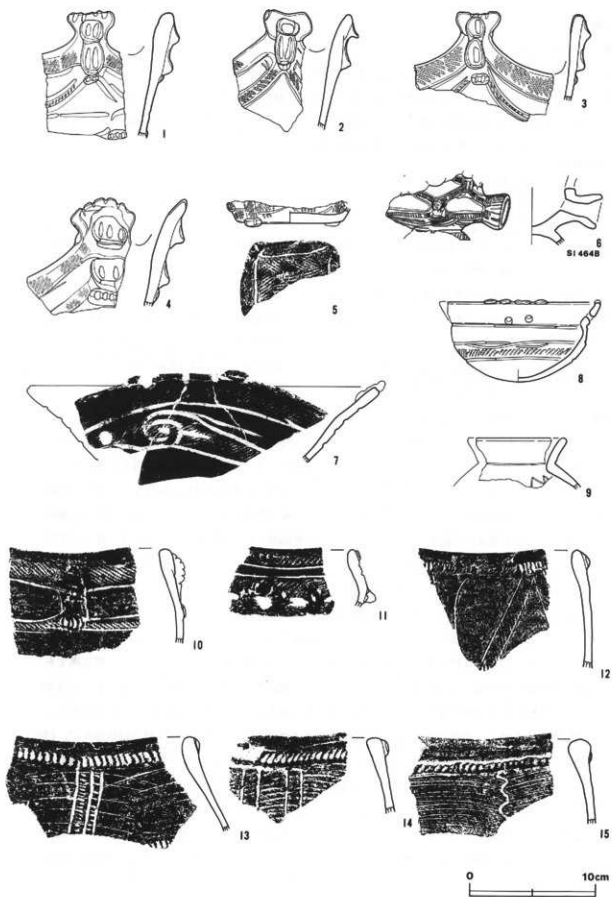
覆土 第1～7層が本跡の覆土で、自然堆積と考えられる。第3層と第7層は、焼土粒子を中量含む層である。

- | | | | | | |
|------|------|---------------|-----|------------------------------------|-----------------------------|
| 土層解説 | | 5 | 暗褐色 | ローム粒子微量、ロームブロック微量、
焼土粒子少量、炭化物少量 | |
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量 | | | |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物少量 | 6 | 暗褐色 | ローム粒子微量、ロームブロック微量、
炭化物少量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物微量 | | | |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 | 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子中量 |

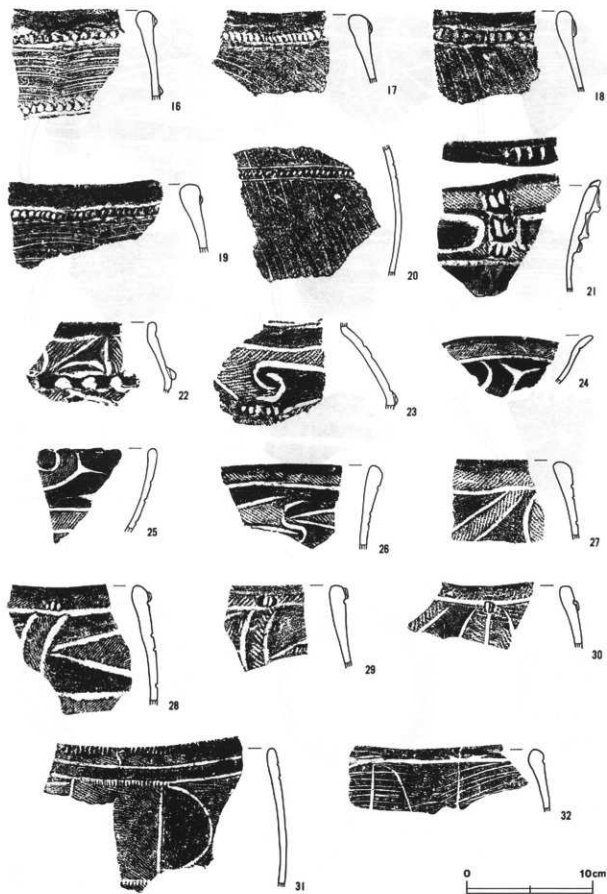
遺物 縄文土器片3970点、土製耳飾り14点、土器片円盤2点、石棒1点、磨石16点、獣骨片が出土している。

1～5、7～55、60～68が本跡の遺物である。1～4は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片、5は角底を呈する鉢の底部片で、覆土から出土している。7は皿の口縁部片、8は口縁部の一部が欠損する鉢、9は壺の口縁部片で、覆土から出土している。10は深鉢の口縁部片で、キザミを有する縦長の貼付文とブタ鼻状の貼付文を施している。11は鉢の口縁部片で、口縁部の下部に凹凸のある隆帯を巡らしている。12～19は粗製深鉢の口縁部片で、20は粗製深鉢の胴部片である。12～19は口唇部直下にキザミあるいは押圧文を有する隆帯を巡らし、条線文を地文に沈線文により文様を描出している。20は条線文を地文とし、刺突文を有する平行沈線文を巡らしている。21は口唇部に貼付文を有する深鉢の口縁部片で、大形のブタ鼻状貼付文を施している。22は鉢の口縁部片で、口縁部の下部に凹凸のある隆帯を巡らしている。23は壺の胴部片で、入り組み弧線文を施している。24・25は浅鉢の口縁部片で、沈線による三叉文を施している。26は深鉢の口縁部片で、沈線により文様を描出している。27～34は粗製深鉢の口縁部片である。27～30は沈線により文様を描出し、単節縄文あるいは無節縄文を充填している。31は沈線により文様を描出し、細密集合沈線文を充填している。32～34は条線文を地文とし、沈線により文様を描出している。35は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で、波頂部直下に大形のブタ鼻状貼付文を施し、沈線による入り組み弧線文を垂下させている。36・37は深鉢の口縁部片で、口唇部に瘤状の貼付文を施している。38は壺の口縁部から胴部の破片で、口唇部に瘤状の貼付文を施し、胴部には陽刻手法の羊歯状文を巡らしている。39は皿の口縁部片、40は広口壺の口縁部片で、口唇部に瘤状の貼付文を施している。41～54は土製耳飾りである。41は断面が1の字状、42～53は断面がくの字状を呈する。54は楕円形の窓が4か所開き、沈線により三叉文を施している。55は石製垂飾り、56は石鎌、59は楔形石器、60は剃片である。57・58・61～67は磨石、68は石棒である。獣骨片は炉内から出土しており、イノシシ臼歯骨が同定されている。

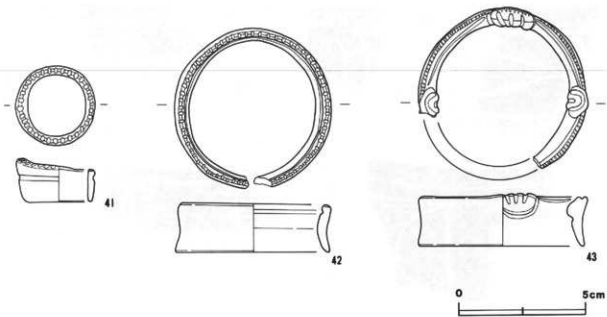
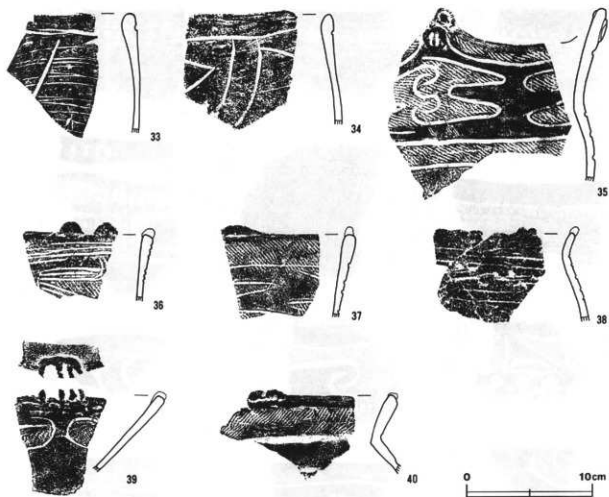
所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代晩期前葉（安行3 a～3 b式期）と考えられる。



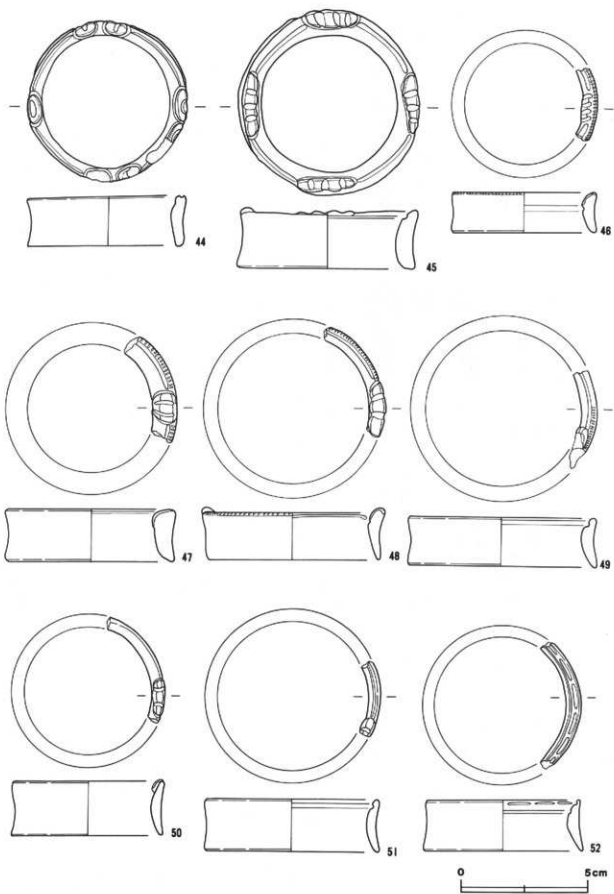
第570图 第464A·B号住居跡出土遺物実測図(1)



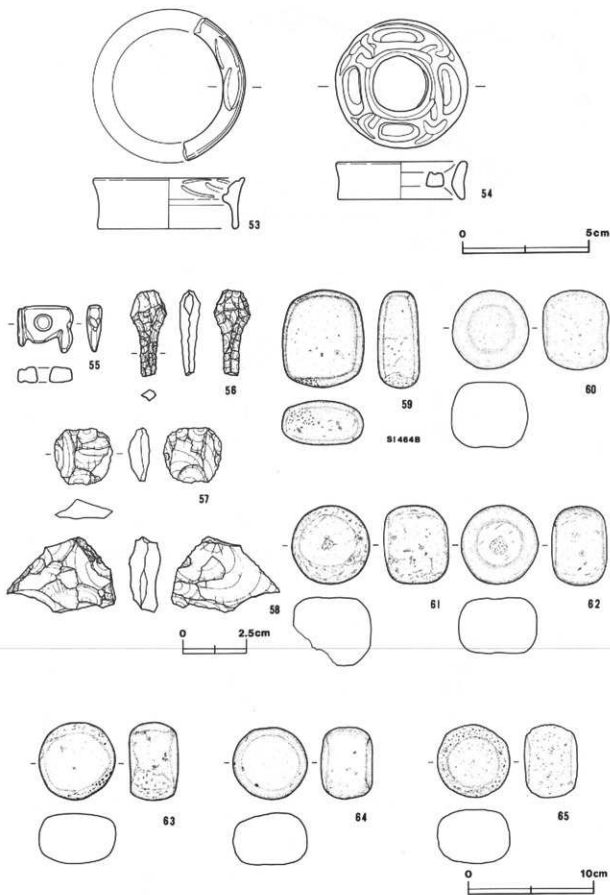
第571图 第464A·B号住居跡出土遺物実測図(2)



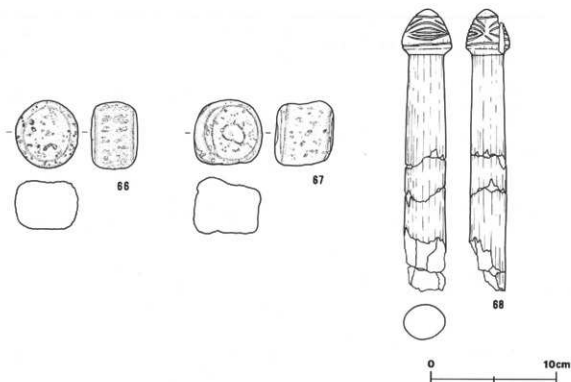
第572图 第464A·B号住居跡出土遺物実測図(3)



第573图 第464A·B号住居跡出土遺物実測図(4)



第574图 第464A·B号住居跡出土遺物実測図(5)



第575図 第464 A・B号住居跡出土遺物実測図(6)

第464 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第575図 1	深鉢 縄文土器	B (10.2)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には魚尾状の突起を有し、その直下に大形のフタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 灰褐色 良好	P52 5% P L84 覆土 安行3 a式
2	深鉢 縄文土器	B (9.5)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には魚尾状の突起を有し、その直下に大形のフタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 ぶい褐色 良好	P53 5% P L84 覆土 安行3 a式
3	深鉢 縄文土器	B (6.6)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には魚尾状の突起を有し、その直下に大形のフタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 ぶい赤褐色 良好	P55 5% P L84 覆土 安行3 a式
4	深鉢 縄文土器	B (8.6)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には魚尾状の突起を有し、その直下に大形のフタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 黒褐色 良好	P54 5% P L84 覆土 安行3 a式
5	鉢 縄文土器	B (2.3) C 6.4	角度を呈する底部片。R1の扉筋縄文を地文とし、角底のコーナー部にはフタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 黒褐色 良好	P51 5% 覆土 安行3 a式
7	浅鉢 縄文土器	A [26.8] B (6.0)	口縁部片。口縁部は外傾する。口縁部はRの扉筋縄文を地文とし、沈線により文様を描出している。口唇部には貼付文を施している。補修孔がある。	砂粒 灰褐色 良好	P57 10% P L84 覆土 安行3 a式
8	鉢 縄文土器	A [12.8] B (6.5)	口縁部の一部欠損。丸底。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部は無文で、口唇部には貼付文が施されている。直下には2孔一組の円孔がある。胴部の沈線間にはRの扉筋縄文を充填している。	砂粒 ぶい黄褐色 良好	P56 60% P L85 覆土 安行3 b式
9	浅鉢 縄文土器	A [7.6] B (4.0)	口縁部から胴部の破片。胴部は内彎し、口縁部は外傾する。口縁部は無文で、胴部には沈線により波状文を施している。	砂粒 褐色 良好	P58 5% 覆土 安行3 b式

調査番号	器 種	計 測 値 (cm)			重量 (g)	保存率 (%)	形状及び文様の特徴	備 考
		径	器高	器厚				
第572341	土製耳飾り	3.2	1.7	0.6	6.4	100	器底が一面であり、器縁が深い。器面にキズを施している。	D P 12 P L 99 覆土
42	土製耳飾り	6.3	1.9	0.4	(21.0)	90	〈の字状の断面形を呈する。器縁にキズを施している。〉	D P 13 覆土 P L 98
43	土製耳飾り	6.7	2.0	0.8	(23.0)	70	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。器縁にキズを施している。〉	D P 14 覆土
第572344	土製耳飾り	6.4	2.0	0.6	(24.0)	90	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。〉	D P 10 P L 98 覆土
45	土製耳飾り	7.4	2.4	0.7	47.0	100	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。〉	D P 9 P L 98 覆土
46	土製耳飾り	(5.6)	1.6	0.5	(3.3)	13	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。器縁にキズを施している。〉	D P 22 覆土
47	土製耳飾り	(6.4)	2.1	0.8	(9.1)	20	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。器縁にキズを施している。〉	D P 19 覆土
48	土製耳飾り	(7.0)	2.1	0.6	(7.0)	25	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。器縁にキズを施している。〉	D P 17 覆土
46	土製耳飾り	(7.4)	2.0	0.6	(4.8)	20	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。器縁にキズを施している。〉	D P 20 覆土
30	土製耳飾り	(6.0)	2.2	0.6	(7.0)	25	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。〉	D P 16 覆土
51	土製耳飾り	(6.8)	2.1	0.5	(3.8)	15	〈の字状の断面形を呈する。キズを有する器口文を有している。〉	D P 21 覆土
32	土製耳飾り	(6.2)	2.0	0.6	(6.6)	25	〈の字状の断面形を呈する。器縁にキズを施している。〉	D P 15 覆土
第574533	土製耳飾り	(6.0)	2.0	0.9	(9.7)	30	〈の字状の断面形を呈する。器縁にキズを施している。〉	D P 18 覆土
54	土製耳飾り	5.2	1.5	1.0	23.0	100	器底や中央に孔があり、器口部の器が厚みある。孔部による三叉文を施している。	D P 11 P L 99 覆土

調査番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)		
第574535	土製耳飾り	1.95	2.2	0.6	3.2	砂質片岩	Q19 覆土 P L 106
56	石 鏝	(3.4)	1.5	0.8	(3.6)	チャート	Q22 覆土
60	磨 石	6.3	6.2	5.2	300	安山岩	Q11 覆土 P L 103
57	磨石石器	2.2	2.3	0.8	4.1	チャート	Q21 覆土 P L 106
38	磨 片	2.6	4.3	1.2	13	チャート	Q20 覆土
41	磨 石	6.3	6.3	5.3	(288)	安山岩	Q14 覆土 P L 103
62	磨 石	6.2	6.3	4.5	294	安山岩	Q12 覆土 P L 103
63	磨 石	6.2	6.1	3.9	219	安山岩	Q13 覆土 P L 103
54	磨 石	5.7	6.9	4.1	206	安山岩	Q15 覆土 P L 104
65	磨 石	5.8	5.8	4.2	167	安山岩	Q16 覆土 P L 104
第575696	磨 石	5.4	5.0	3.8	143	安山岩	Q17 覆土
67	磨 石	5.2	5.4	4.5	135	安山岩	Q18 覆土
68	石 鏝	(22.5)	4.0	2.8	(364)	緑泥片岩	Q23 覆土 P L 106

第464 B号住居跡 (第569・570・574・576区)

位置 調査区の北部、E15g1区。

確認状況 耕作による堆乱が著しく、残存状況は不良である。

重複関係 本跡は第464 A号住居跡に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸11.44m、短軸8.04mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-83°-W

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、ローンを床としている。

炉 確認できなかった。本跡は第464A号住居跡に掘り込まれているため、本跡が炉を有するかどうかは不明である。

ピット 26か所で、P₂₆～P₃₁が本跡のピットである。P₂₆～P₃₁は、長径40～78cm、短径36～72cmの楕円形で、深さ71～163cmである。P₂₈～P₃₂は規模と配列から8本柱の主柱穴と考えられるが、8か所目のピットは確認できなかった。P₃₃～P₃₄の性格は、不明である。

覆土 第8～10層が本跡の覆土で、自然堆積と考えられる。

土層構成

8 暗褐色	ローム粒子微細、炭化物微量	10 褐色	ローム粒子中量、ロームブロック微量
9 褐色	ローム粒子中量		

遺物 第570図6の異形台付土器、第574図5の唐石、第576図1の土偶が本跡の遺物である。第576図1はほぼ完形の土偶で、覆土下層から出土している。

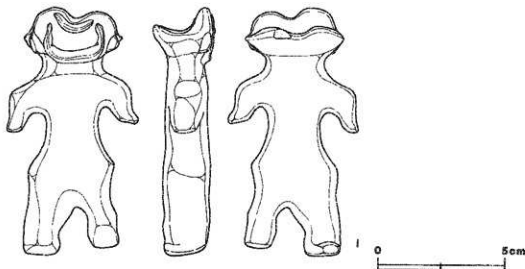
所見 本跡の時期は、重複関係と出土遺物から縄文時代晩期前葉（安行3a式期）と考えられる。

第464B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第570図6	異形台付土器 縄文土器	B (5.2)	胴部から台部の破片。胴部には一時の有孔突起を有する。ケガミを有する隆帯により文様を演出し、隆帯の交点には斜付文を施している。	砂粒 黄褐色 良好	P50 30% P L85 覆土中層 安行2式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第574図5	唐石	7.8	8.5	3.5	286	安山岩	Q10 覆土 P L105

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第576図1	土偶	13.2	6.9	3.2	179	100	胴部はくぼみ、顔はつぶれたハート形を呈する。胴の輪郭は境界により半円形に縁取りするが、口・鼻の表現はない。腹面・背面ともに無文である。	D P 8 P L90 覆土下層



第576図 第464B号住居跡出土遺物実測図

第467号住居跡 (第577図)

位置 調査区の中央部, F14a0区。

確認状況 本跡は第1号墳墓と重複し, 耕作による攪乱が多いため, 残存状況は不良である。

重複関係 本跡は第2661号土坑を掘り込んでいることから, 本跡が新しく, 第1号墳墓の主体部と周溝に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

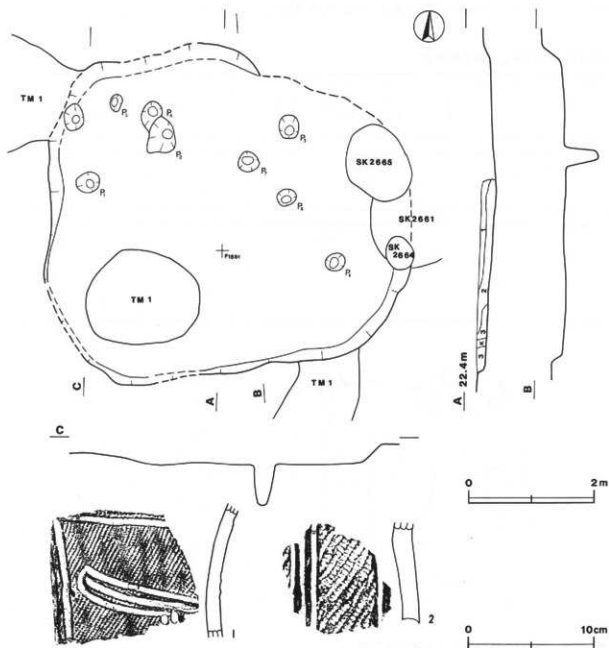
規模と平面形 長径5.74m, 短径5.30mの楕円形である。

長軸方向 N-87°-W

壁 壁高は30cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, ロームを床としている。

炉 炉は確認できなかった。本跡は炉をもたない住居跡の可能性がある。



第577図 第467号住居跡・出土遺物実測図

ピット 8か所。P₁～P₄は床面の北部を弧状に回り、長径32～56cm、短径28～44cmの楕円形で、深さ42～88cmである。P₁～P₄は、規模と配列から主柱穴と考えられる。床面の南部にも弧状に回る主柱穴の存在が考えられるが、攪乱により確認できなかった。P₅～P₈は、長径26～32cm、短径20～32cmの楕円形で、深さ20～98cmである。P₅～P₈の性格は、不明である。

覆土 3層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|----|-------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 縄文土器片69点が覆土から出土している。1は深鉢の胴部片で、R Lの単節縄文を地文とし、沈線により文様を描出している。2は深鉢の胴部片で、R Lの単節縄文を地文とし、沈線による3本一組の懸垂文を施している。

所見 本跡の時期は、重複関係と出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第471号住居跡（第578図）

位置 調査区の北部、F14h6区。

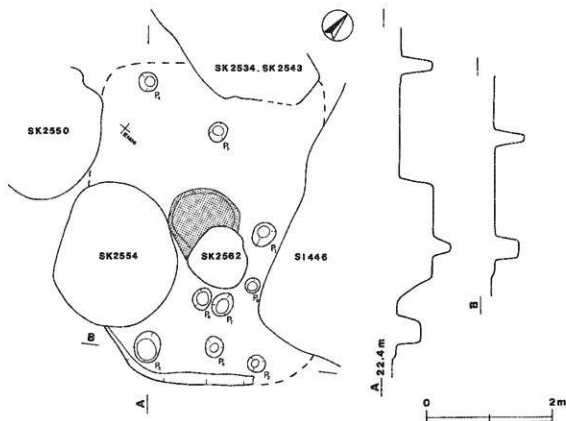
重複関係 本跡は第446号住居跡・第2554・2562号上坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸 [5.10]m、短軸 [3.72]mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-37°-W

壁 南東壁だけが残存している。壁高は6cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、ロームを床としている。



第578図 第471号住居跡実測図

炉 ほは中央に付設され、第2562号土坑に掘り込まれている。径114cmのほは円形と推定され、深さ6cmの地床炉である。炉床面は火熱により赤変硬化している。

ピット 9か所。P₁～P₄は炉を中心に長方形に巡り、長径28～48cm、短径26～42cmの楕円形で、深さ36～50cmである。P₁～P₄は規模と配列から6本柱の主柱穴と考えられるが、他の遺構の重複部分が多いため6本柱の内の2か所は確認できなかった。P₅～P₉は、長径24～40cm、短径22～32cmの楕円形で、深さ12～47cmである。P₅～P₉の性格は、不明である。

遺物 本跡に伴う遺物は出上していない。

所見 本跡の時期は、出土遺物がないたため明確でないが、住居跡の形態から縄文時代中期と考えられる。

第475号住居跡（第579～582図）

位置 調査区の南東部、F16f3区。

確認状況 壁や覆土は確認できなかったが、炉とピットを確認したことから住居跡と判断した。

規模と平面形 主体部は、長径 [5.46]m、短径 [5.16]mの楕円形と推定され、南西側に入出口と考えられる対ピットを有する柄鏡形である。

主軸方向 N-22°-E

炉 長径118cm、短径92cmの楕円形で、深さ14cmの地床炉である。炉床面の北東部にはピットを有する。ピットは長径41cm、短径34cmの楕円形で、深さ68cmである。ピットの壁面及び炉床面は火熱により赤変硬化している。炉の覆土は6層に分層される。

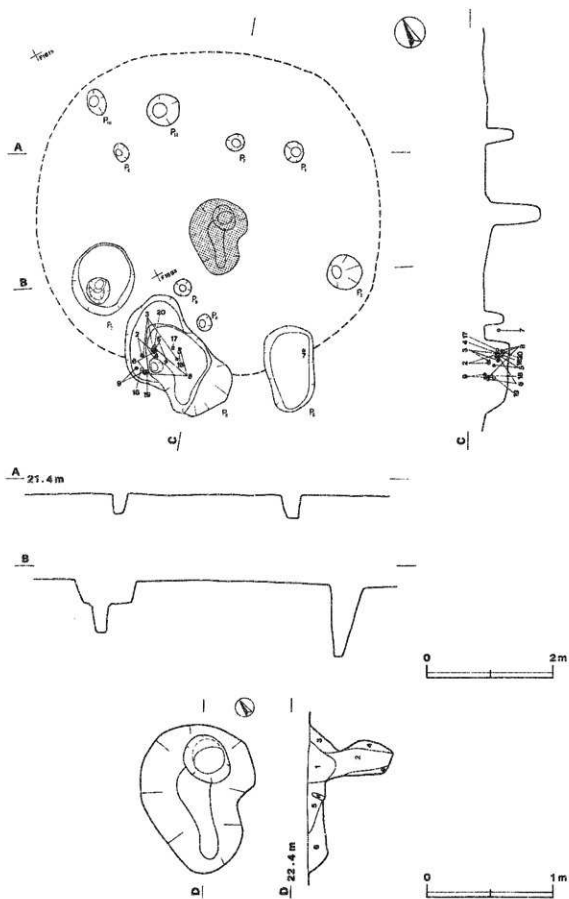
土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物微量、骨片微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物微量、骨片微量、1層より色調が明るい
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化物微量、骨片微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック中量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック中量
- 6 に近い赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

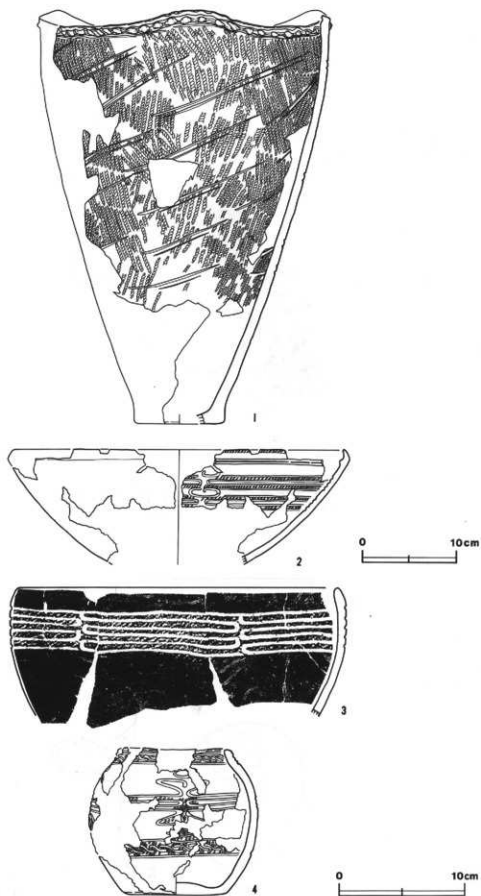
ピット 11か所。P₁～P₄は、炉を中心に台形状に巡る。P₁とP₂は、長径30cmと34cm、短径22cmと30cmの楕円形で、深さ32cmと36cmである。P₃とP₄は、長径56cmと114cm、短径52cmと98cmの楕円形で、深さはいずれも112cmである。P₁～P₄は規模と配列から4本柱の主柱穴と考えられる。P₅は、長径116cm、短径78cmの楕円形で、深さ46cmである。P₆は、長径202cm、短径120cmの楕円形で、二段に掘り込まれ、下段までの深さ34cmである。P₅・P₆は、出入り口と考えられる対ピットである。P₇～P₁₁は、長径24～54cm、短径22～50cmの楕円形で、深さ28～70cmである。P₇～P₁₁の性格は、不明である。

遺物 縄文土器片110点、石棒1点、敲石2点、磨石2点、浮子1点、P₅・P₆の覆土から出土している。1は3単位の波状口縁を呈する深鉢の口縁部から底部の破片、2は浅鉢の口縁部から胴部の破片、3は鉢の口縁部片、4は口縁部と胴部の一部を欠損する壺、5は粗製深鉢の口縁部から胴部片で、P₆の覆土上層から出土している。6は平底の鉢、7・8は丸底の鉢で、6・8はP₆の覆土上層から、7はP₅の覆土から出土している。9は無文の深鉢である。10・11は鉢の口縁部片で、LRの単節縄文を地文としている。12～15は粗製深鉢の口縁部片で、12・13は押圧文を有する隆帯を口唇部直下に巡らしている。16は浮子、17は磨石である。18・19は敲石、20は石棒で、P₆の覆土下層から出土している。

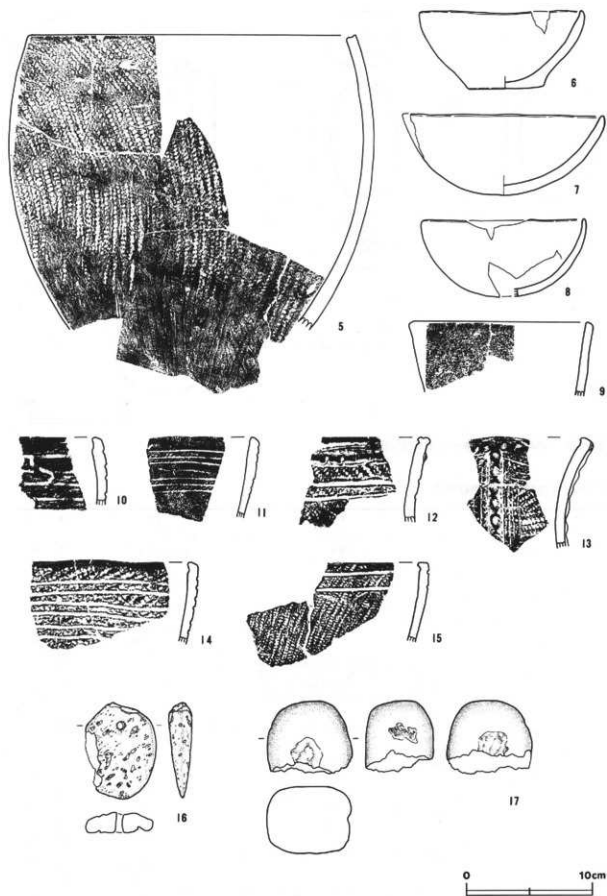
所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期中葉（加曾利B1式期）と考えられる。



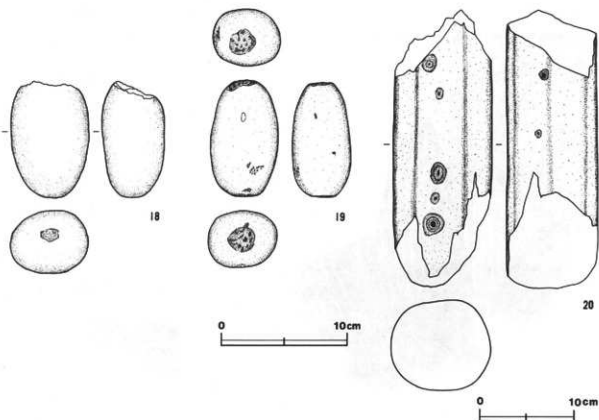
第579图 第475号住居跡实测图



第580图 第475号住居跡出土遺物実測図(1)



第581图 第475号住居跡出土遺物実測図(2)



第582図 第475号住居跡出土遺物実測図(3)

第475号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第580図 1	深鉢 縄文土器	A (29.0)	口縁部から底部まで一部欠損。外傾して立ち上がり、口縁部は3単位の波状口縁を呈し、わずかに内彎する。R Lの単節縄文を地文とし、手数竹管による平行沈線文を施している。	砂粒 黒褐色 普通	P 67 50% P L 85 P・覆土上層 加蓋判B 1式
		B 44.0			
		C (9.4)			
2	浅鉢 縄文土器	A (34.8)	口縁部から胴部の破片。外傾して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。外面は無文で、内面は沈線文間にキザミを施している。区切り文は沈線によるの字文である。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 66 15% P L 85 P・覆土上層 加蓋判B 1式
		B (12.2)			
3	鉢 縄文土器	A (25.4)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。Lの無節縄文を地文とし、沈線文を施している。	砂粒 明赤褐色 良好	P 64 20% P L 85 P・覆土上層 加蓋判B 1式
		B (10.2)			
4	壺 縄文土器	A (8.5)	胴部一部欠損。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。L Rの単節縄文を地文とし、口縁部と胴部には沈線間に逆S字状の沈線文を連続して施している。胴部にはの字文を4単位施している。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 65 80% P L 85 P・覆土上層 加蓋判B 1式
		B 11.6			
		C 8.2			
第581図 5	鉢 縄文土器	A (26.0)	口縁部から胴部の破片。口縁部は内彎する。R Lの単節縄文を施している。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 68 30% P・覆土上層 加蓋判B 1式
		B (24.6)			
6	鉢 縄文土器	A 13.0	口縁部一部欠損。平底で、口縁部はわずかに内彎する。無文。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 69 95% P L 85 P・覆土上層 加蓋判B 1式
		B 6.3			
		C 6.0			
7	鉢 縄文土器	A 16.0	口縁部一部欠損。丸底で、口縁部はわずかに内彎する。無文。	砂粒 黒褐色 普通	P 70 70% P L 85 P・覆土 加蓋判B 1式
		B 6.6			
8	鉢 縄文土器	A (13.4)	口縁部から底部の破片。丸底で、口縁部はわずかに内彎する。無文。	砂粒 明赤褐色 普通	P 71 50% P L 84 P・覆土上層 加蓋判B 1式
		B 6.4			
9	深鉢 縄文土器	A (13.4)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。無文。	砂粒 黒褐色 普通	P 72 50% P・覆土上層 加蓋判B 1式
		B (6.0)			

採取番号	部 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第581図16	浮子	7.6	5.6	1.0	(5.3)	緑 石	Q28 覆土 P L106
17	礎石	(5.8)	6.7	5.5	307	安山岩	Q27 覆土
第582図18	礎石	(9.2)	6.2	5.0	418	安山岩	Q25 覆土 P L103
19	礎石	9.2	5.5	4.9	338	安山岩	Q26 覆土 P L103
20	石 輪	(29.3)	10.6	9.6	(5450)	緑泥片岩	Q24 覆土

第476号住居跡 (第583図)

位置 調査区の北東部, F15b0区。

確認状況 本跡の北東部は調査区域外となり, 南西部のみを確認した。

重複関係 本跡は第2753号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 径 [4.40]mのはは円形と推定される。

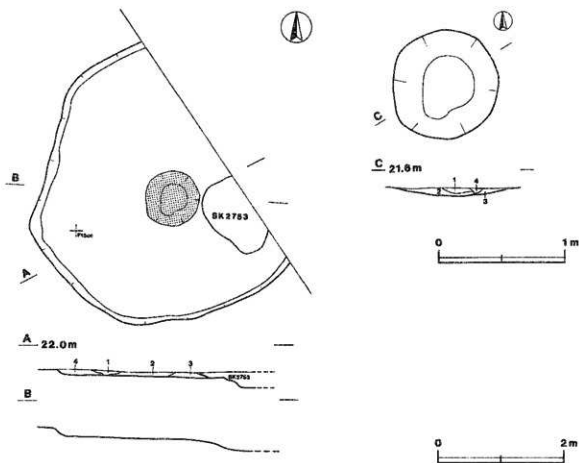
壁 壁高は8cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, ロームを床としている。

炉 はほぼ中央に付設されている。径88cmの円形で, 深さ6cmの地床炉である。炉の覆土は3層に分層される。

炉土層構成

- 1 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 3 灰褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量



第583図 第476号住居跡実測図

覆土 4層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少減
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子中量、炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態と覆土が縄文時代中期のものと類似していることから縄文時代中期と考えられる。

第477号住居跡（第584・585図）

位置 調査区の中央部，F14a4区。

確認状況 壁や覆土は残存していないが、炉とピットを確認したことから住居跡と判断した。

規模と平面形 長径〔7.06〕m，短径〔5.60〕mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-36°-W

炉 ほほ中央に付設されている。長径92cm，短径58cmの不整楕円形で、深鉢の底部から胴部片を埋設した土器埋設炉である。埋設土器片内の覆土は1層である。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量

ピット 11か所。P₁～P₁₀は炉を中心に楕円形に巡り、径22～54cmのはほぼ円形で、深さ17～76cmである。P₁～P₁₀は壁柱穴と考えられる。P₁₁は、長径36cm，短径32cmの楕円形で、深さ60cmである。P₁₁の性格は、不明である。

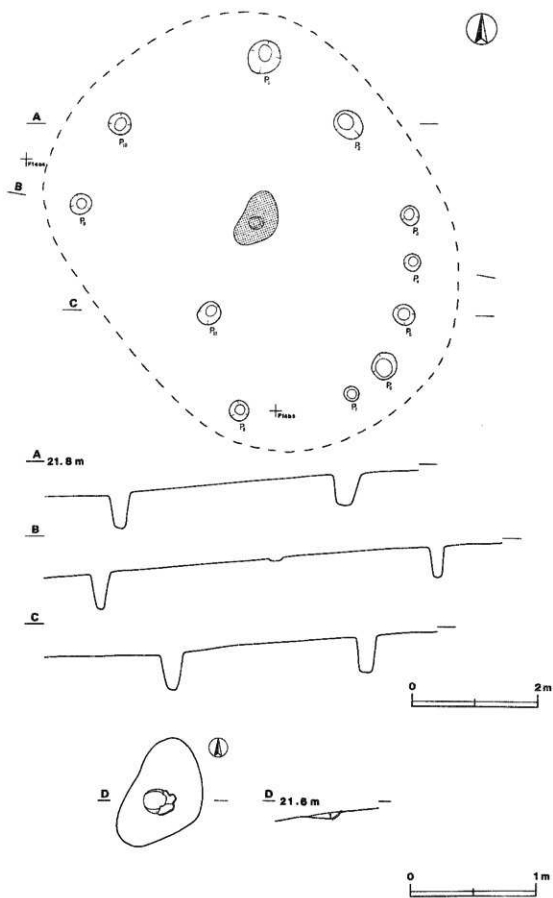
遺物 縄文土器片10点，石核1点が出土している。1は深鉢の底部から胴部片で、炉埋設土器である。2は石核で、本跡の遺構確認面から出土しているが、本跡に伴うかどうかは不明である。

所見 本跡の時期は、炉の埋設土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅠ～Ⅱ式期）と考えられる。

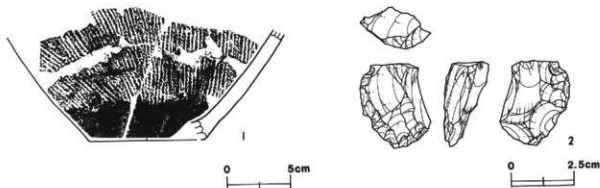
第477号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第585図 1	深鉢 縄文土器	B〔8.3〕 C〔9.4〕	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。焼糸文を施している。	砂粒 褐色 普通	P73 10% 覆土 加曾利E式

図版番号	器種	計測値				材質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第585図1	石核	3.4	2.8	1.8	14	チャート	Q29 覆土



第584图 第477号住居踏实测图



第585図 第477号住居跡出土遺物実測図

表17 前田村遺跡 I 区縄文時代住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設				礎石	出土遺物	時期	備考 (産物関係)	
							竪溝	柱穴	穴入口	竪堀					
441	F14a	S-87°-W	隅丸長方形	4.90 × 1.90	12	平版	-	2	-	-	自然	漆器	9世紀	S K 2548・2号 5 K 2542土重履	
446	F14a	S-20°-W	隅丸長方形	5.90 × 4.02	24	平版	一部	6	6	-	-	自然	漆器	9世紀	SK2602・2号 SK671・25485土重履
447	F14a	S-50°-W	楕円形	5.24 × 4.02	8	平版	-	4	4	-	1	自然	漆器	9世紀	SK2550・2543・2号新 1号集石・2号古
448	E14a	S-2°-E	隅丸長方形	5.00 × 3.85	42	平版	-	(5)	-	-	1	自然	漆器	加藤博士	S K 2568・2571・2号古
450	E14a	S-2°-E	楕円形	5.20 × 4.30	48	平版	-	(4)	2	-	1	自然	漆器	9世紀	S K 2572・2600・2号古
451	E14a	S-8°-W	楕円形	5.76 × 2.88	36	平版	-	(2)	-	-	-	自然	漆器	9世紀	SK2582・2593・2号古 4号中層土重履
452	F14a	S-20°-W	[円形]	3.82 × 3.80	-	-	-	6	-	-	1	-	漆器	加藤博士	
454	F14a	S-6°-E	[円形]	径3.82	40	平版	-	-	-	-	-	自然	漆器	加藤博士	西側は隣接区域内
456	E14a	S-25°-E	[楕円形]	4.02 × 4.52	8	平版	-	(1)	-	-	-	自然	漆器	9世紀	S K 2589・2590・2529・2号古
457	F14a	S-78°-E	[楕円形]	3.50 × 4.30	8	平版	-	1	-	-	1	自然	漆器	編2号	
458	E14a	S-2°-E	[楕円形]	5.24 × 4.76	-	平版	-	4	6	-	1	-	漆器	編2号	
463	E15a	S-30°-W	隅丸長方形	11.10 × 7.54	14	平版	-	4	20	-	-	-	漆器・土器	加藤博士	
464A	E15a	S-30°-W	楕円形	10.00 × 9.40	46	平版	-	5	(20)	-	1	自然	漆器・土器	加藤博士	SK648・SK652・2号新 SK653土重履
464B	E15a	S-87°-W	隅丸長方形	11.44 × 8.34	30	平版	-	(7)	(19)	-	-	自然	漆器・土器	加藤博士	S 1464A・2号古
467	F14a	S-87°-W	楕円形	5.74 × 5.30	30	平版	-	(4)	4	-	-	自然	漆器	加藤博士	S K 2601・1号中層土重履
471	F14a	S-20°-W	[隅丸長方形]	5.10 × 3.72	6	平版	-	(4)	5	-	1	自然	漆器	9世紀	S K 2582・2号古 S 1468土重履
475	F14a	S-20°-E	[楕円形]	5.46 × 5.16	-	平版	-	4	5	1	1	自然	漆器・土器	加藤博士	出入1390列ビッド土重履
476	F15a	-	[円形]	径3.40	8	平版	-	-	-	-	1	自然	漆器	9世紀	S K 2753・2号古
477	F14a	S-30°-W	[楕円形]	7.00 × 5.00	-	平版	-	11	-	-	1	-	漆器	加藤博士	1-1

茨城県教育財団文化財調査報告第146集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4

前田村遺跡 G・H・I区
(中 巻)

平成11(1999)年3月16日 印刷
平成11(1999)年3月19日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
TEL 029-225-6587
印刷 野沢印刷株式会社
TEL 029-248-0117

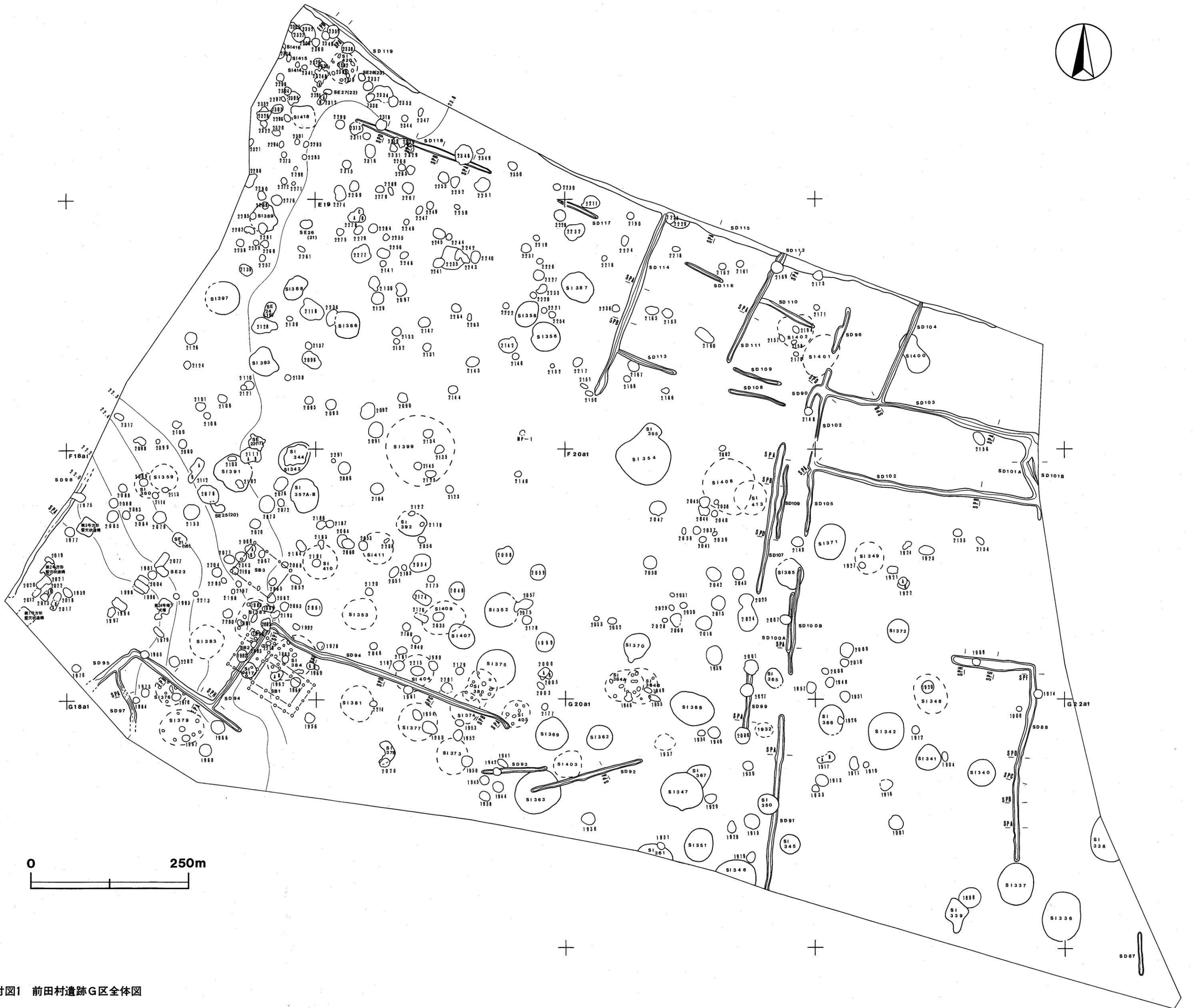
茨城県教育財団文化財調査報告第146集

付 図

前田村遺跡G区全体図

前田村遺跡H区全体図

前田村遺跡I区全体図



付図1 前田村遺跡G区全体図

00603030



付図2 前田村遺跡H区全体図

00603030



付図3 前田村遺跡I区全体図

00603030

